

広島市安全なまちづくりに関する
市民アンケート調査
報 告 書

令和7年3月

広島市市民局市民安全推進課

目 次

I 調査の概要	3
1 調査目的	3
2 調査の方法	3
3 回収状況	3
4 報告書の見方	3
II 調査結果	7
1 回答者の属性について	7
2 広島市における安全なまちづくり全体について	9
問5 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる事	9
問6 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所	14
問7 地域の治安状況	17
問8 以前と比べた地域の治安状況	20
問7、問8 以前の治安状況と現在の治安状況	21
問9 地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由	25
問10 地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由	28
問11 治安に対する安心感に変化がない原因	31
問12 犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事	33
問13 迷惑と感じた回数の変化	38
問14 安全で安心して暮らしていくために強化されればよいと思う取組	41
問15 犯罪被害にあわないために心がけていること	43
3 広島市における個々の施策の取組などについて	45
問16 知っている施策の取組	45
問17 安全なまちづくりに関する活動の認知度	48
問18 犯罪や防犯に関する情報入手媒体	51
問19 インターネット上でトラブルに巻き込まれた経験の有無	55
問20 インターネット上で巻き込まれたトラブルの内容	56
問21 犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先	58
問22 特殊詐欺の被害にあわないためにとっている対策	61
問23 高齢者が特殊詐欺の被害にあわないために行政や警察が行う有効な取組	64
問24 SNS型投資・ロマンス詐欺の被害にあわないための対策の認知状況	66
問25 SNS型投資・ロマンス詐欺への対策を知った方法	68
問26 自転車盗難を防ぐために行っている取組	69
問27 防犯活動への取り組みの有無	70

問28	取り組んだことがある防犯活動の内容	73
問29	防犯活動の成果	76
問30	防犯活動の課題	77
問31	防犯活動に取り組んだことがない理由	78
問32	こどもの安全対策として強化が必要だと思う行政や警察の取組	81
問33	地域や個人で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援	82
問34	防犯カメラの設置に関する意向	83
問35	防犯カメラで撮影されることに対する不安感の有無	85
問36	流川・薬研堀地区の印象	86
問37	犯罪被害者のための相談窓口の認知度	88
問38	知っている相談窓口	89
問39	再犯防止のためには「誰一人取り残さない」社会の実現が大切だと思うか	90
問40	犯罪をした人たちへの立ち直りに協力したいか	92
問41	再犯防止のために必要だと思うこと	94

Ⅲ 自由意見（意見総数305件より抜粋） 99

1	行政への意見・要望について	99
2	安心・安全に関する意見について	101
3	地域や町内に対する意見について	102
4	モラルやマナーについて	102
5	防犯教育について	103
6	防犯意識について	103
7	その他の意見について	104

I 調 査 の 概 要

I 調査の概要

1 調査目的

犯罪の起こりにくい安全なまちをめざして、治安に対する意識や安全・安心なまちづくりに対する意見、要望を把握し、「第4次広島市安全なまちづくりの推進に関する基本計画」改定の施策展開の基礎資料とするため調査を実施した。

2 調査の方法

(1) 調査対象

広島市にお住まいの18歳以上の方の中から3,000人を無作為抽出

(2) 調査方法

郵送配布、郵送・WEB回収

(3) 調査時期

令和6年12月11日（水）～令和7年2月7日（金）

3 回収状況

(1) 調査票配布数 3,000票

(2) 有効回収数 1,348票 有効回収率 44.9%

4 報告書の見方

(1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。

(2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。

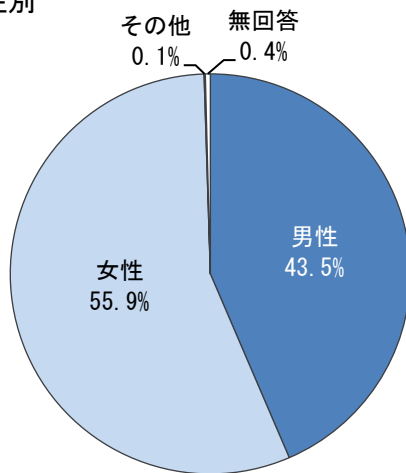
(3) 回答者数20人以下の回答傾向は記述しないこととする。

Ⅱ 調 査 結 果

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性について

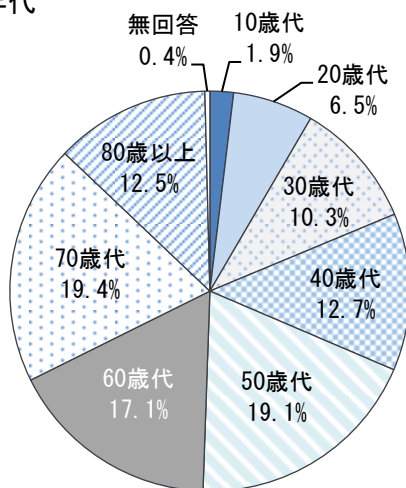
(1) 性別



(n=1,348)

	人数	(%)
男性	587	43.5
女性	754	55.9
その他	1	0.1
無回答	6	0.4
合 計	1,348	100.0

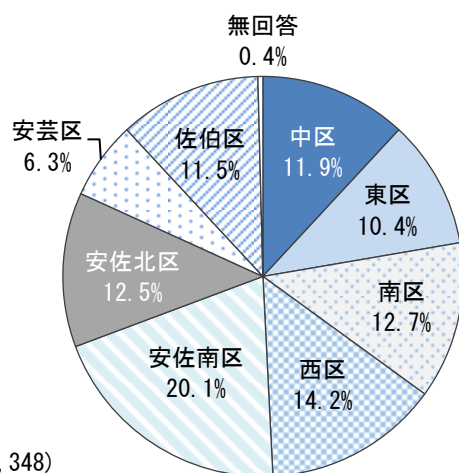
(2) 年代



(n=1,348)

	人数	(%)
10歳代	26	1.9
20歳代	88	6.5
30歳代	139	10.3
40歳代	171	12.7
50歳代	257	19.1
60歳代	231	17.1
70歳代	262	19.4
80歳以上	168	12.5
無回答	6	0.4
合 計	1,348	100.0

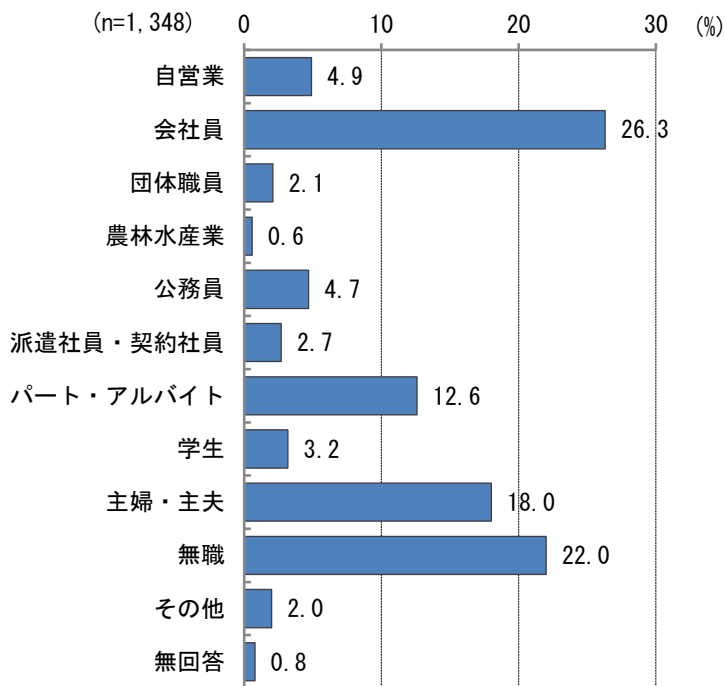
(3) 居住地区



(n=1,348)

	人数	(%)
中区	160	11.9
東区	140	10.4
南区	171	12.7
西区	191	14.2
安佐南区	271	20.1
安佐北区	169	12.5
安芸区	85	6.3
佐伯区	155	11.5
無回答	6	0.4
合 計	1,348	100.0

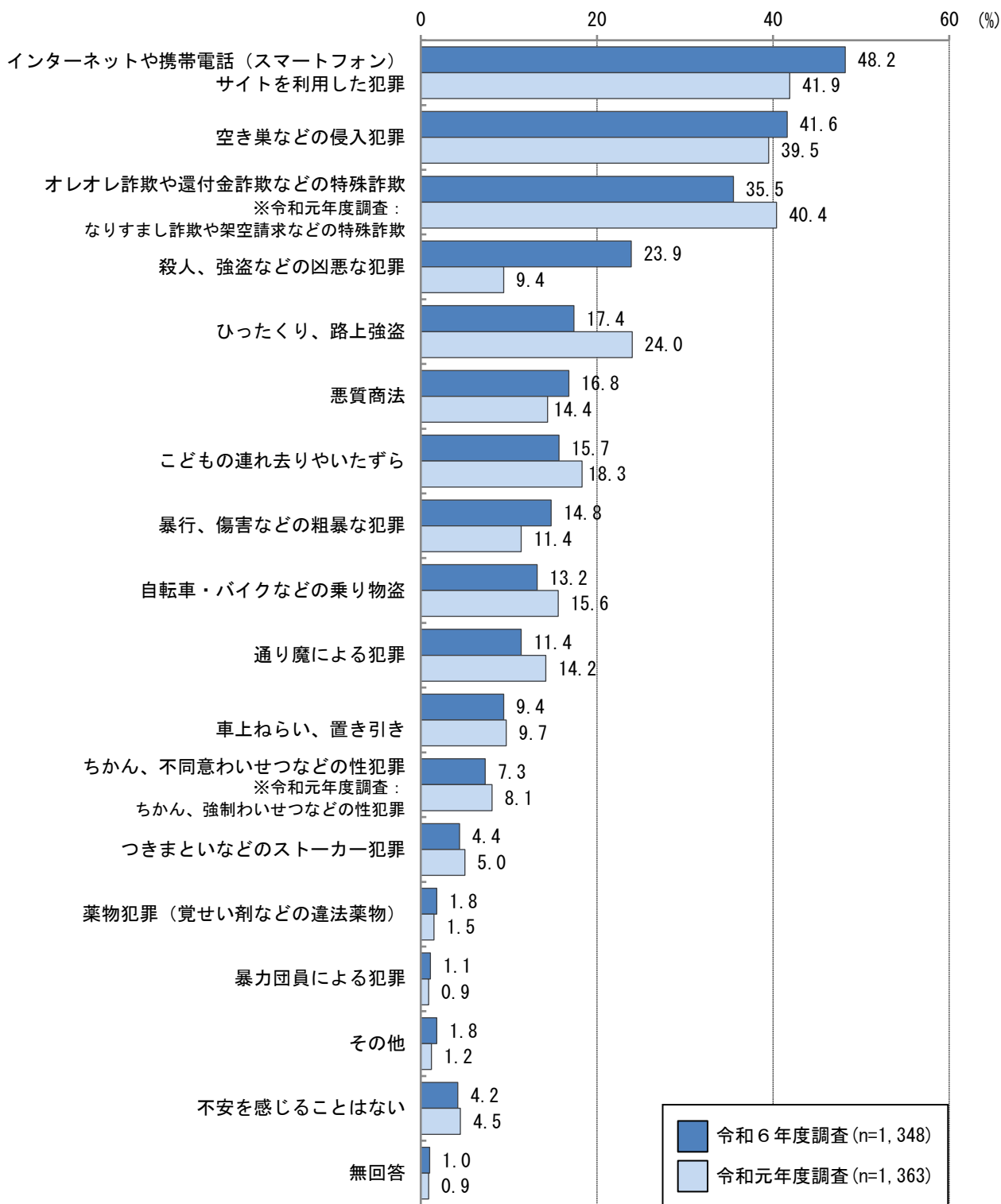
(4) 職業



	人数	(%)
自営業	66	4.9
会社員（会社役員等を含む）	355	26.3
団体職員	28	2.1
農林水産業	8	0.6
公務員	64	4.7
派遣社員・契約社員	36	2.7
パート・アルバイト	170	12.6
学生	43	3.2
主婦・主夫	243	18.0
無職	297	22.0
その他	27	2.0
無回答	11	0.8
合 計	1,348	100.0

2 広島市における安全なまちづくり全体について

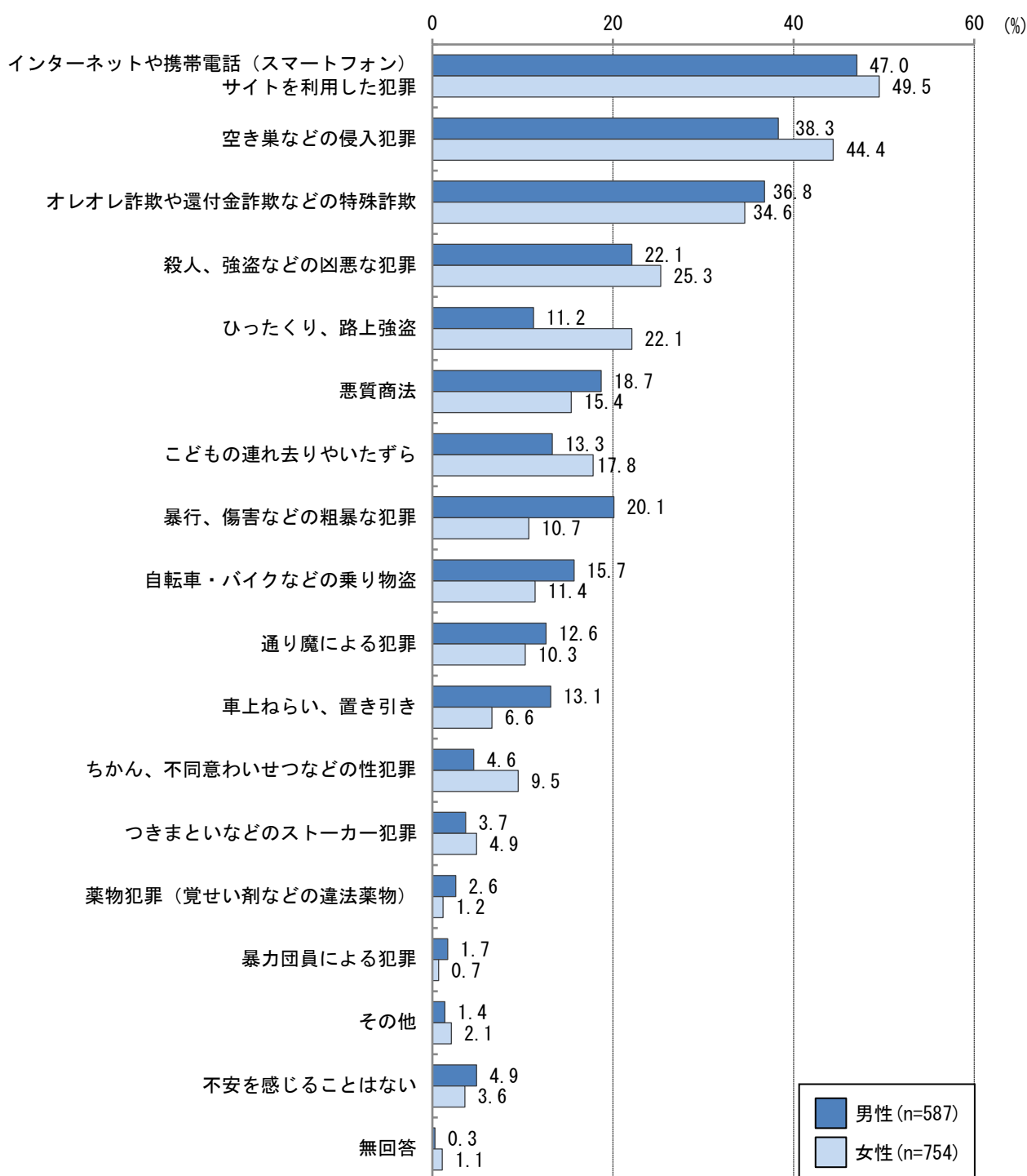
問5 あなたが、日常生活において、自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと、不安を感じることは何ですか。(〇は、3つ以内)



自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じることにについて、「インターネットや携帯電話（スマートフォン）サイトを利用した犯罪」との回答が 48.2%と最も高く、次いで「空き巣などの侵入犯罪」（41.6%）、「オレオレ詐欺や還付金詐欺などの特殊詐欺」（35.5%）などの順となっている。

経年比較すると、「インターネットや携帯電話（スマートフォン）サイトを利用した犯罪」との回答は 6.3 ポイント、「殺人、強盗などの凶悪な犯罪」との回答は 14.5 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「ひったくり、路上強盗」との回答は 6.6 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じること（性別）】



性別にみると、「暴行、傷害などの粗暴な犯罪」との回答は男性（20.1%）が女性（10.7%）を9.4ポイント、「車上ねらい、置き引き」との回答は男性（13.1%）が女性（6.6%）を6.5ポイント上回っている。一方、「空き巣などの侵入犯罪」との回答は女性（44.4%）が男性（38.3%）を6.1ポイント、「ひったくり、路上強盗」との回答は女性（22.1%）が男性（11.2%）を10.9ポイント上回っている。

【自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じること（年代別）】

(%)

	件数	インターネットや携帯電話（スマートフォン）サイトを利用した犯罪	空き巣などの侵入犯罪	オレオレ詐欺などの特殊詐欺	殺人、強盗などの凶悪な犯罪	ひったくり、路上強盗	悪質商法	こどもの連れ去りやいたずら	暴行、傷害などの粗暴な犯罪
全体	1,348	48.2	41.6	35.5	23.9	17.4	16.8	15.7	14.8
年代別	10歳代	26	50.0	15.4	7.7	23.1	－	11.5	7.7
	20歳代	88	58.0	21.6	13.6	28.4	11.4	6.8	17.0
	30歳代	139	51.1	36.7	12.9	22.3	12.9	5.8	11.5
	40歳代	171	51.5	35.7	27.5	17.0	11.1	12.3	19.9
	50歳代	257	52.5	40.9	37.0	23.0	20.2	14.8	10.9
	60歳代	231	58.9	42.9	43.7	26.0	21.2	19.0	9.1
	70歳代	262	43.5	53.1	46.9	24.0	19.5	26.0	6.1
	80歳以上	168	25.0	49.4	47.6	29.2	20.8	22.6	3.0

※選択肢が8項目以上のものは上位8位まで掲載（表形式のものは以下同様）

年代別にみると、「空き巣などの侵入犯罪」、「オレオレ詐欺や還付金詐欺などの特殊詐欺」との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。また、「こどもの連れ去りやいたずら」との回答は30歳代で約5割、40歳代で3割台後半と他の年代と比べ高く、「インターネットや携帯電話（スマートフォン）サイトを利用した犯罪」との回答は80歳以上で2割台半ばと他の年代と比べ低くなっている。

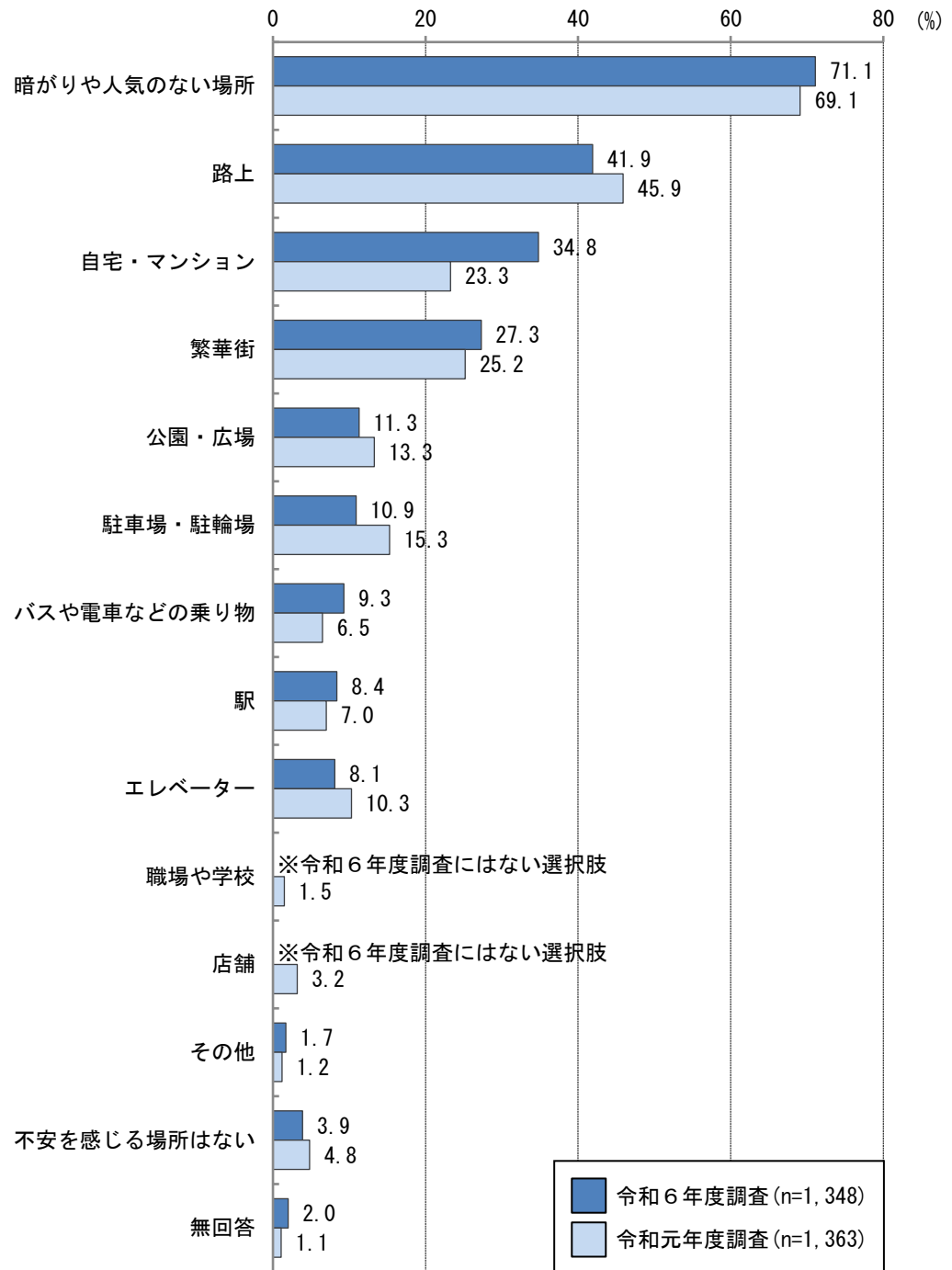
【自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じること（居住地区別）】

(%)

		件数	インターネットや携帯電話（スマートフォン）を利用した犯罪	空き巣などの侵入犯罪	オレオレ詐欺や還付金詐欺などの特殊詐欺	殺人、強盗などの凶悪な犯罪	ひったくり、路上強盗	悪質商法	こどもの連れ去りやいたずら	暴行、傷害などの粗暴な犯罪
全体		1,348	48.2	41.6	35.5	23.9	17.4	16.8	15.7	14.8
居住地区別	中区	160	43.1	33.8	36.9	23.8	22.5	18.1	15.6	16.9
	東区	140	48.6	40.0	30.7	16.4	15.7	17.9	17.1	17.1
	南区	171	46.8	39.2	37.4	26.9	21.1	13.5	13.5	9.9
	西区	191	51.8	34.6	35.1	30.4	19.9	15.7	12.0	17.8
	安佐南区	271	51.7	43.5	33.9	22.5	15.9	16.6	17.7	13.7
	安佐北区	169	39.1	49.7	37.9	23.7	11.2	18.3	15.4	14.2
	安芸区	85	51.8	45.9	40.0	21.2	11.8	17.6	16.5	11.8
	佐伯区	155	54.2	49.0	35.5	24.5	18.7	18.1	18.1	17.4

居住地区別にみると、「空き巣などの侵入犯罪」との回答は安佐北区、佐伯区で約5割、「殺人、強盗などの凶悪な犯罪」との回答は西区で3割台前半と他の居住地区と比べ高くなっている。

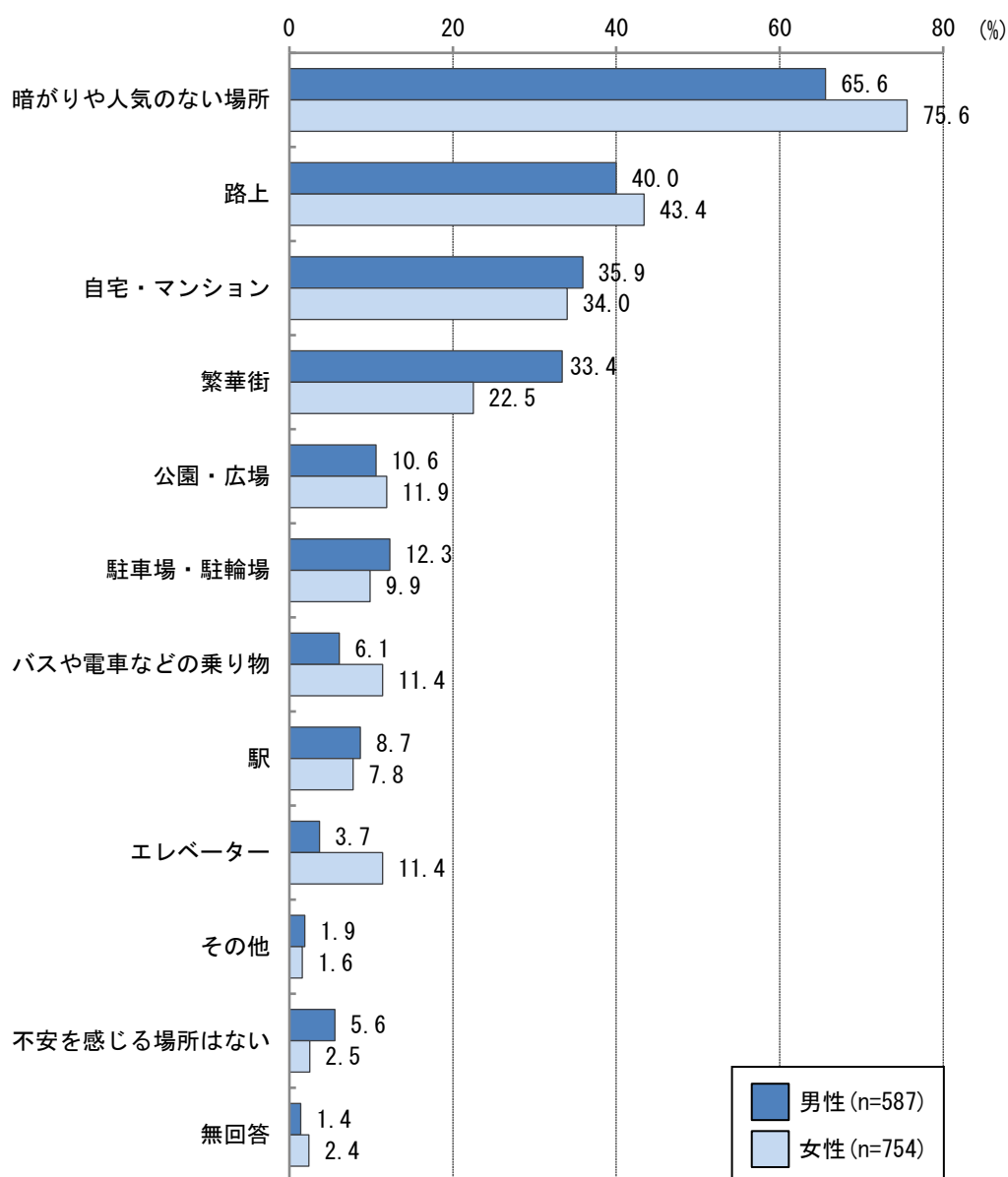
問6 あなたが、日常生活において、自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと、不安を感じる場所はどこですか。(〇は、3つ以内)



自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所について、「暗がりや人気のない場所」との回答が71.1%と最も高く、次いで「路上」(41.9%)、「自宅・マンション」(34.8%)などの順となっている。

経年比較すると、「自宅・マンション」との回答は11.5ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

【自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所（性別）】



性別にみると、「繁華街」との回答は男性（33.4%）が女性（22.5%）を10.9ポイント上回っている。一方、「暗がりや人気のない場所」との回答は女性（75.6%）が男性（65.6%）を10.0ポイント、「バスや電車などの乗り物」との回答は女性（11.4%）が男性（6.1%）を5.3ポイント、「エレベーター」との回答は女性（11.4%）が男性（3.7%）を7.7ポイント上回っている。

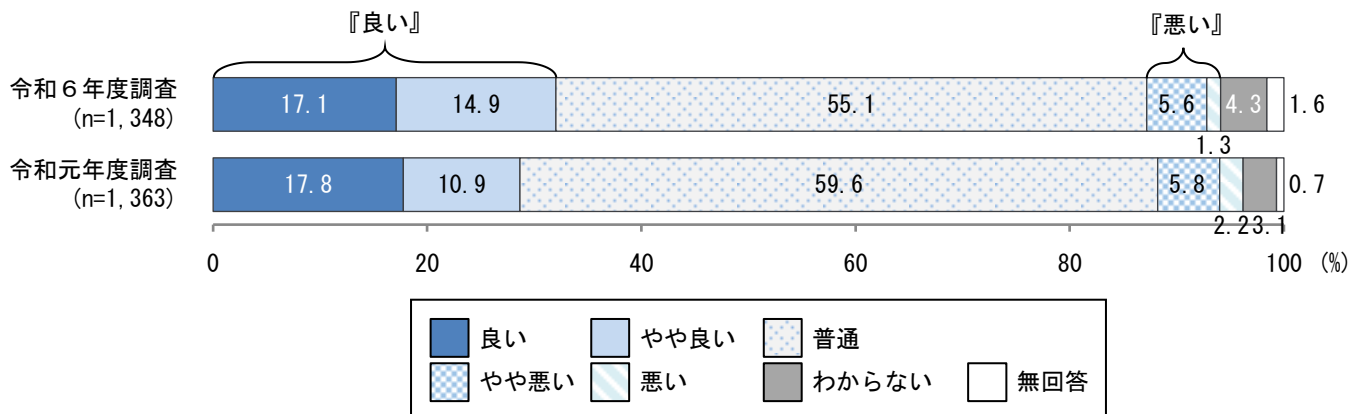
【自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所（居住地区別）】

(%)

	件数	所 暗がりや人気のない場	路上	自宅・マンション	繁華街	公園・広場	駐車場・駐輪場	物 バスや電車などの乗り	駅
全体	1,348	71.1	41.9	34.8	27.3	11.3	10.9	9.3	8.4
居住地区別	中区	160	66.9	45.6	33.8	33.8	15.0	13.1	8.8
	東区	140	68.6	45.0	35.7	24.3	12.1	15.0	5.7
	南区	171	70.2	42.7	35.7	25.1	8.2	7.6	7.0
	西区	191	72.3	48.2	28.8	32.5	8.9	10.5	9.4
	安佐南区	271	77.1	36.2	35.1	24.4	10.7	12.2	11.8
	安佐北区	169	67.5	34.9	39.1	23.1	11.2	8.9	8.3
	安芸区	85	75.3	45.9	32.9	30.6	9.4	4.7	12.9
	佐伯区	155	70.3	42.6	37.4	26.5	14.8	12.9	9.7

居住地区別にみると、「暗がりや人気のない場所」との回答は安佐南区、安芸区で7割台後半、「駅」との回答は安芸区、佐伯区で1割台と他の居住地区と比べ高く、「路上」との回答は安佐南区、安佐北区で3割台と他の居住地区と比べ低くなっている。

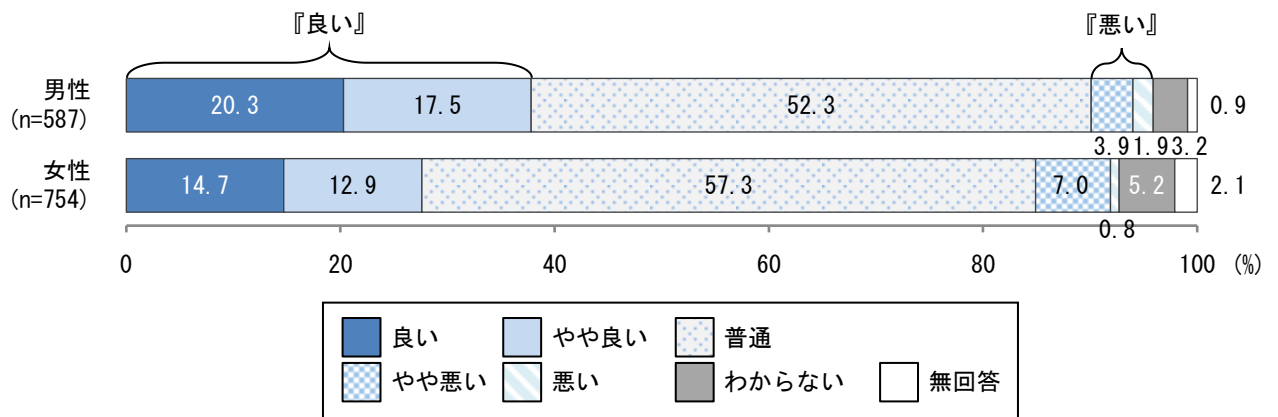
問7 あなたは、お住まいの地域の治安についてどう感じていますか。(〇は、1つ)



地域の治安状況について、『良い』（「良い」と「やや良い」を合計した割合）との回答が32.0%、「普通」との回答が55.1%、『悪い』（「悪い」と「やや悪い」を合計した割合）との回答が6.9%、「わからない」との回答が4.3%となっている。

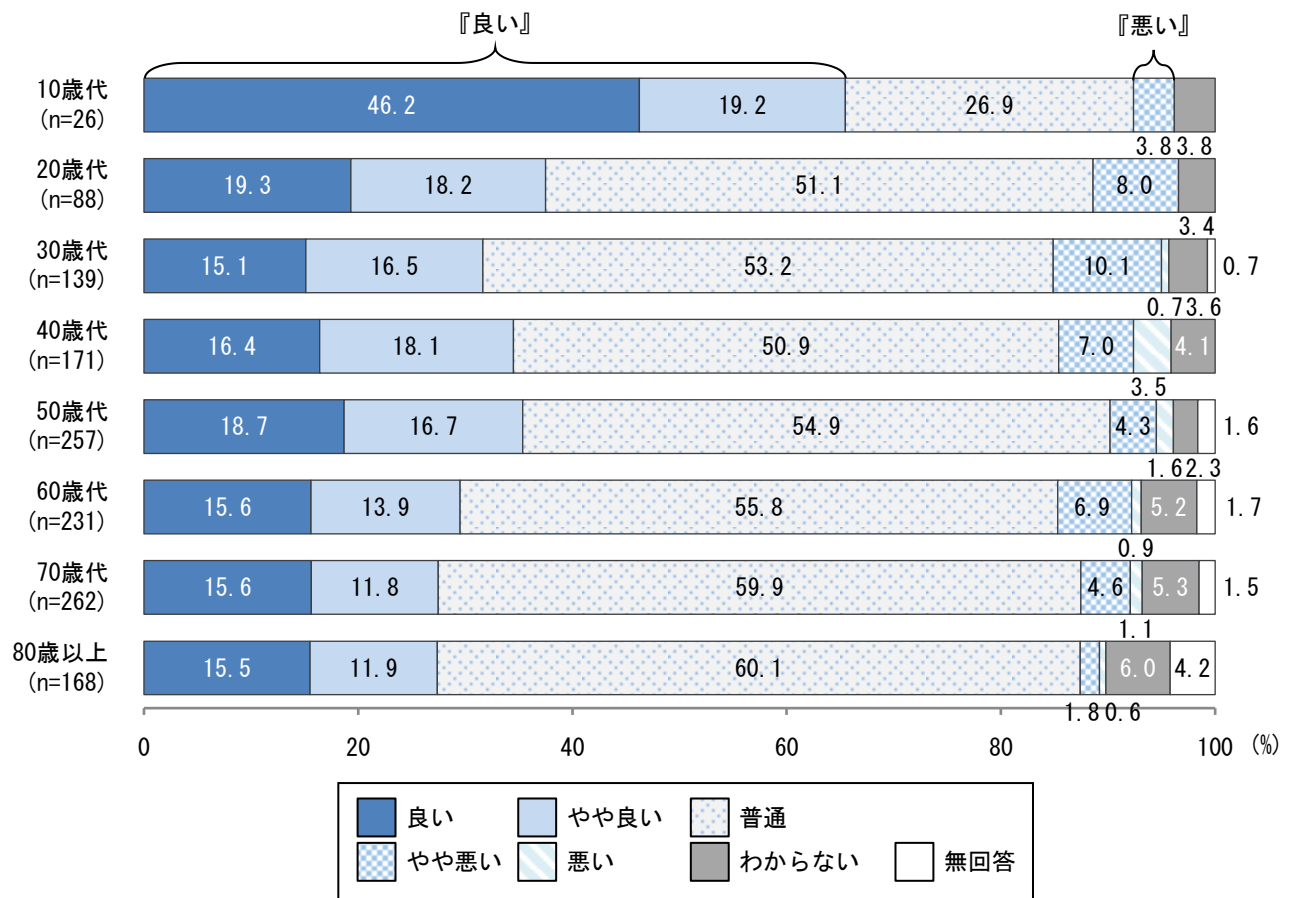
経年比較すると、大きな差はみられない。

【地域の治安状況（性別）】



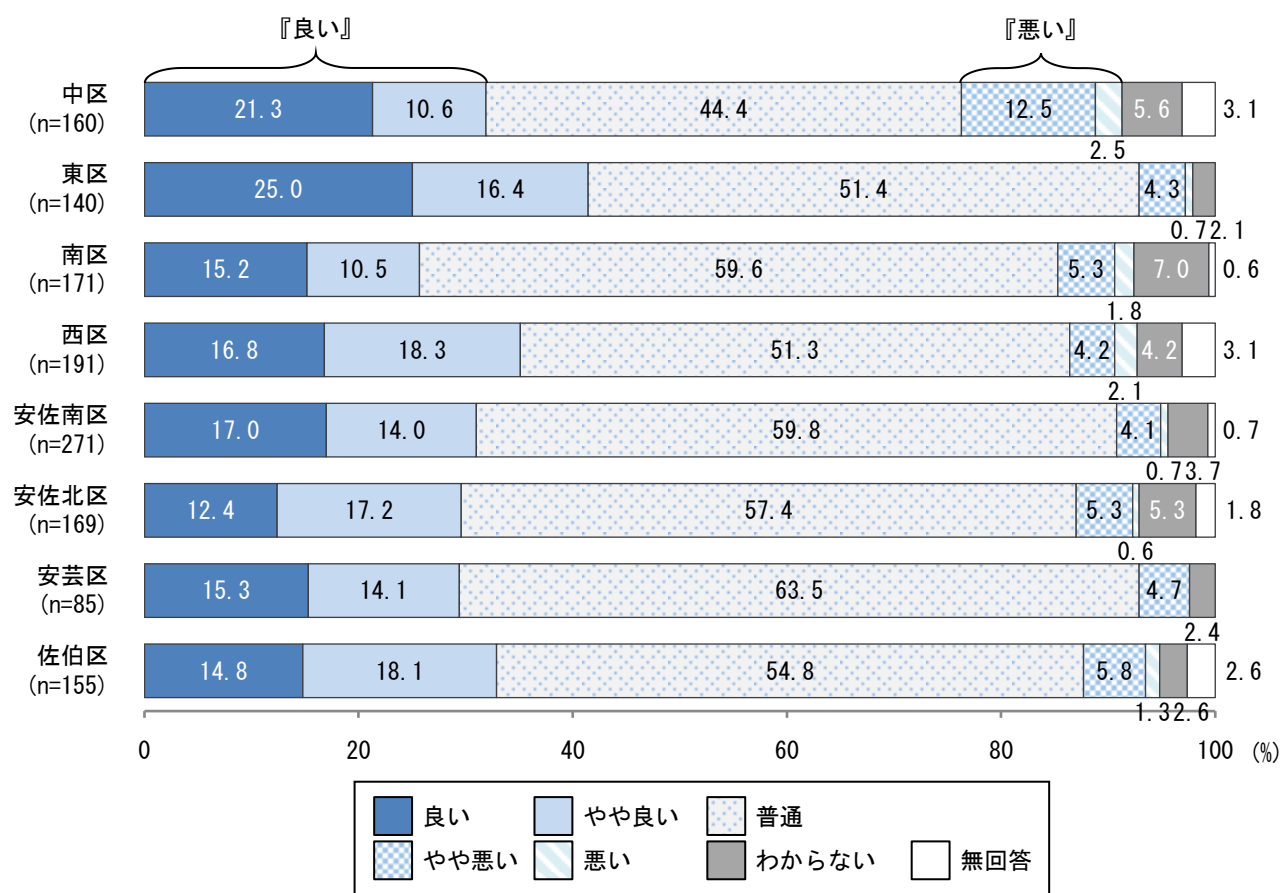
性別にみると、『良い』との回答は男性（37.8%）が女性（27.6%）を10.2ポイント上回っている。

【地域の治安状況（年代別）】



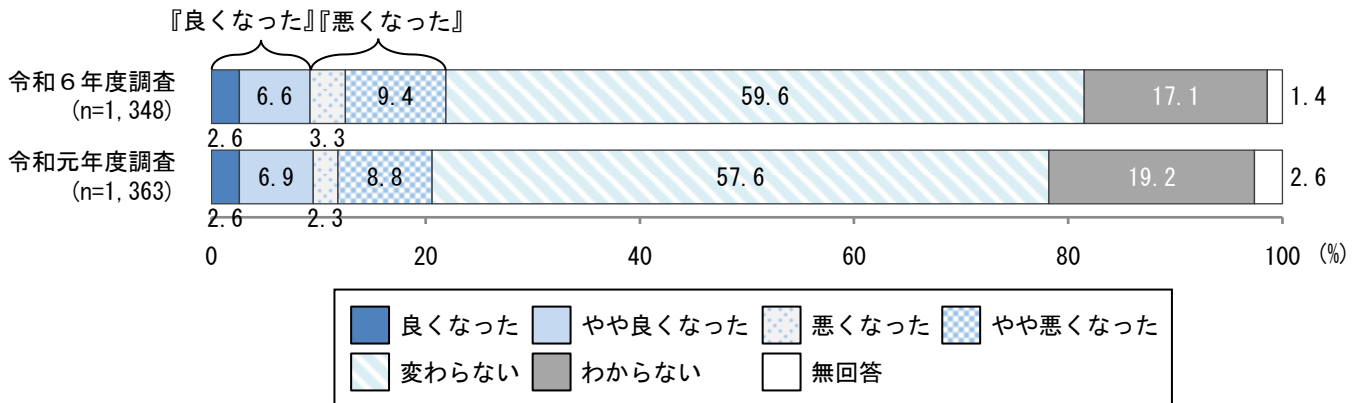
年代別にみると、『良い』との回答は10歳代で6割台半ばと他の年代と比べ高くなっている。

【地域の治安状況（居住地区別）】



居住地区別にみると、『良い』との回答は東区で4割台前半、『悪い』との回答は中区で1割台半ばと他の居住地区と比べ高くなっている。

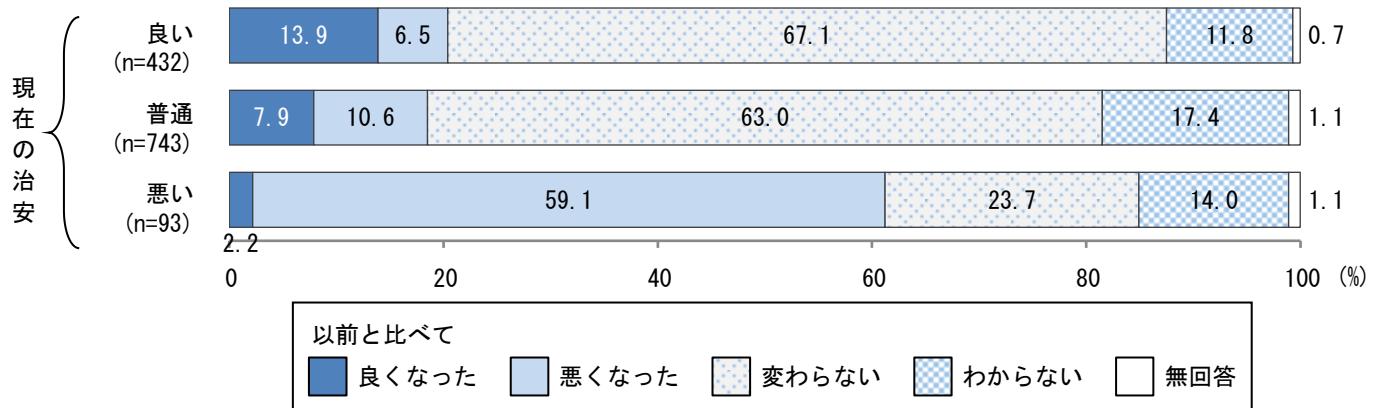
問8 あなたは、お住まいの地域の治安について、以前（おおむね5年前）と比べてどのように感じますか。（〇は、1つ）



以前と比べた地域の治安状況について、『良くなった』（「良くなった」と「やや良くなった」を合計した割合）との回答は9.2%、『悪くなった』（「悪くなった」と「やや悪くなった」を合計した割合）との回答は12.7%、「変わらない」との回答は59.6%、「わからない」との回答は17.1%となっている。

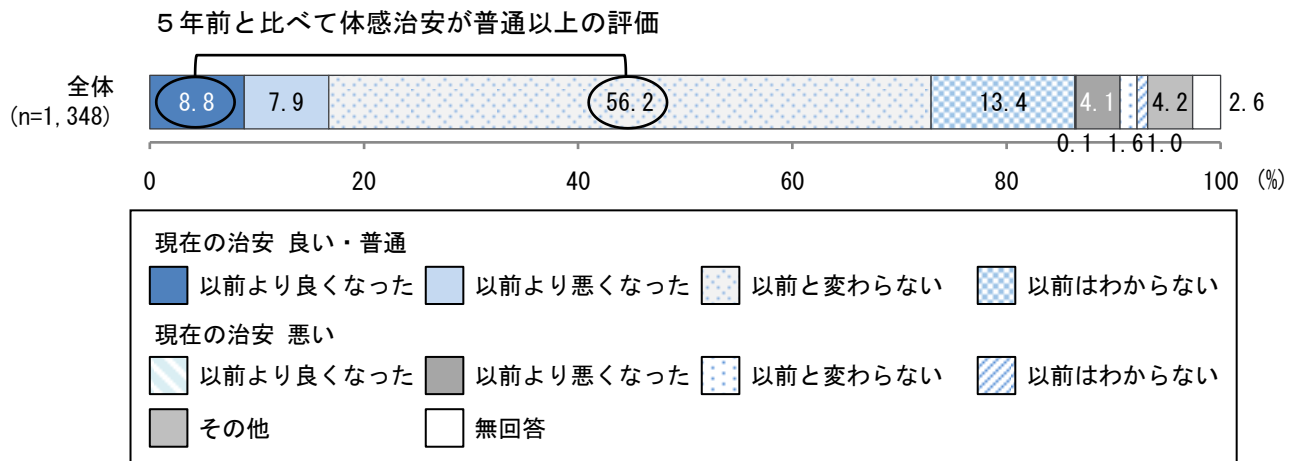
経年比較すると、大きな差はみられない。

問 7、問 8 以前の治安状況と現在の治安状況



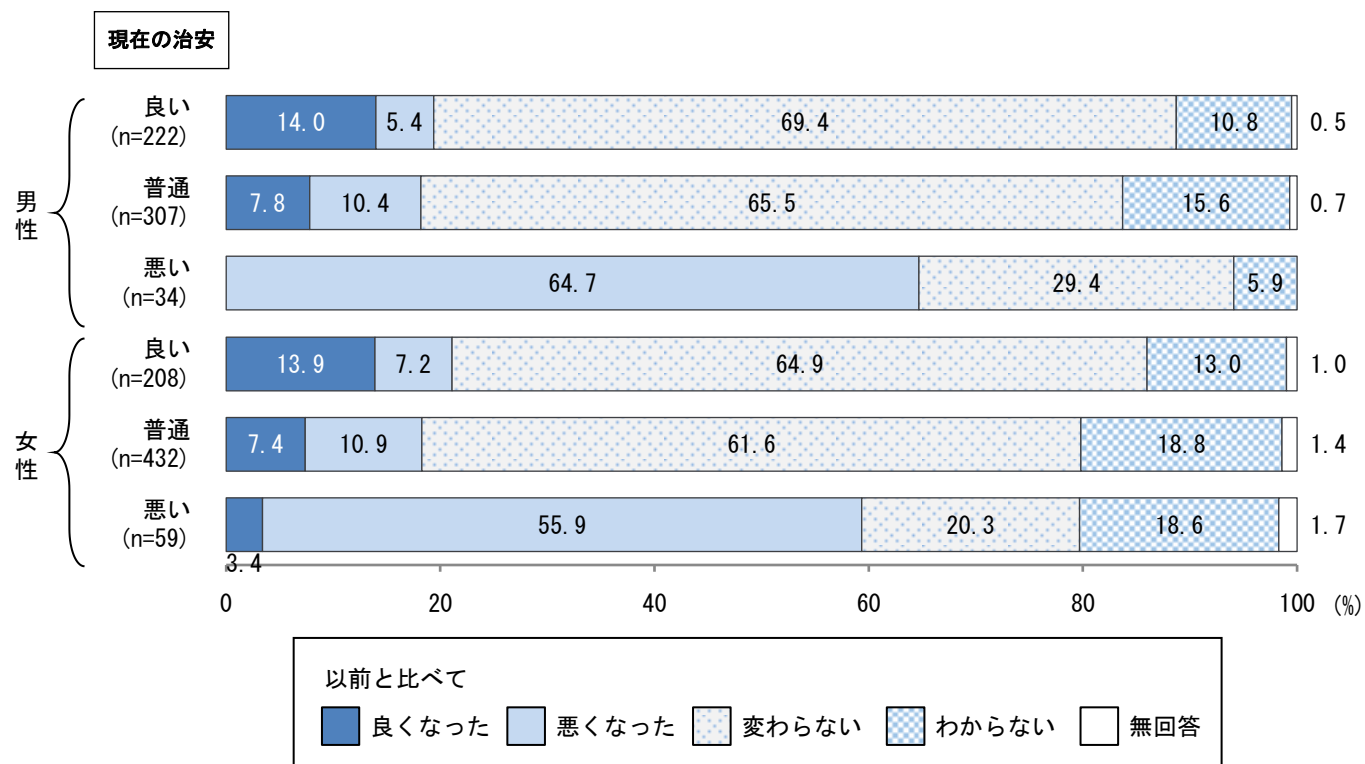
以前の治安状況と現在の治安状況について、以前と変わらず良いという評価（現在の治安が『良い』と回答し、以前と比べて「変わらない」と回答した人）が67.1%、以前と変わらず普通という評価（現在の治安が「普通」と回答し、以前と比べて「変わらない」と回答した人）が63.0%、以前と比べてさらに悪くなったという評価（現在の治安が『悪い』と回答し、以前と比べて「悪くなった」と回答した人）が59.1%となっている。

【以前の治安状況と現在の治安状況】



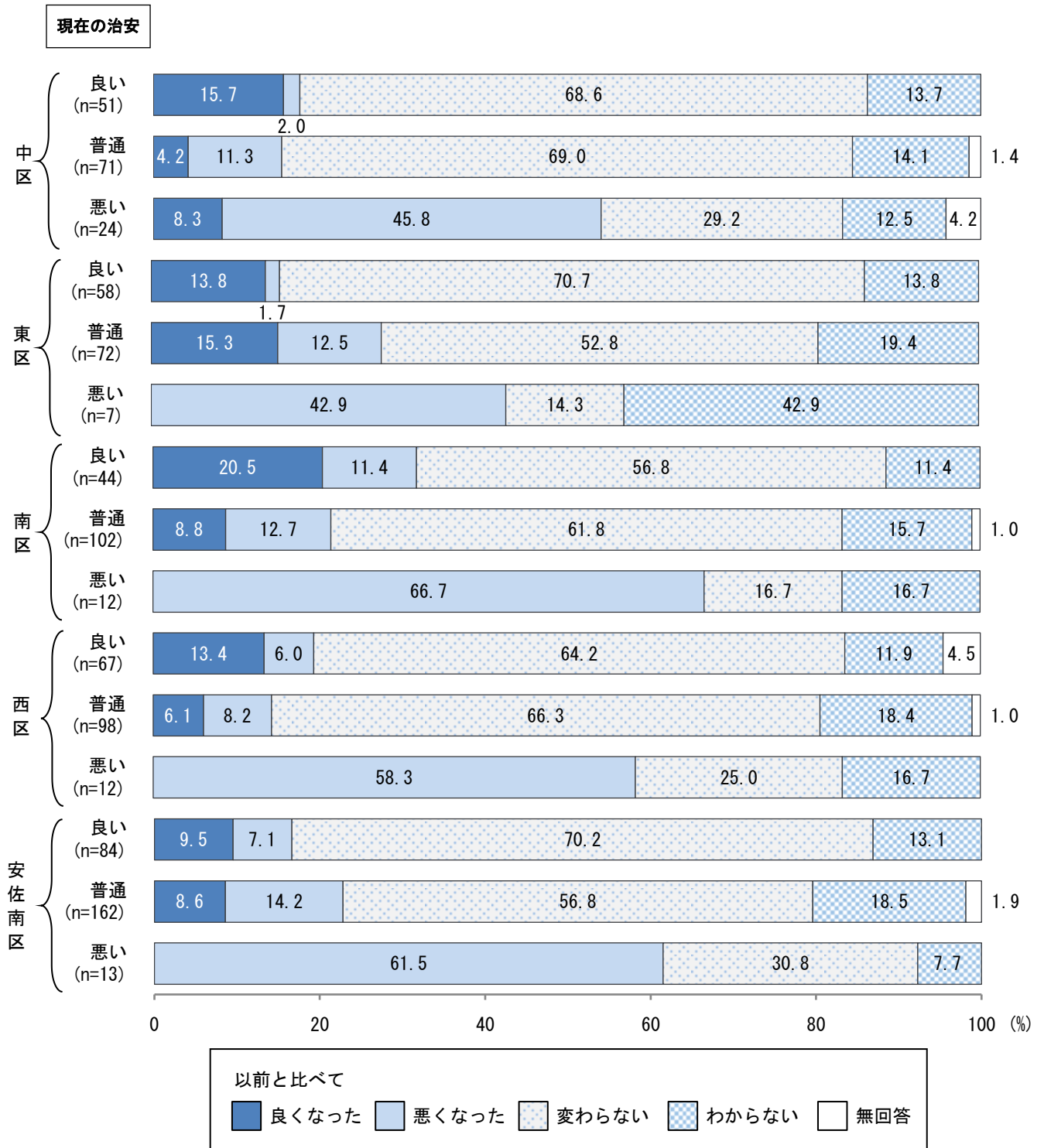
以前の治安状況と現在の治安状況について、現在の治安が良い・普通と感じている人を合算して集計すると、5年前と比べて体感治安が普通以上の評価の人（現在の治安が『良い』または「普通」と回答し、「以前より良くなった」または「以前と変わらない」と回答した人）は65.0%となっている。

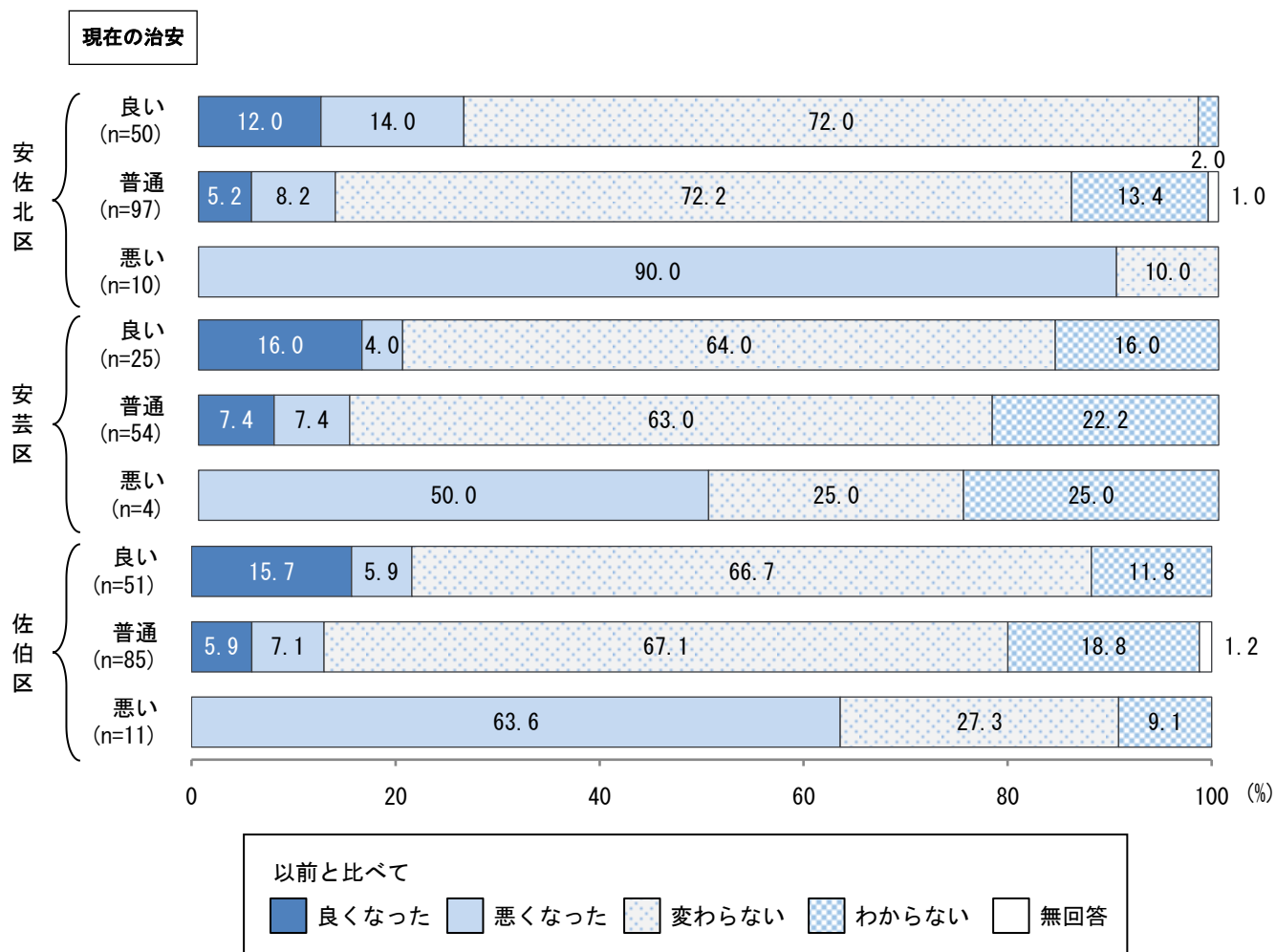
【以前の治安状況と現在の治安状況（性別）】



性別にみると、以前と変わらず良い、以前と変わらず普通という評価は男女ともに大きな差はみられない。また、以前と比べてさらに悪くなったという評価は男性（64.7%）が女性（55.9%）を8.8ポイント上回っている。

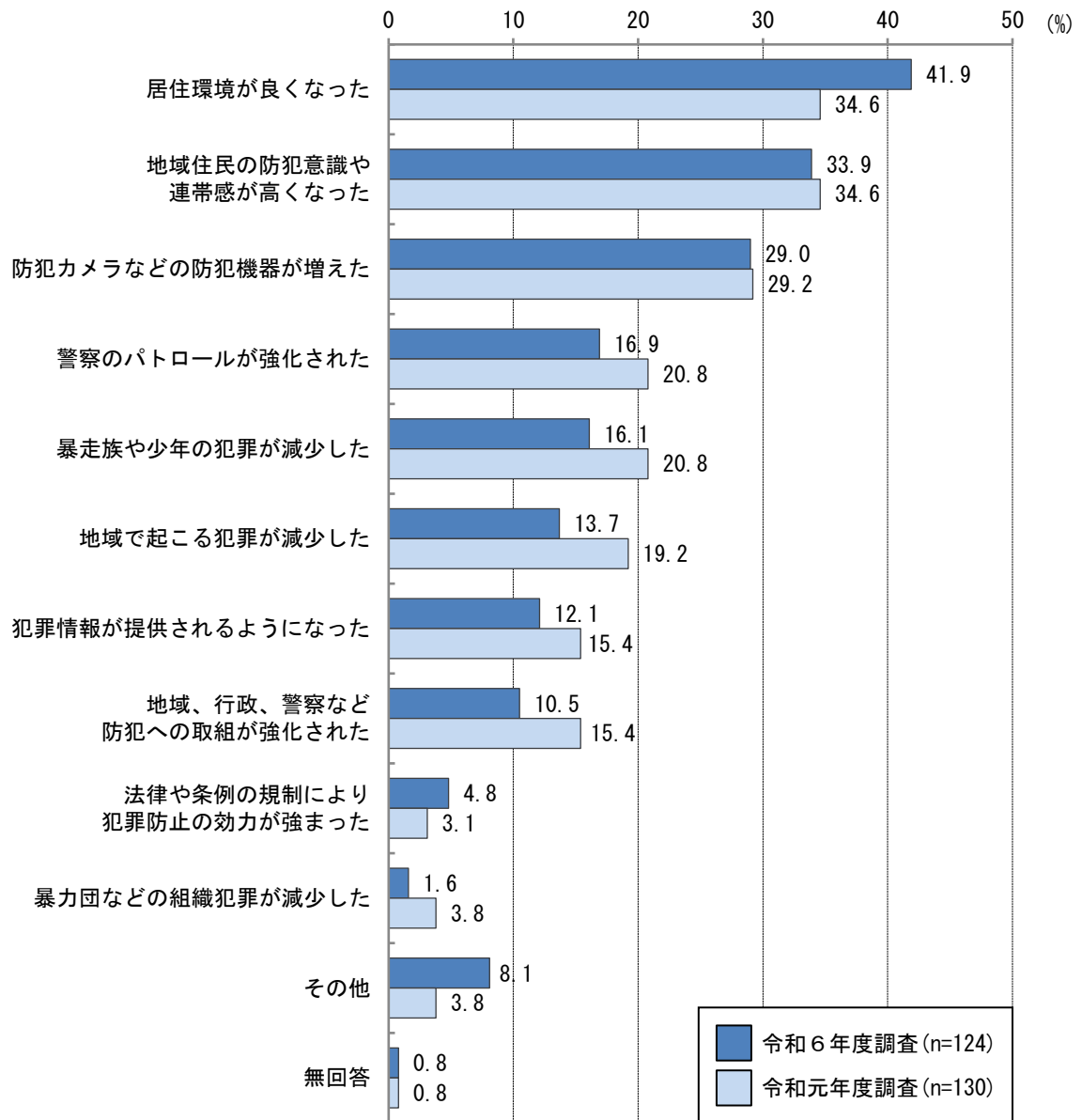
【以前の治安状況と現在の治安状況（居住地区別）】





居住地区別にみると、以前と比べてさらに良くなったという評価（現在の治安が『良い』と回答し、以前と比べて「良くなった」と回答した人）は南区で約2割と他の居住地区と比べ高くなっている。

問9 【問8で「1 良くなった」または「2 やや良くなった」と回答された方】
良くなったと感じる理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由について、「居住環境が良くなった」との回答が 41.9%と最も高く、次いで「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」(33.9%)、「防犯カメラなどの防犯機器が増えた」(29.0%)などの順となっている。

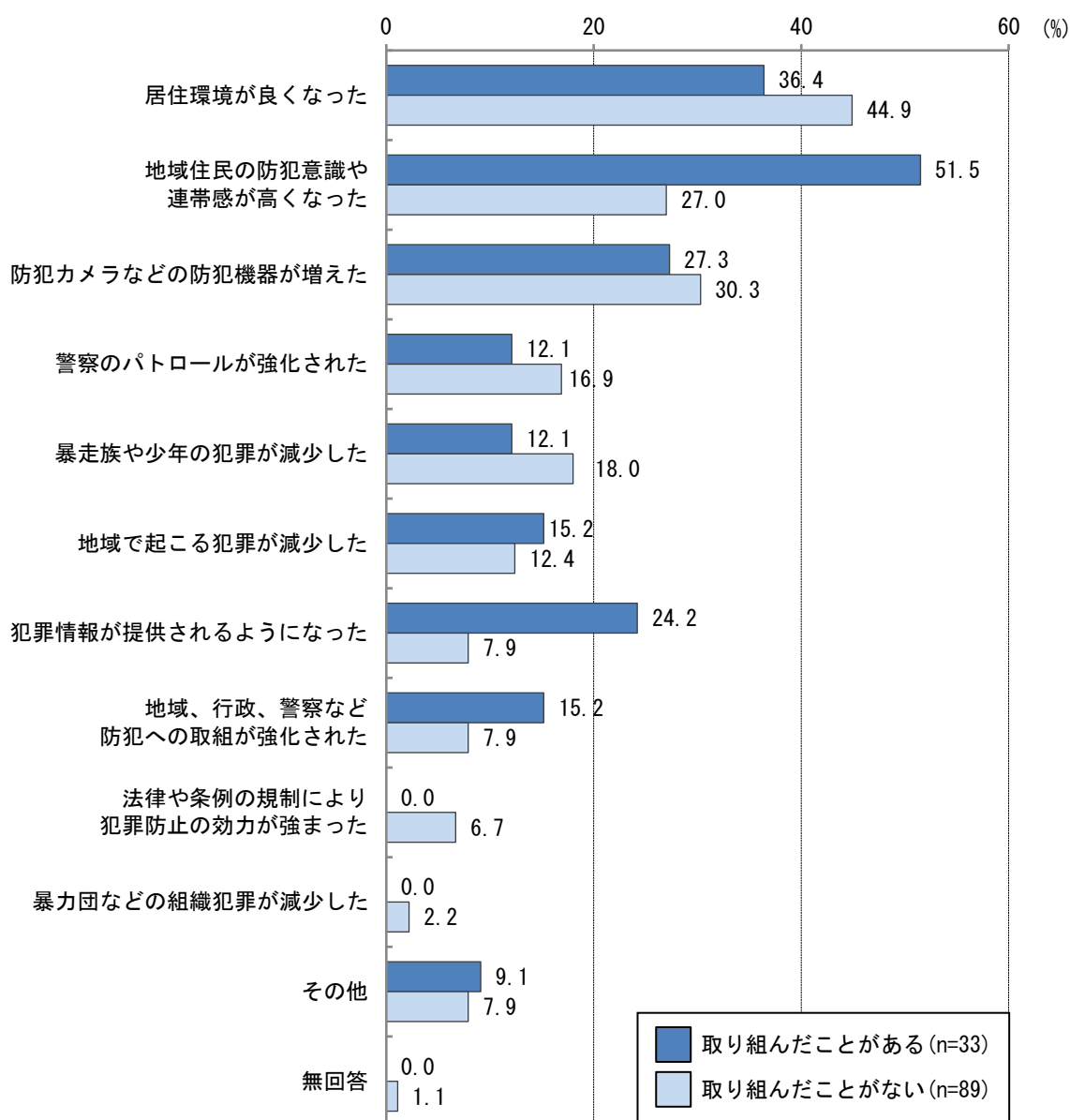
経年比較すると、「居住環境が良くなった」との回答は 7.3 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「地域で起こる犯罪が減少した」との回答は 5.5 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由（居住地区別）】

		件数	居住環境が良くなった	地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった	防犯カメラなどの防犯機器が増えた	警察のパトロールが強化された	暴走族や少年の犯罪が減少した	地域で起こる犯罪が減少した	犯罪情報が提供されるようになった	防犯への行政、警察など
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		124	41.9	33.9	29.0	16.9	16.1	13.7	12.1	10.5
居住地区別	中区	15	73.3	13.3	20.0	13.3	13.3	20.0	－	－
	東区	19	36.8	42.1	31.6	－	15.8	10.5	5.3	15.8
	南区	19	42.1	26.3	36.8	10.5	5.3	5.3	5.3	－
	西区	15	46.7	40.0	33.3	13.3	6.7	－	6.7	20.0
	安佐南区	22	50.0	36.4	22.7	18.2	27.3	18.2	31.8	－
	安佐北区	11	45.5	45.5	36.4	18.2	18.2	27.3	18.2	18.2
	安芸区	8	25.0	37.5	12.5	37.5	－	－	12.5	25.0
	佐伯区	13	7.7	30.8	30.8	38.5	38.5	23.1	15.4	23.1

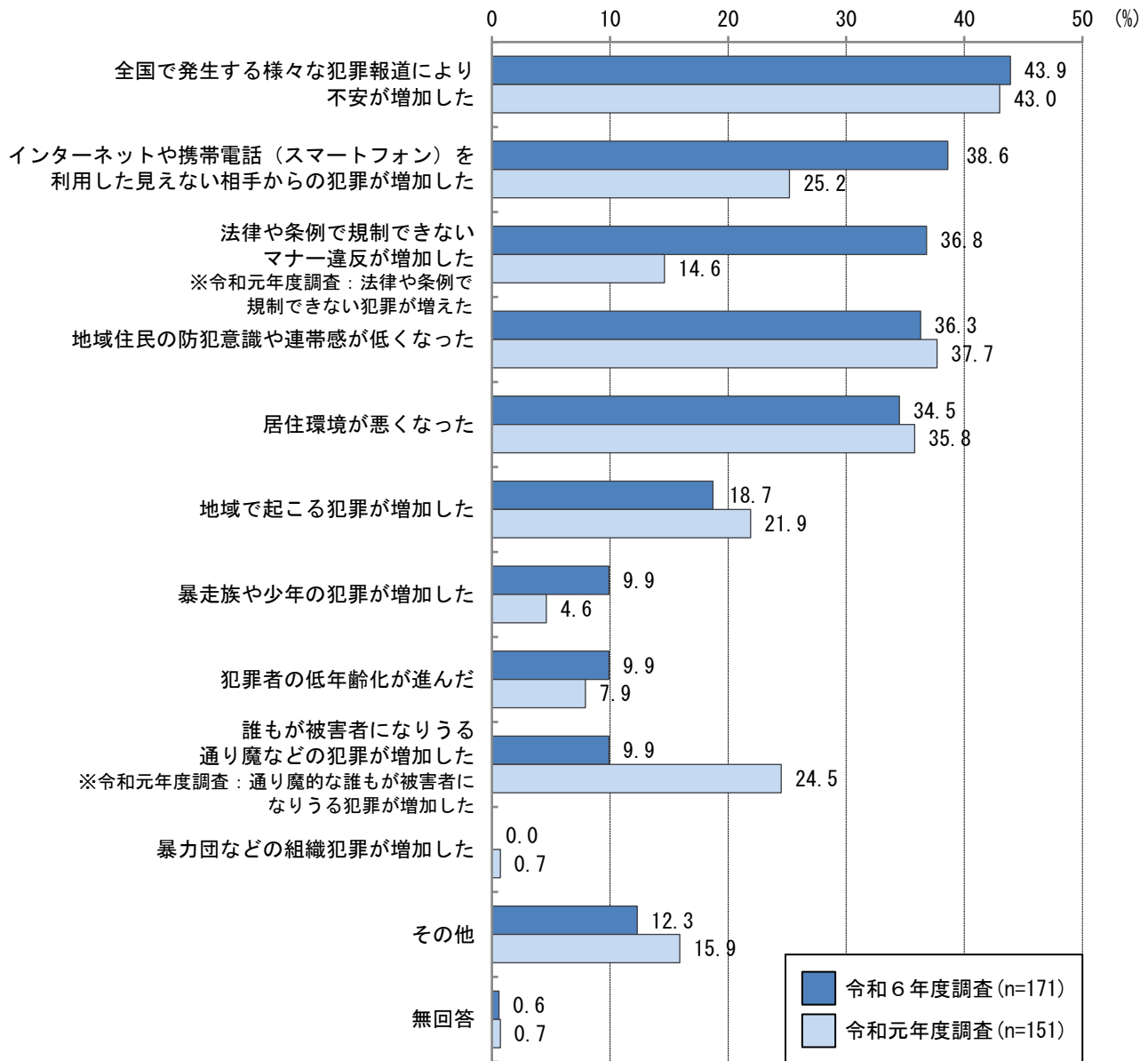
居住地区別にみると、回答者数が少ないため、回答傾向は記述しない。

【地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由（防犯活動への取組の有無別）】



防犯活動への取組の有無別にみると、「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（51.5%）がない人（27.0%）を24.5ポイント、「犯罪情報が提供されるようになった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（24.2%）がない人（7.9%）を16.3ポイント、「地域、行政、警察など防犯への取組が強化された」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（15.2%）がない人（7.9%）を7.3ポイント上回っている。一方、「居住環境が良くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（44.9%）がある人（36.4%）を8.5ポイント、「暴走族や少年の犯罪が減少した」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（18.0%）がある人（12.1%）を5.9ポイント、「法律や条例の規制により犯罪防止の効力が強まった」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（6.7%）がある人（0.0%）を6.7ポイント上回っている。

問10 【問8で「3 悪くなった」または「4 やや悪くなった」と回答された方】
悪くなったと感じる理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由について、「全国で発生する様々な犯罪報道により不安が増加した」との回答が43.9%と最も高く、次いで「インターネットや携帯電話（スマートフォン）を利用した見えない相手からの犯罪が増加した」（38.6%）、「法律や条例で規制できないマナー違反が増加した」（36.8%）などの順となっている。

経年比較すると、「インターネットや携帯電話（スマートフォン）を利用した見えない相手からの犯罪が増加した」との回答は13.4ポイント、「法律や条例で規制できないマナー違反が増加した」との回答は22.2ポイント、「暴走族や少年の犯罪が増加した」との回答は5.3ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「誰もが被害者になりうる通り魔などの犯罪が増加した」との回答は14.6ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

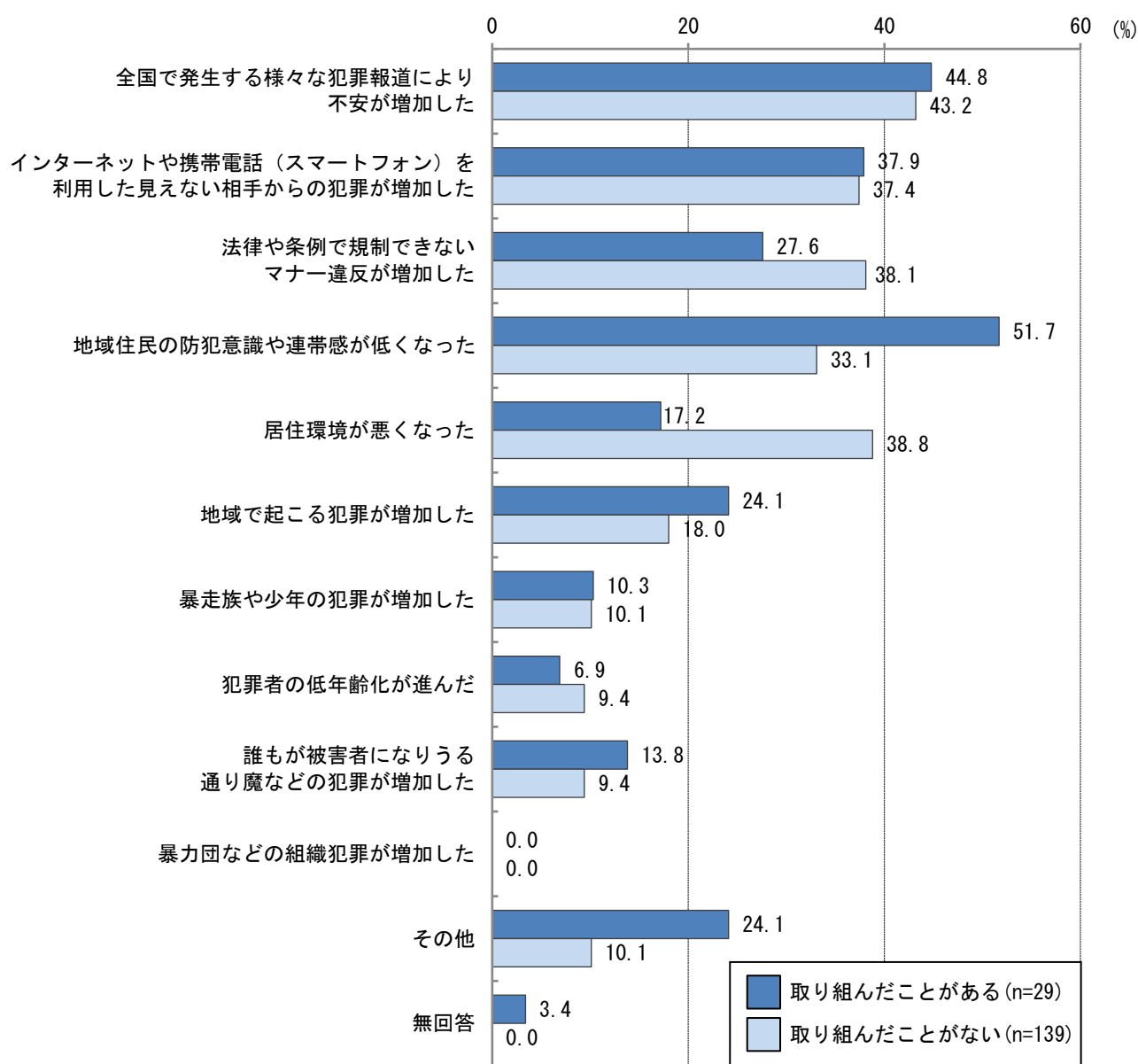
【地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由（居住地区別）】

(%)

	件数	増加した犯罪報道により不安が増えた	全国で発生する様々な犯罪報道により不安が増えた	インターネットや携帯電話（スマートフォン）を利用した見えない相手からの犯罪が増えた	インターネットや携帯電話（スマートフォン）を利用した見えない相手からの犯罪が増えた	法律や条例で規制できないマナー違反が増えた	地域住民の防犯意識や連帯感が低くなった	居住環境が悪くなった	地域で起こる犯罪が増えた	暴走族や少年の犯罪が増えた	犯罪者の低年齢化が進んだ
全体	171	43.9	38.6	36.8	36.3	34.5	18.7	9.9	9.9		
居住地区別	中区	21	42.9	52.4	47.6	28.6	28.6	14.3	19.0	9.5	
	東区	13	38.5	38.5	46.2	30.8	30.8	30.8	-	7.7	
	南区	26	42.3	30.8	34.6	42.3	26.9	11.5	19.2	3.8	
	西区	20	35.0	25.0	40.0	40.0	40.0	40.0	10.0	10.0	
	安佐南区	40	47.5	42.5	32.5	32.5	32.5	15.0	10.0	15.0	
	安佐北区	26	53.8	46.2	30.8	26.9	46.2	15.4	-	7.7	
	安芸区	7	42.9	57.1	14.3	42.9	57.1	14.3	-	14.3	
	佐伯区	18	38.9	22.2	44.4	55.6	27.8	16.7	11.1	11.1	

居住地区別にみると、「全国で発生する様々な犯罪報道により不安が増加した」との回答は安佐北区で5割台前半、「インターネットや携帯電話（スマートフォン）を利用した見えない相手からの犯罪が増加した」との回答は中区で5割台前半、「法律や条例で規制できないマナー違反が増加した」との回答は中区で4割台後半、「居住環境が悪くなった」との回答は安佐北区で4割台後半と他の居住地区と比べ高くなっている。

【地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由（防犯活動への取組の有無別）】

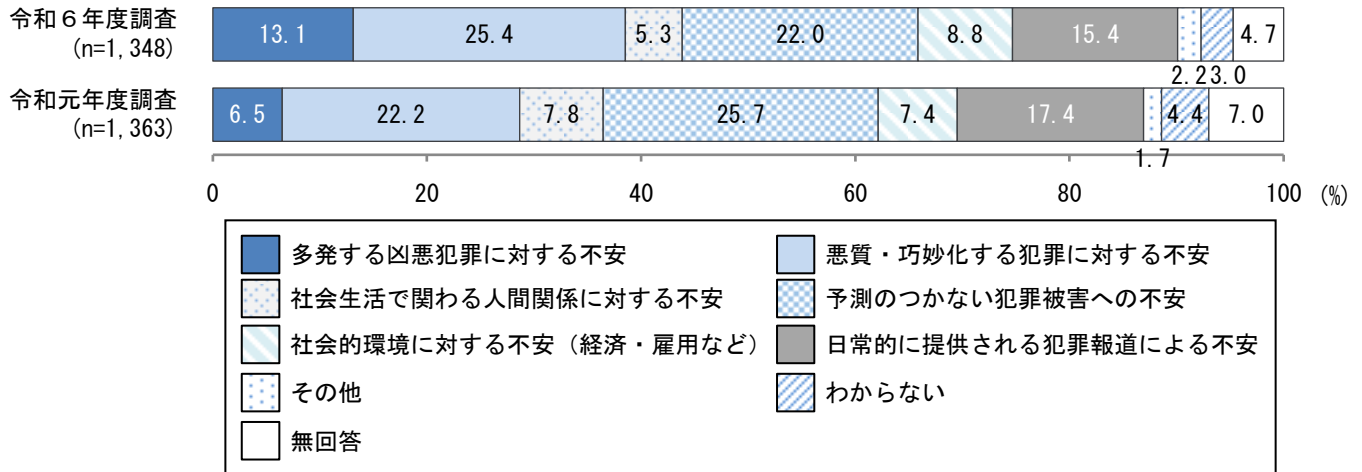


防犯活動への取組の有無別にみると、「地域住民の防犯意識や連帯感が低くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（51.7%）がない人（33.1%）を18.6ポイント、「地域で起こる犯罪が増加した」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（24.1%）がない人（18.0%）を6.1ポイント上回っている。一方、「法律や条例で規制できないマナー違反が増加した」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（38.1%）がある人（27.6%）を10.5ポイント、「居住環境が悪くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（38.8%）がある人（17.2%）を21.6ポイント上回っている。

問11 過去の本アンケート結果をみると、刑法犯認知件数※が減少しているにもかかわらず、市民の治安に対する安心感が高まっていません。その主な原因は、何だと思いますか。

(○は、1つ)

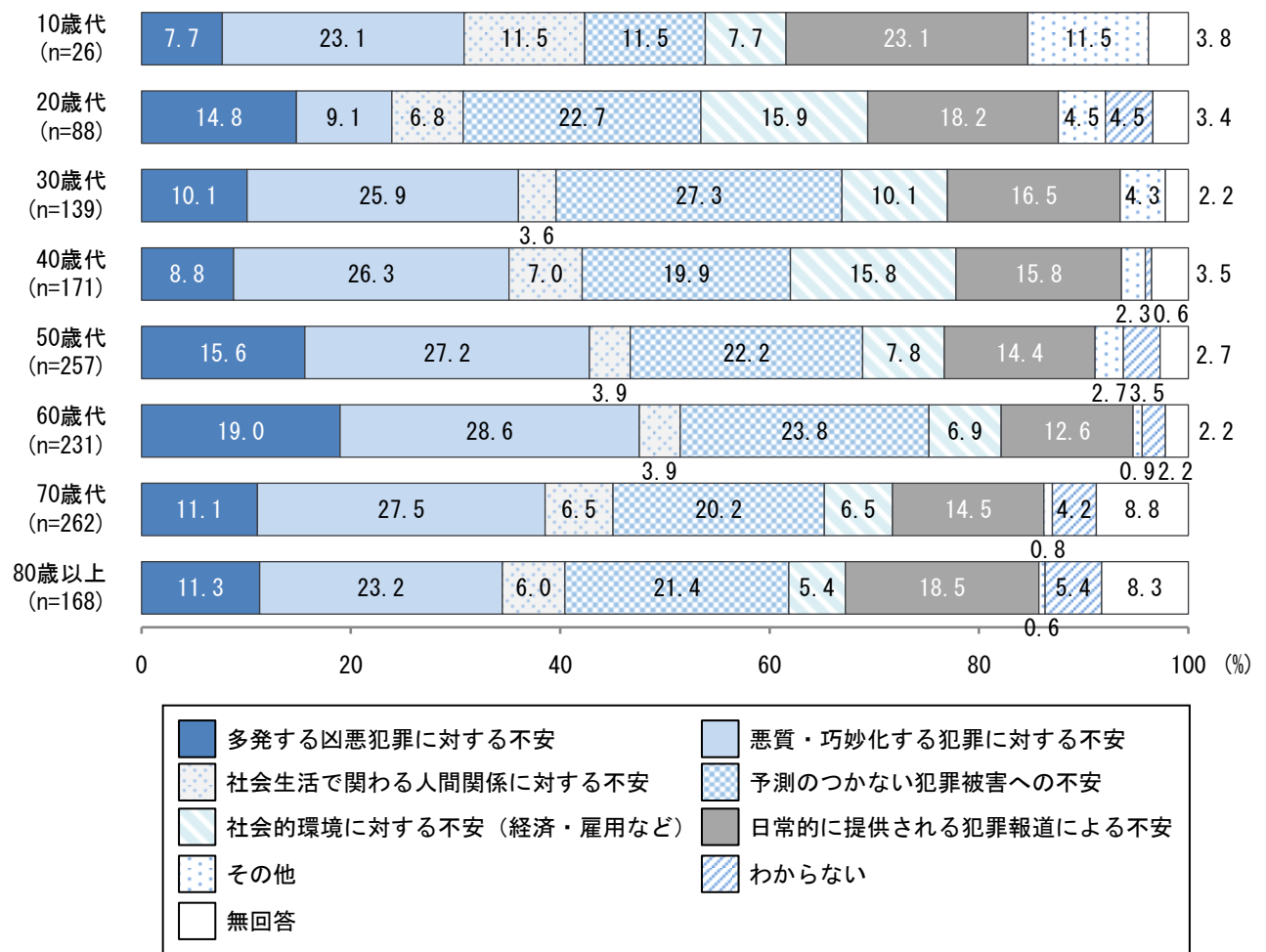
※ 刑法犯認知件数：犯罪発生状況の指標となる、刑法に規定された犯罪の発生を警察が認知した事件数交通事故や薬物犯罪などの特別法犯は含まれていません。



治安に対する安心感に変化がない原因について、「悪質・巧妙化する犯罪に対する不安」との回答が25.4%と最も高く、次いで「予測のつかない犯罪被害への不安」(22.0%)、「日常的に提供される犯罪報道による不安」(15.4%)などの順となっている。

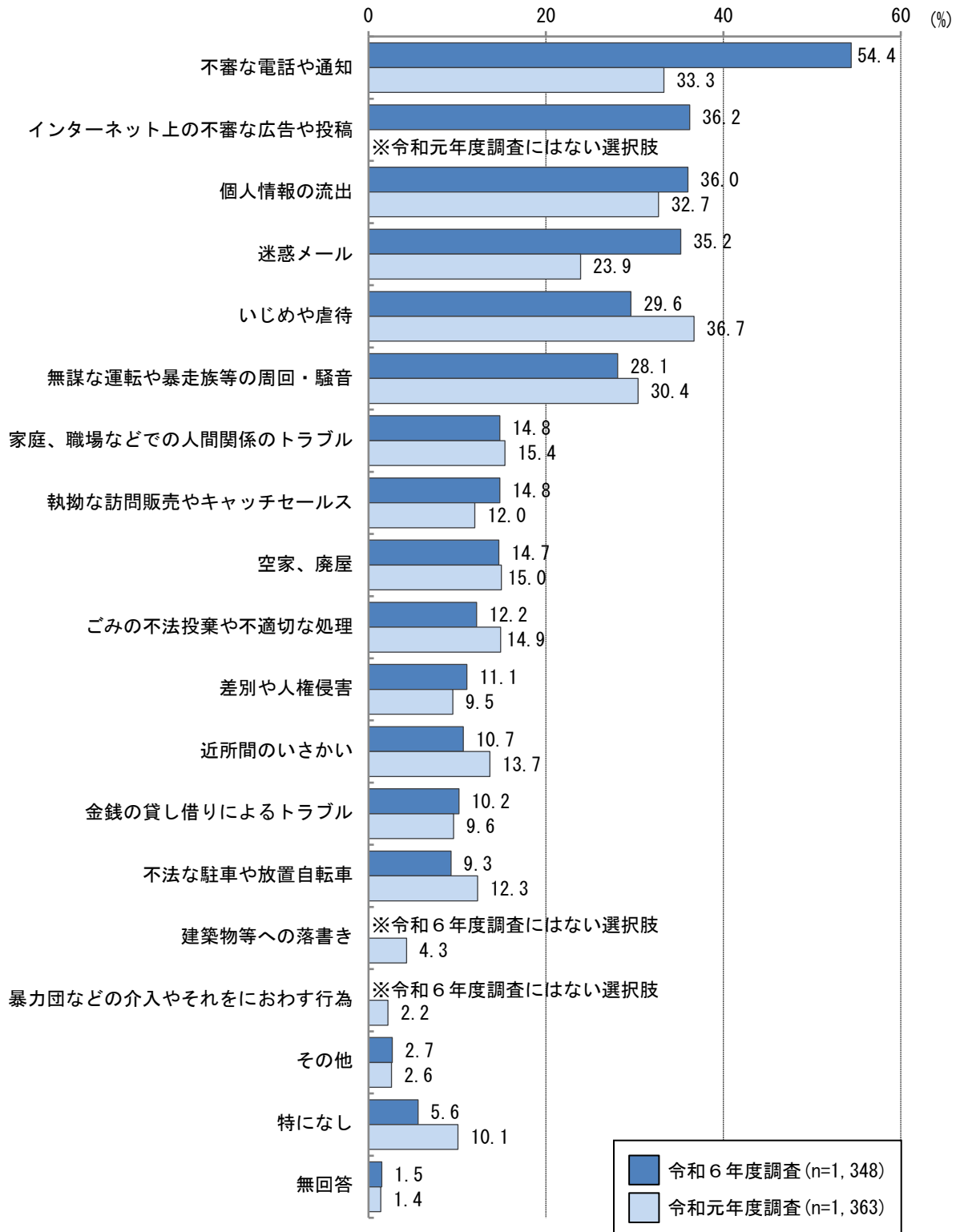
経年比較すると、「多発する凶悪犯罪に対する不安」との回答は6.6ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

【治安に対する安心感に変化がない原因（年代別）】



年代別にみると、「多発する凶悪犯罪に対する不安」との回答は60歳代で1割台後半、「社会的環境に対する不安（経済・雇用など）」との回答は20歳代、40歳代で1割台半ば、「日常的に提供される犯罪報道による不安」との回答は10歳代で2割台前半と他の年代と比べ高く、「悪質・巧妙化する犯罪に対する不安」との回答は20歳代で1割未満、「予測のつかない犯罪被害への不安」との回答は10歳代で1割台前半と他の年代と比べ低くなっている。

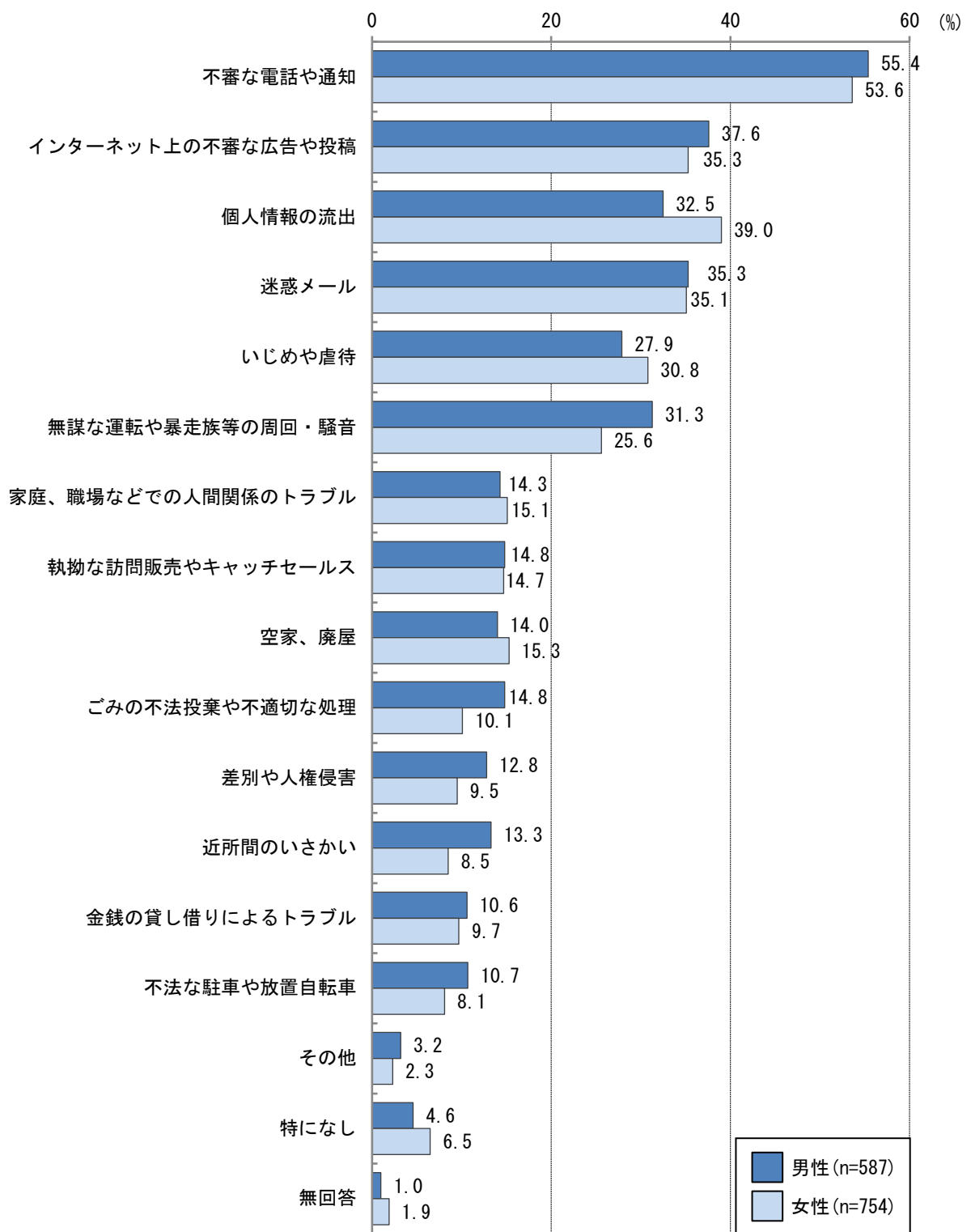
問12 あなたが、最近、日常生活において、犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事は何か。（〇は、いくつでも）



犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事について、「不審な電話や通知」との回答が54.4%と最も高く、次いで「インターネット上の不審な広告や投稿」(36.2%)、「個人情報の流出」(36.0%)、「迷惑メール」(35.2%)などの順となっている。

経年比較すると、「不審な電話や通知」との回答は21.1ポイント、「迷惑メール」との回答は11.3ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「いじめや虐待」との回答は7.1ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事（性別）】



性別にみると、「無謀な運転や暴走族等の周回・騒音」との回答は男性（31.3％）が女性（25.6％）を5.7ポイント上回っている。一方、「個人情報の流出」との回答は女性（39.0％）が男性（32.5％）を6.5ポイント上回っている。

【犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事（年代別）】

		件数	不審な電話や通知	インターネット上の不審な広告や投稿	個人情報の流出	迷惑メール	いじめや虐待	無謀な運転や暴走族等の周回・騒音	家庭、職場などでの人間関係のトラブル	執拗な訪問販売やチャッチセールス
全体		1,348	54.4	36.2	36.0	35.2	29.6	28.1	14.8	14.8
年代別	10歳代	26	42.3	26.9	30.8	23.1	34.6	19.2	19.2	7.7
	20歳代	88	39.8	47.7	45.5	25.0	42.0	27.3	29.5	13.6
	30歳代	139	45.3	46.8	46.0	30.9	40.3	33.1	22.3	15.8
	40歳代	171	51.5	44.4	38.6	37.4	33.9	29.8	19.9	15.8
	50歳代	257	56.4	42.0	43.2	40.1	31.1	31.1	16.3	15.6
	60歳代	231	61.9	44.6	38.1	47.2	29.9	35.9	11.3	10.8
	70歳代	262	59.2	25.2	29.4	35.9	22.9	24.8	7.3	16.8
	80歳以上	168	54.2	12.5	18.5	19.6	16.7	14.3	9.5	16.1

年代別にみると、「いじめや虐待」との回答は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。また、「個人情報の流出」との回答は20歳代、30歳代、50歳代で4割台、「迷惑メール」との回答は60歳代で4割台後半、「家庭、職場などでの人間関係のトラブル」との回答は20歳代で約3割と他の年代と比べ高くなっている。

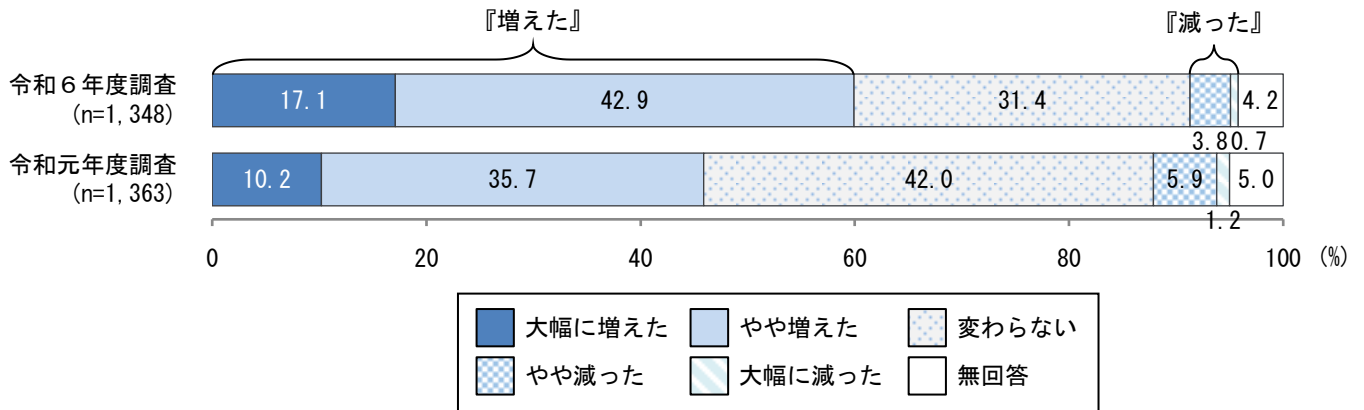
【犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事（居住地区別）】

(%)

	件数	不審な電話や通知	インターネット上の不審な広告や投稿	個人情報の流出	迷惑メール	いじめや虐待	無謀な運転や暴走族等の周回・騒音	家庭、職場などでの人間関係のトラブル	執拗な訪問販売やキヤッチセールス
全体	1,348	54.4	36.2	36.0	35.2	29.6	28.1	14.8	14.8
居住地区別	中区	160	48.8	39.4	38.1	35.6	33.8	29.4	11.3
	東区	140	57.9	37.9	30.0	33.6	30.0	28.6	15.0
	南区	171	53.8	33.9	32.2	36.3	25.7	31.6	12.3
	西区	191	52.9	37.2	37.7	37.2	34.6	30.4	15.7
	安佐南区	271	56.1	39.5	40.6	35.4	32.1	31.0	14.0
	安佐北区	169	53.3	35.5	34.3	35.5	24.3	23.7	16.0
	安芸区	85	54.1	23.5	34.1	21.2	30.6	12.9	17.6
	佐伯区	155	58.7	36.1	36.8	40.6	23.9	28.4	18.7

居住地区別にみると、「個人情報の流出」との回答は安佐南区、「迷惑メール」との回答は佐伯区でともに4割台前半と他の居住地区と比べ高く、「インターネット上の不審な広告や投稿」、「迷惑メール」との回答は安芸区で2割台前半、「無謀な運転や暴走族等の周回・騒音」との回答は安芸区で1割台前半と他の居住地区と比べ低くなっている。

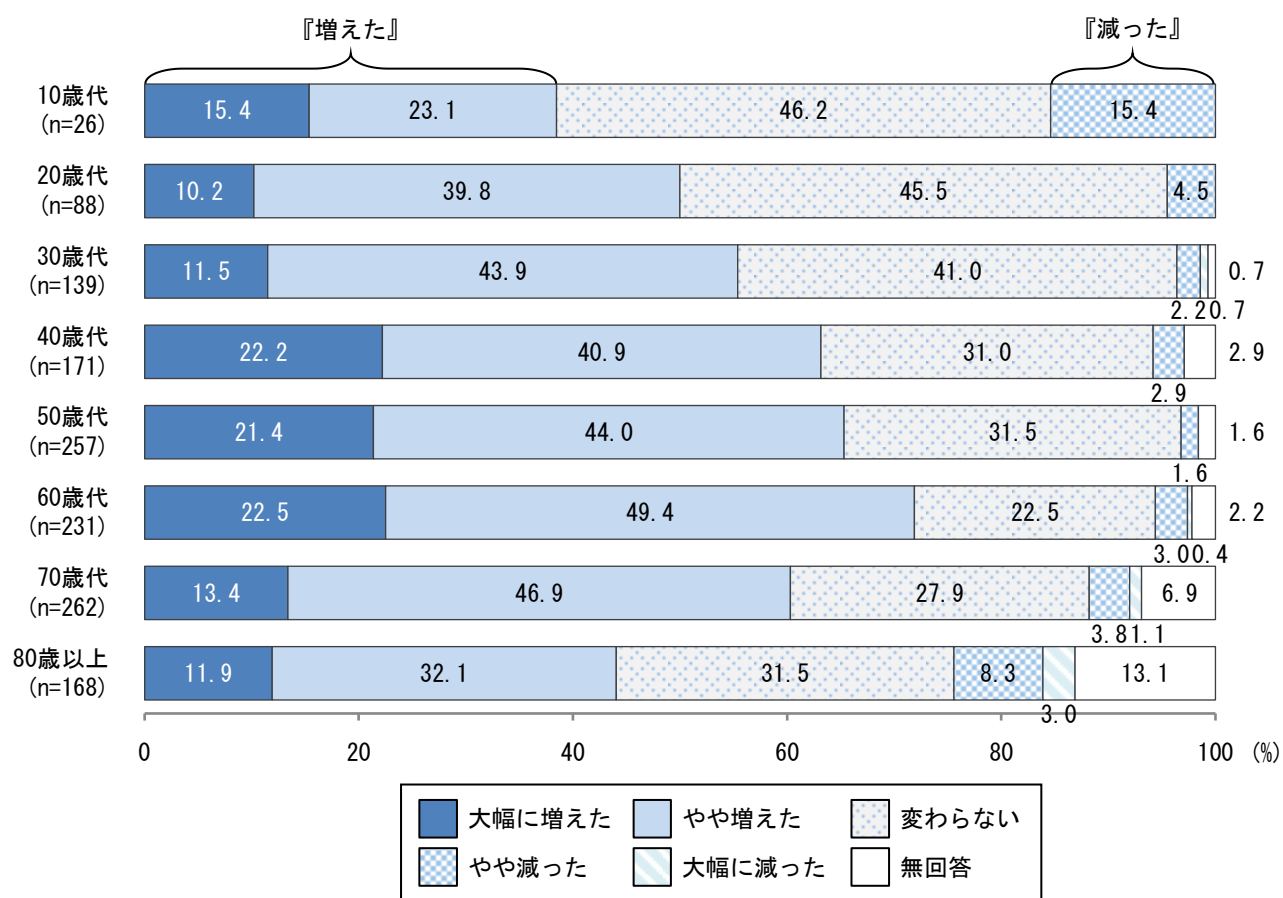
問13 あなたは、問12にあるようなことで、迷惑と感じる回数は、以前（おおむね5年前）と比べてどのように感じますか。（〇は、1つ）



迷惑と感じた回数の変化について、『増えた』（「大幅に増えた」と「やや増えた」を合計した割合）との回答が60.0%、「変わらない」との回答が31.4%、『減った』（「大幅に減った」と「やや減った」を合計した割合）との回答が4.5%となっている。

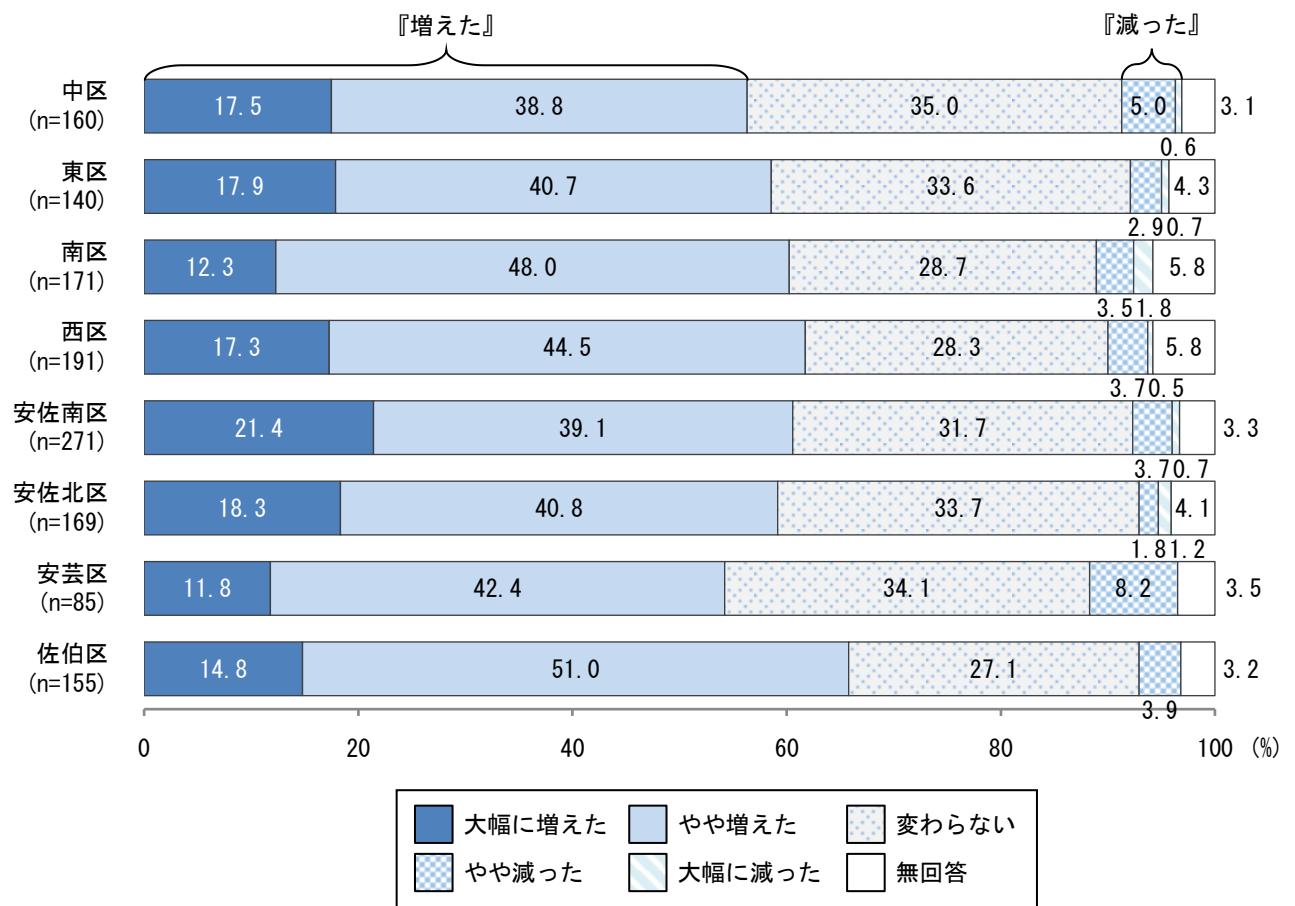
経年比較すると、『増えた』との回答は14.1ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「変わらない」との回答は10.6ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【迷惑と感じた回数の変化（年代別）】



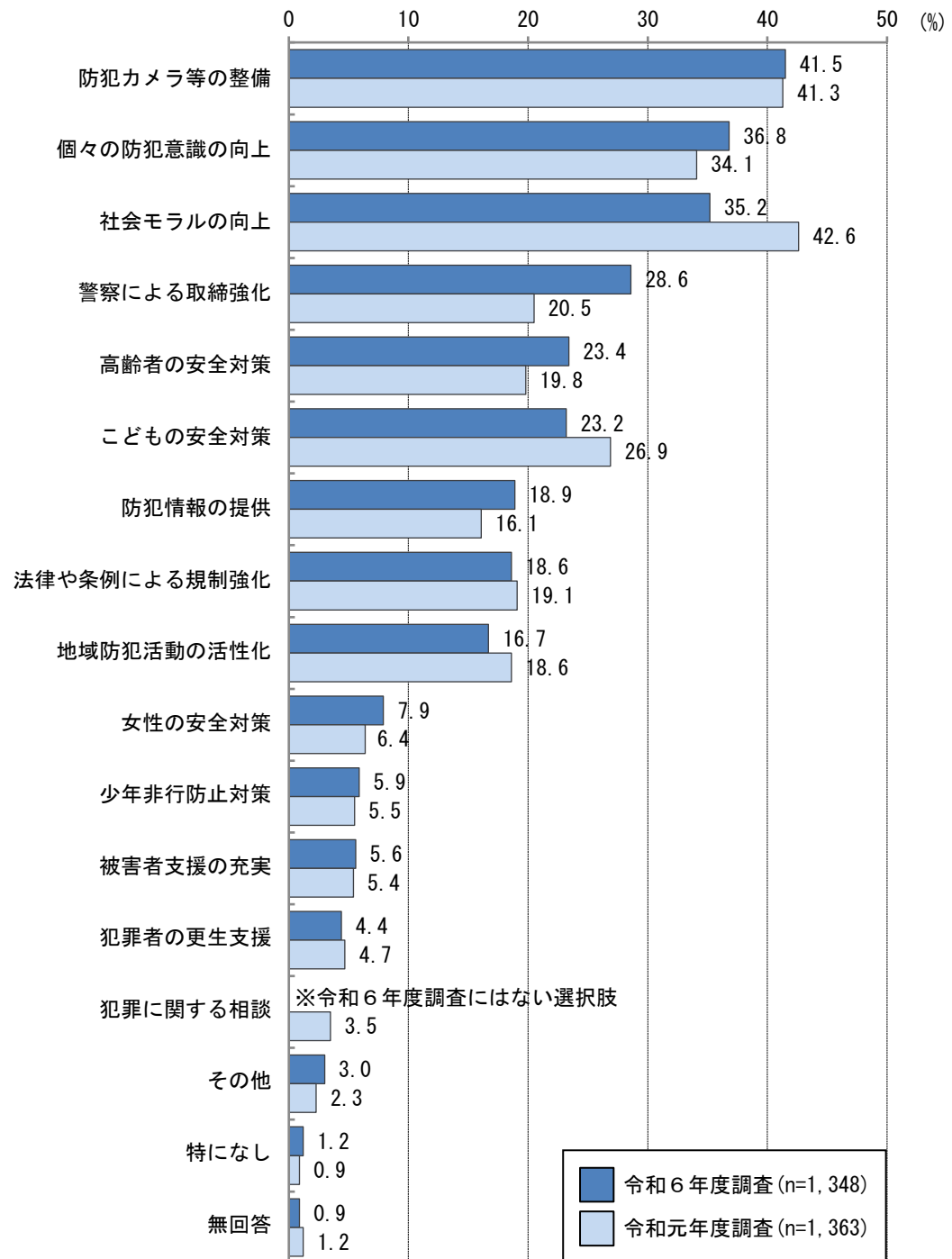
年代別にみると、『増えた』との回答は60歳代で7割台前半、『減った』との回答は10歳代、80歳以上で1割台と他の年代と比べ高くなっている。

【迷惑と感じた回数の変化（居住地区別）】



居住地区別にみると、『増えた』との回答は佐伯区で6割台半ばと高くなっている。

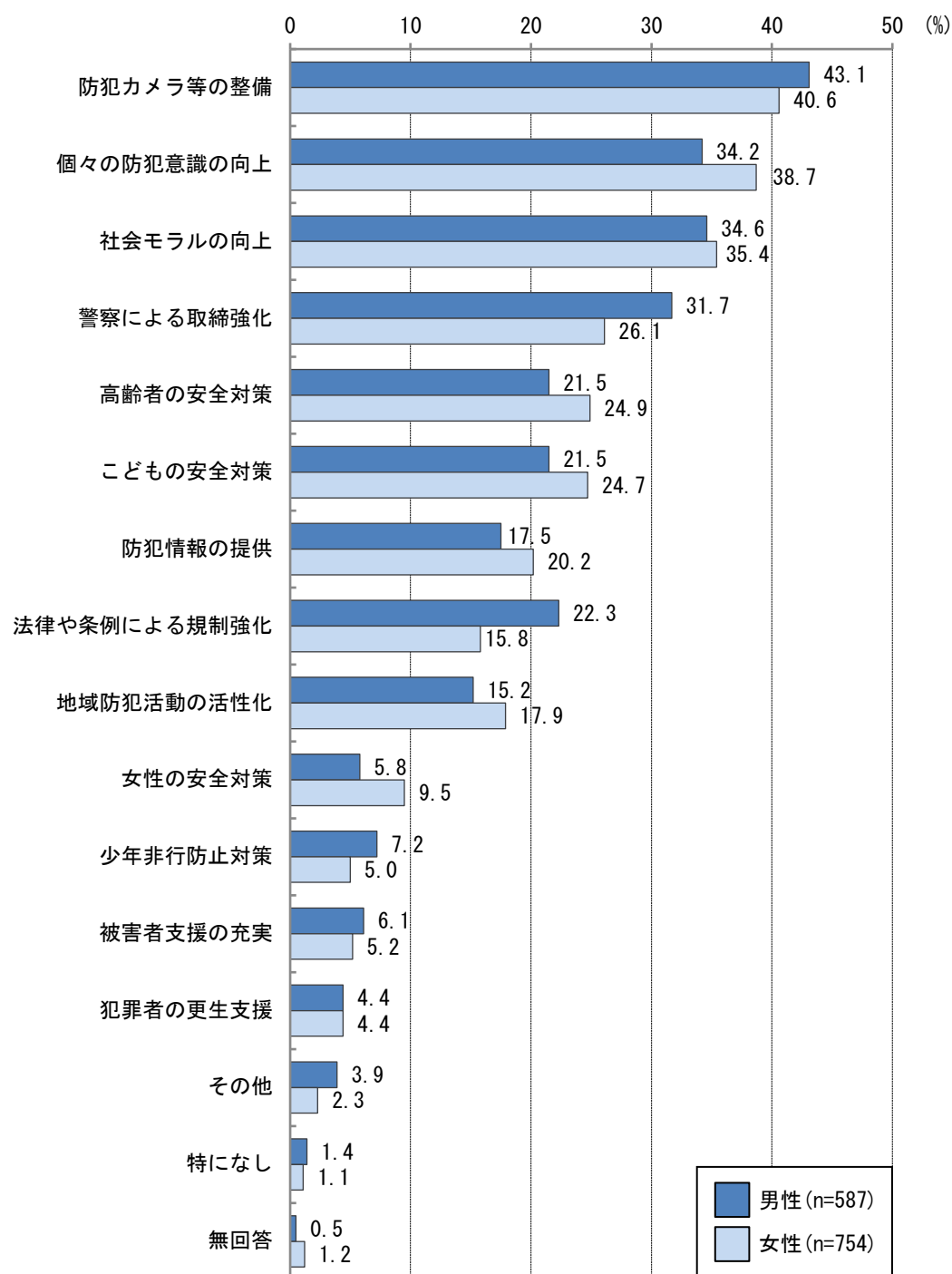
問14 市民が、安全で安心して暮らしていくためには、どのような取組が強化されればよいと思いますか。(〇は、3つ以内)



安全で安心して暮らしていくために強化されればよいと思う取組について、「防犯カメラ等の整備」との回答が41.5%と最も高く、次いで「個々の防犯意識の向上」(36.8%)、「社会モラルの向上」(35.2%)などの順となっている。

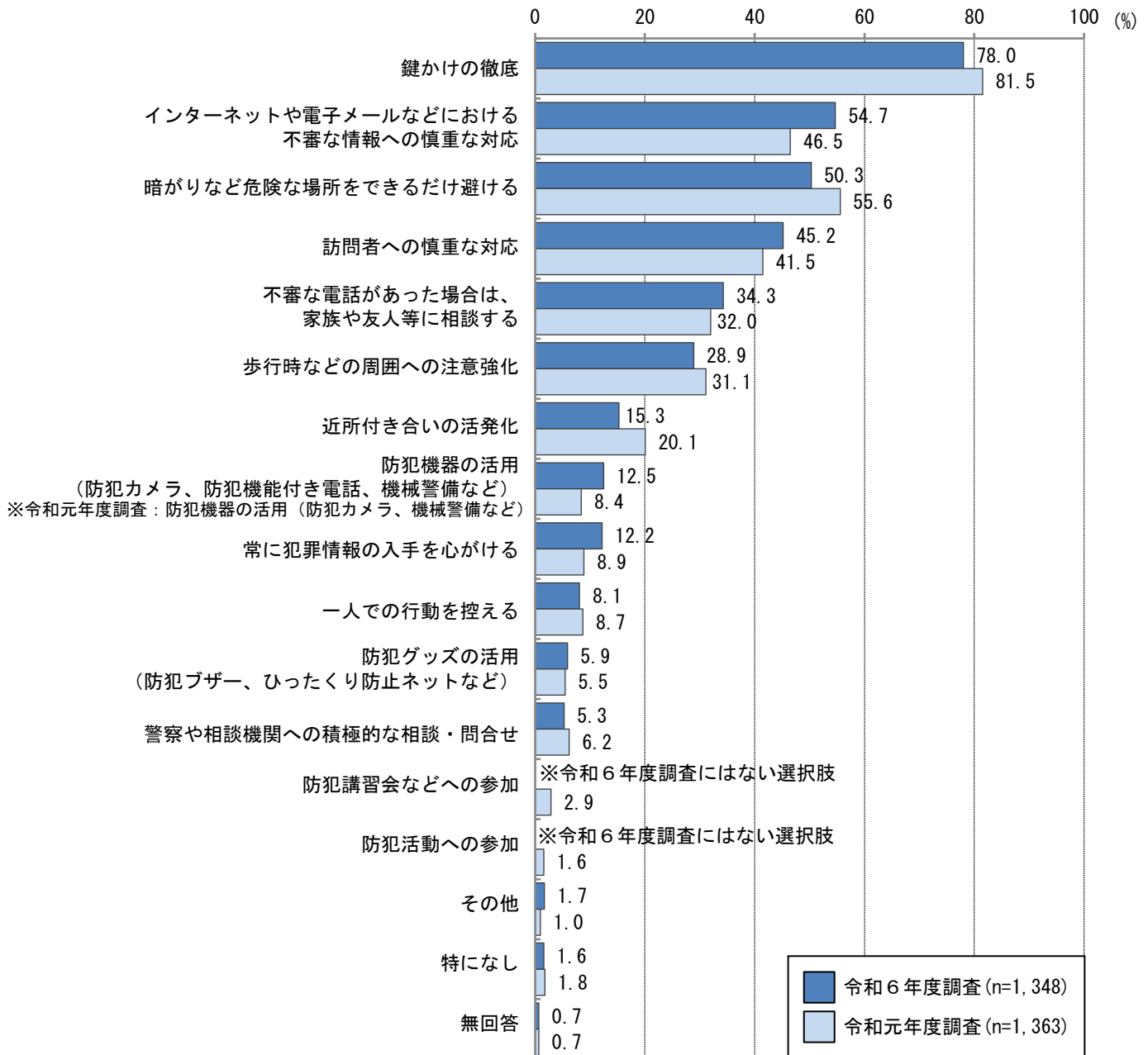
経年比較すると、「警察による取締強化」との回答は8.1ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「社会モラルの向上」との回答は7.4ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【安全で安心して暮らしていくために強化されればよいと思う取組（性別）】



性別にみると、「警察による取締強化」との回答は男性（31.7%）が女性（26.1%）を5.6ポイント、「法律や条例による規制強化」との回答は男性（22.3%）が女性（15.8%）を6.5ポイント上回っている。

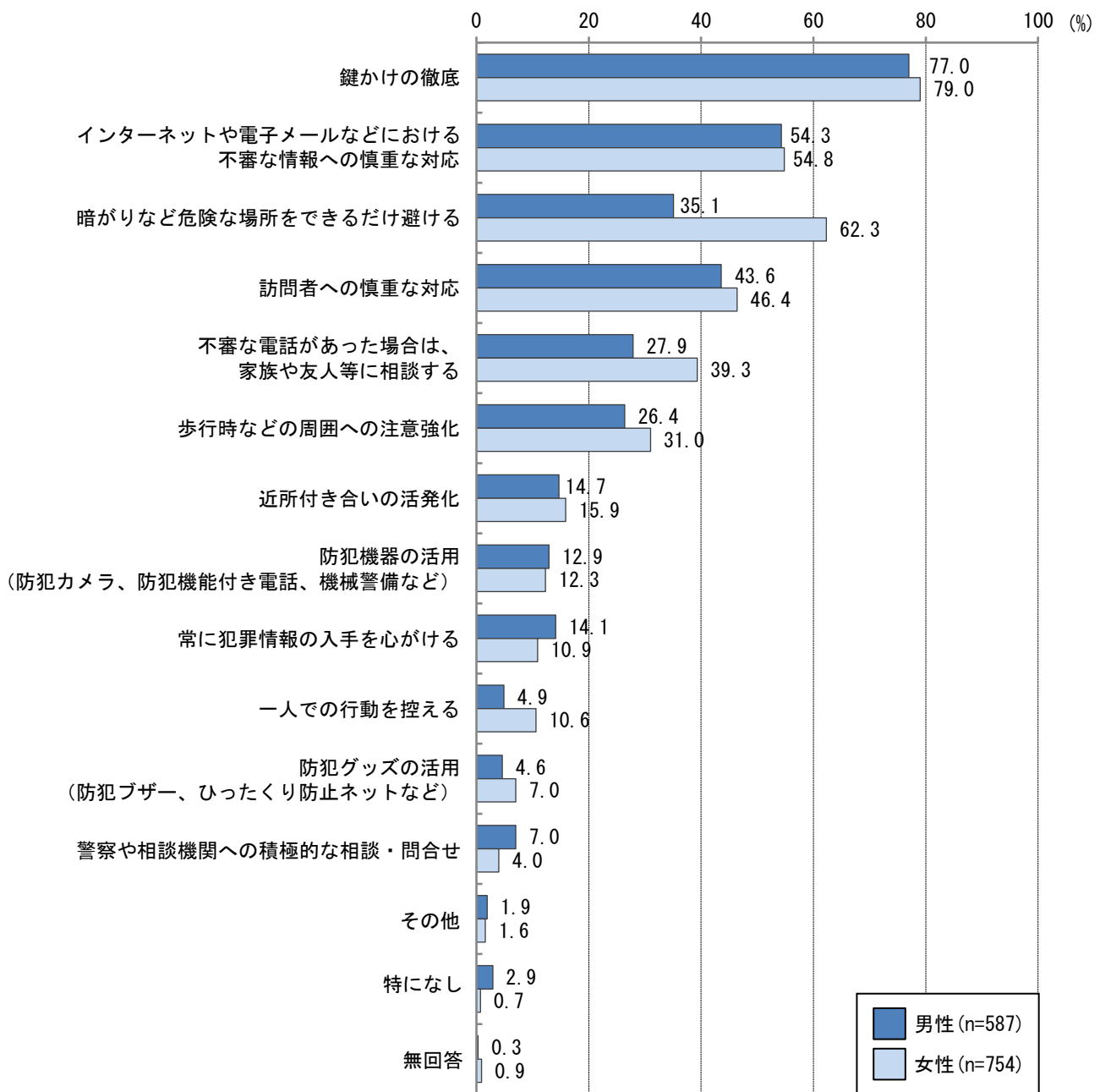
問15 あなたが、日常生活において、犯罪被害にあわないために心がけていることは何ですか。
(〇は、いくつでも)



犯罪被害にあわないために心がけていることについて、「鍵かけの徹底」との回答が78.0%と最も高く、次いで「インターネットや電子メールなどにおける不審な情報への慎重な対応」(54.7%)、「暗がりなど危険な場所をできるだけ避ける」(50.3%)などの順となっている。

経年比較すると、「インターネットや電子メールなどにおける不審な情報への慎重な対応」との回答は8.2ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「暗がりなど危険な場所をできるだけ避ける」との回答は5.3ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

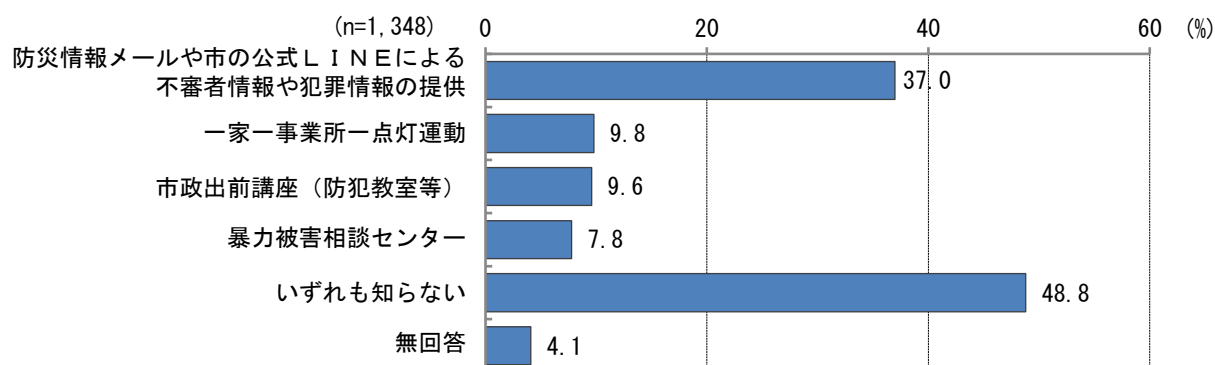
【犯罪被害にあわないために心がけていること（性別）】



性別にみると、「暗がりなど危険な場所をできるだけ避ける」との回答は女性（62.3%）が男性（35.1%）を 27.2 ポイント、「不審な電話があった場合は、家族や友人等に相談する」との回答は女性（39.3%）が男性（27.9%）を 11.4 ポイント、「一人での行動を控える」との回答は女性（10.6%）が男性（4.9%）を 5.7 ポイント上回っている。

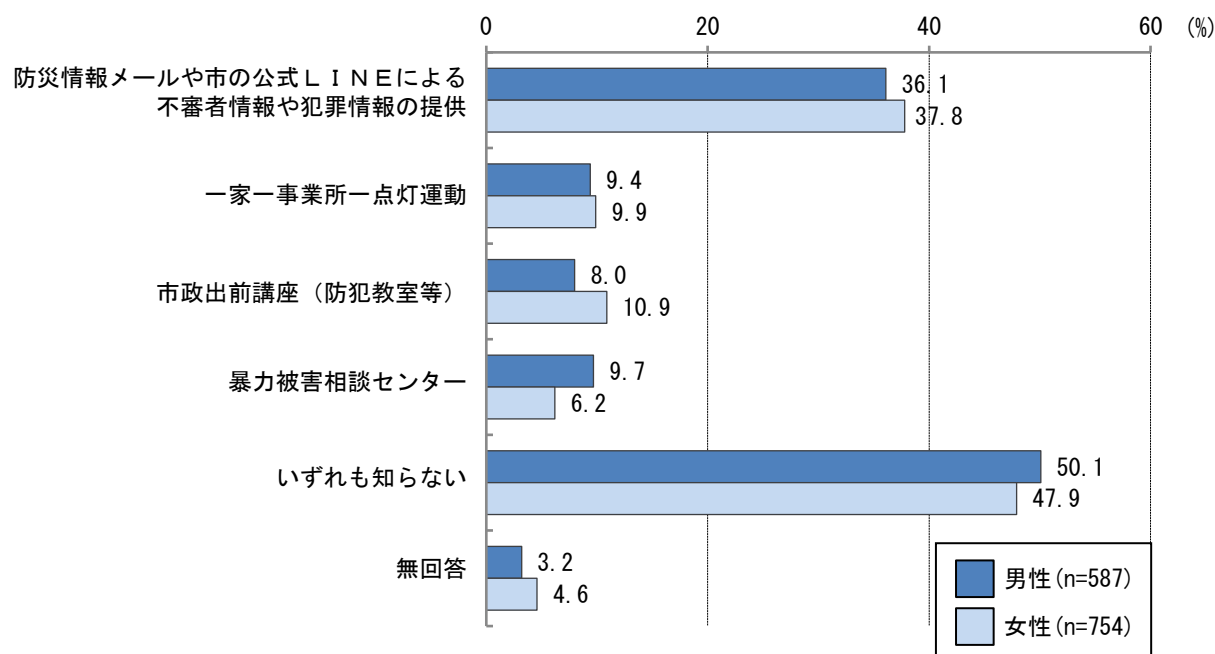
3 広島市における個々の施策の取組などについて

問16 犯罪の起こりにくい安全なまちづくりに向けて本市が行っている施策の取組の中で、あなたが知っているものをお答えください。（〇は、いくつでも）



知っている施策の取組について、「防災情報メールや市の公式LINEによる不審者情報や犯罪情報の提供」との回答が37.0%と最も高く、次いで「一家一事業所一点灯運動」(9.8%)、「市政出前講座（防犯教室等）」(9.6%)、「暴力被害相談センター」(7.8%)の順となっている。また、「いずれも知らない」との回答は48.8%となっている。

【知っている施策の取組（性別）】



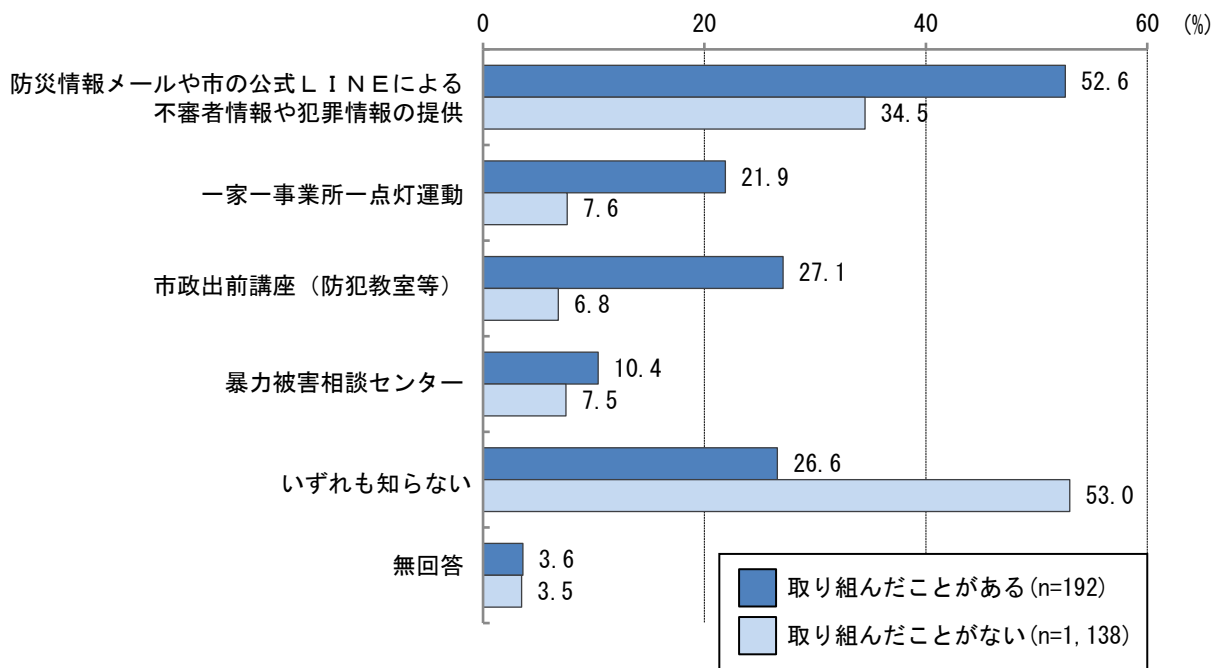
性別にみると、大きな差はみられない。

【知っている施策の取組（年代別）】

								(%)	
		件数	提供 審者 公式 情報 や 犯罪 情報 の	防 災 情 報 メ ー ル や 市 の	動 一 家 一 事 業 所 一 点 灯 運	室 市 政 出 前 講 座 （ 防 犯 教 室 等 ）	暴力被害相談センター	いずれも知らない	無回答
全体		1,348	37.0	9.8	9.6	7.8	48.8	4.1	
年代別	10歳代	26	19.2	3.8	15.4	19.2	65.4	－	
	20歳代	88	25.0	1.1	12.5	5.7	63.6	－	
	30歳代	139	35.3	2.9	5.8	5.0	56.1	2.9	
	40歳代	171	48.0	2.9	8.8	7.6	47.4	1.2	
	50歳代	257	52.5	11.3	9.3	8.9	38.5	0.4	
	60歳代	231	39.8	8.7	8.2	8.2	51.1	0.9	
	70歳代	262	30.2	13.7	11.1	8.4	51.1	6.5	
	80歳以上	168	20.2	20.8	11.9	6.5	43.5	15.5	

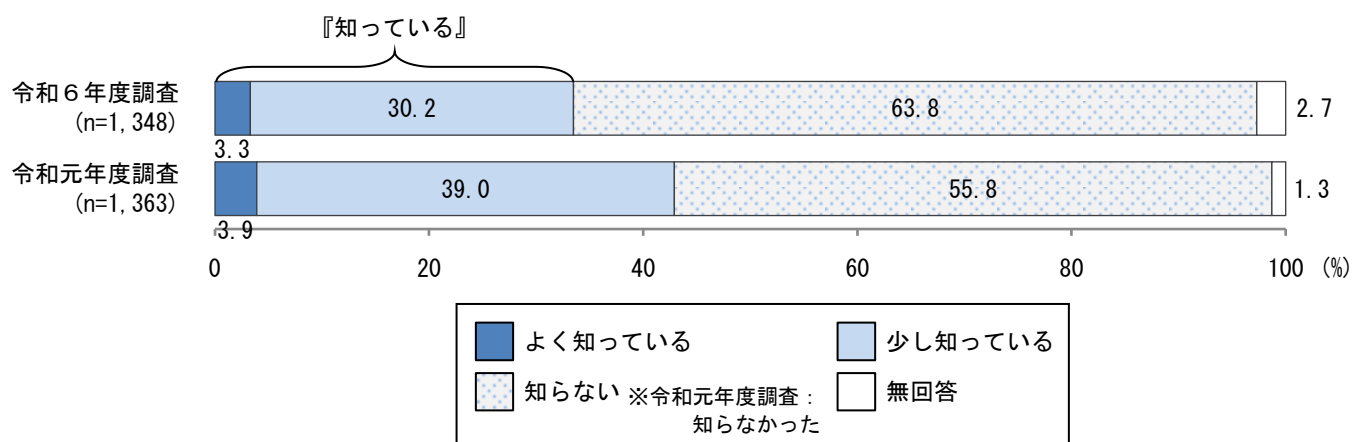
年代別にみると、「防災情報メールや市の公式LINEによる不審者情報や犯罪情報の提供」との回答は40歳代、50歳代で約5割、「一家一事業所一点灯運動」との回答は80歳以上で約2割、「暴力被害相談センター」との回答は10歳代で約2割と他の年代と比べ高くなっている。また、「いずれも知らない」との回答は10歳代、20歳代で6割台半ばと他の年代と比べ高くなっている。

【知っている施策の取組（防犯活動への取組の有無別）】



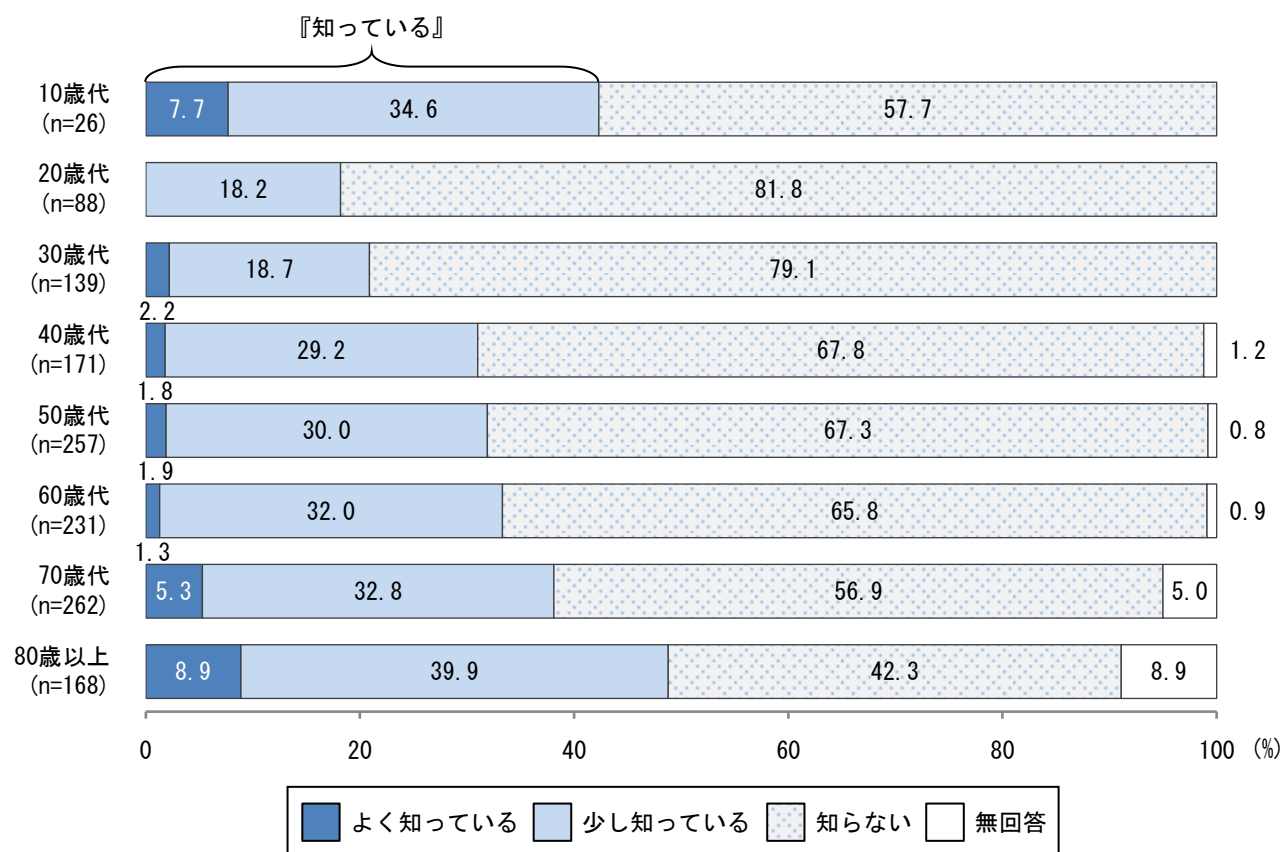
防犯活動への取組の有無別にみると、「防災情報メールや市の公式LINEによる不審者情報や犯罪情報の提供」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（52.6%）がない人（34.5%）を18.1ポイント、「一家一事業所一点灯運動」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（21.9%）がない人（7.6%）を14.3ポイント、「市政出前講座（防犯教室等）」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（27.1%）がない人（6.8%）を20.3ポイント上回っている。また、「いずれも知らない」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（53.0%）がある人（26.6%）を26.4ポイント上回っている。

問17 あなたは、本市で、区ごとに、「減らそう犯罪安全なまちづくり推進協議会」（区によって名称は異なる。）が組織されるなど、安全なまちづくりに関する様々な活動が行われていることをご存じですか。（〇は、1つ）



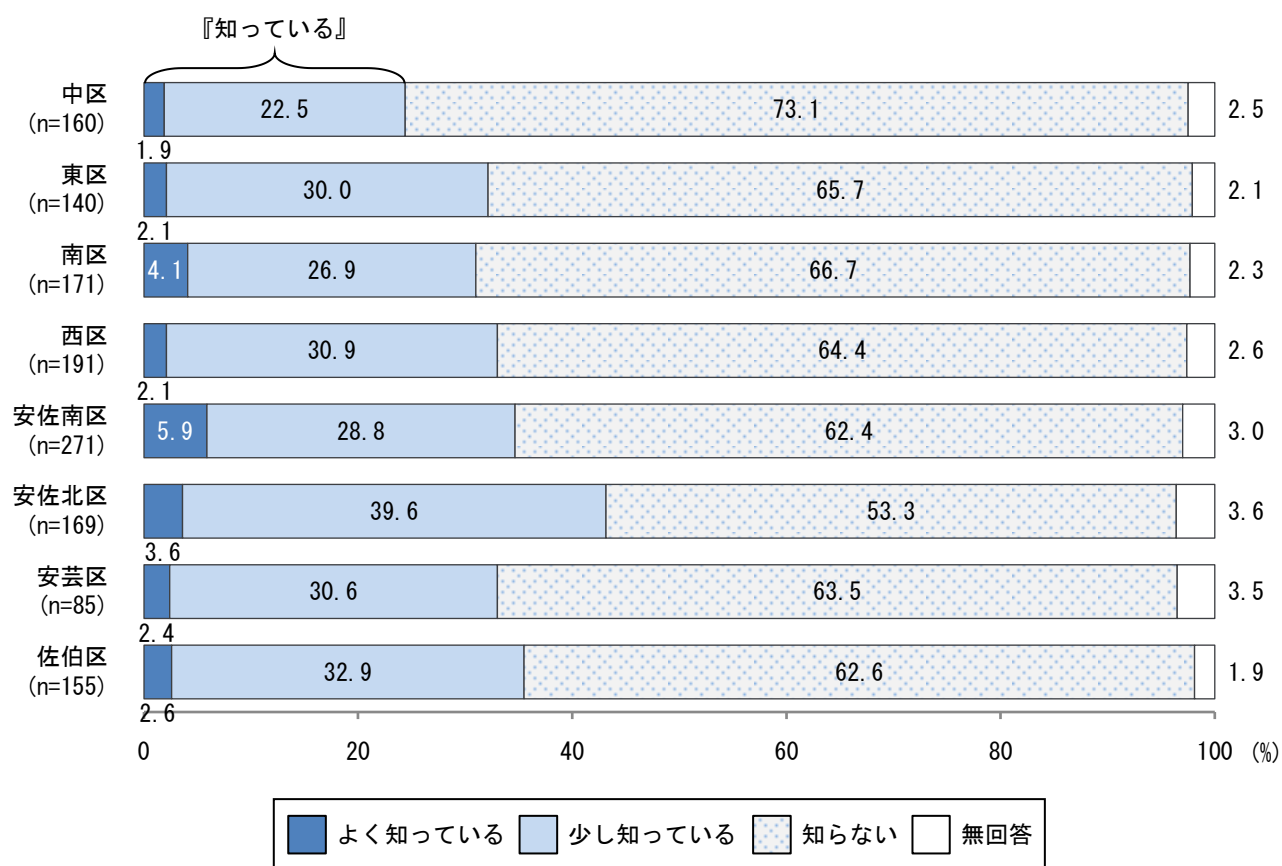
安全なまちづくりに関する活動の認知度について、『知っている』（「よく知っている」と「少し知っている」を合計した割合）との回答が33.5%、「知らない」との回答が63.8%となっている。
経年比較すると、『知っている』との回答は9.4ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【安全なまちづくりに関する活動の認知度（年代別）】



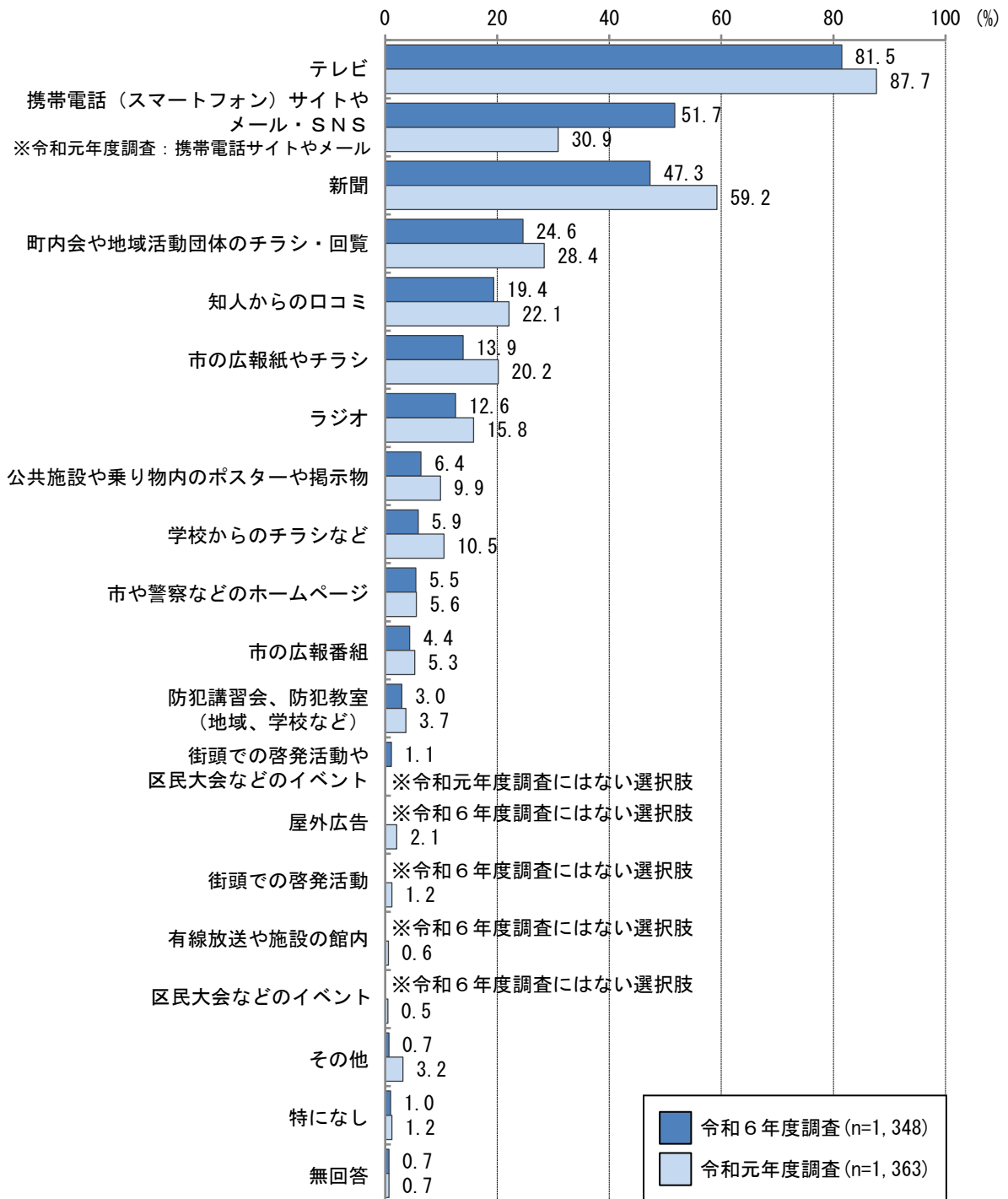
年代別にみると、『知っている』との回答は10歳代、80歳以上で4割台、「知らない」との回答は20歳代、30歳代で約8割と他の年代と比べ高くなっている。

【安全なまちづくりに関する活動の認知度（居住地区別）】



居住地区別にみると、『知っている』との回答は安佐北区で4割台前半、「知らない」との回答は中区で7割台前半と他の居住地区と比べ高くなっている。

問18 あなたは、おおむねこの1年間で犯罪や防犯に関する情報をどこから入手しましたか。
(〇は、いくつでも)



犯罪や防犯に関する情報入手媒体について、「テレビ」との回答が 81.5%と最も高く、次いで「携帯電話（スマートフォン）サイトやメール・SNS」（51.7%）、「新聞」（47.3%）などの順となっている。

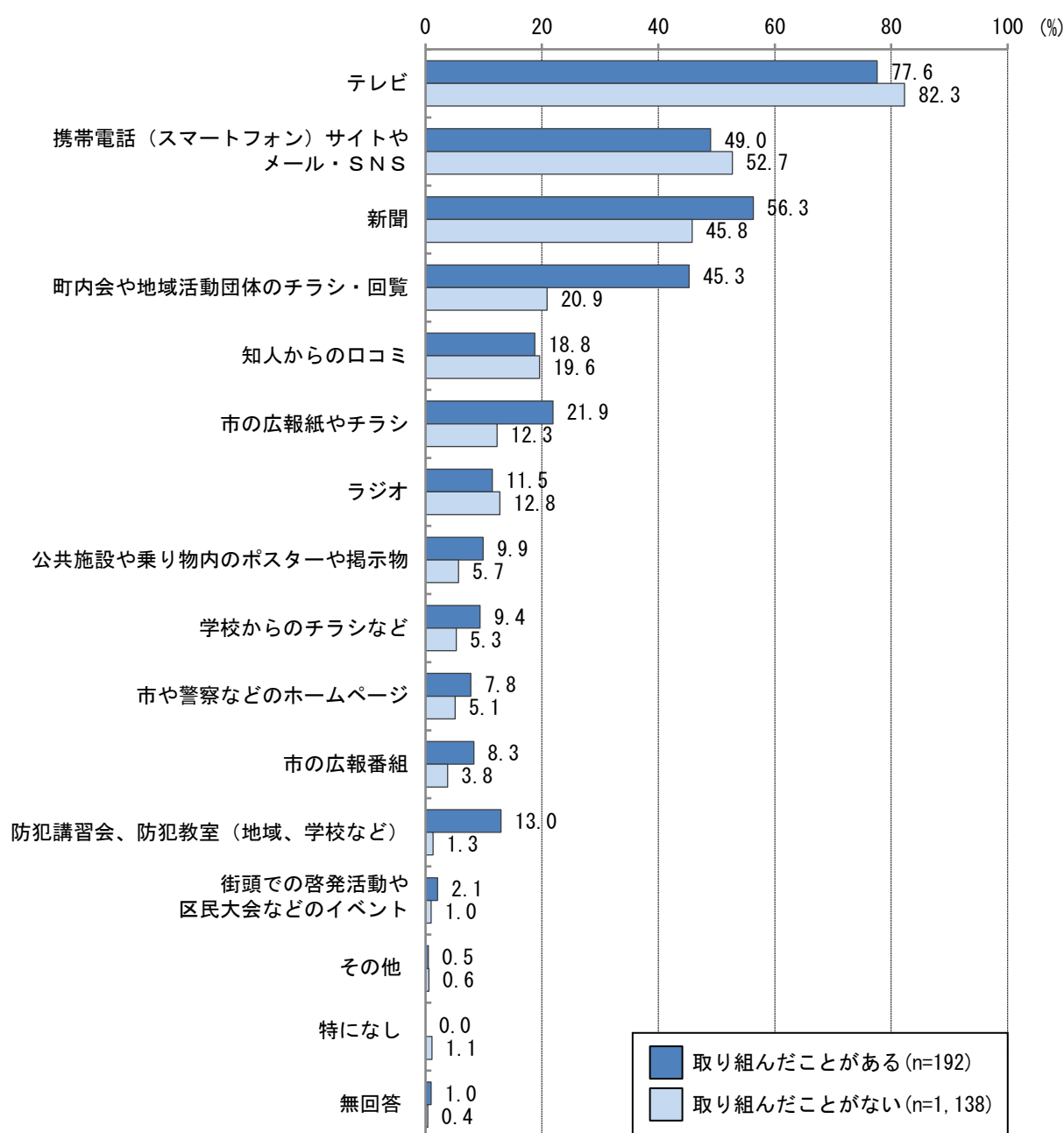
経年比較すると、「携帯電話（スマートフォン）サイトやメール・SNS」との回答は 20.8 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「テレビ」との回答は 6.2 ポイント、「新聞」との回答は 11.9 ポイント、「市の広報紙やチラシ」との回答は 6.3 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【犯罪や防犯に関する情報入手媒体（年代別）】

		件数	テレビ	携帯電話（スマートフォン） ・SNS サイトやメール	新聞	町内会や地域活動団体の チラシ・回覧	知人からの口コミ	市の広報紙やチラシ	ラジオ	公共施設や乗り物内の ポスターや掲示物	(%)
全体		1,348	81.5	51.7	47.3	24.6	19.4	13.9	12.6	6.4	
年代別	10歳代	26	73.1	76.9	19.2	3.8	15.4	7.7	－	7.7	
	20歳代	88	64.8	77.3	14.8	5.7	12.5	5.7	6.8	11.4	
	30歳代	139	69.1	79.1	14.4	8.6	13.7	4.3	2.2	5.8	
	40歳代	171	72.5	70.2	30.4	22.8	17.5	9.4	9.9	7.0	
	50歳代	257	79.8	62.3	42.4	14.4	16.7	6.6	12.5	6.6	
	60歳代	231	90.5	55.0	54.5	30.3	21.2	16.9	16.9	6.5	
	70歳代	262	89.3	26.7	71.8	37.0	25.6	21.4	16.8	5.3	
	80歳以上	168	90.5	11.9	72.6	39.9	22.6	27.4	17.3	4.2	

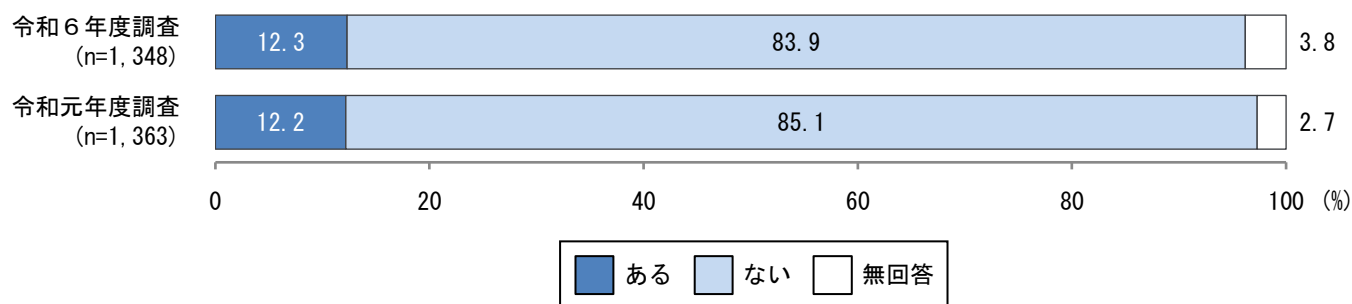
年代別にみると、「テレビ」との回答は60歳代以上で約9割、「携帯電話（スマートフォン）サイトやメール・SNS」との回答は10歳代から30歳代で7割台後半、「新聞」との回答は70歳代以上で7割台前半、「町内会や地域活動団体のチラシ・回覧」との回答は70歳代以上で3割台後半、「市の広報紙やチラシ」との回答は80歳以上で2割台後半と他の年代と比べ高くなっている。

【犯罪や防犯に関する情報入手媒体（防犯活動への取組の有無別）】



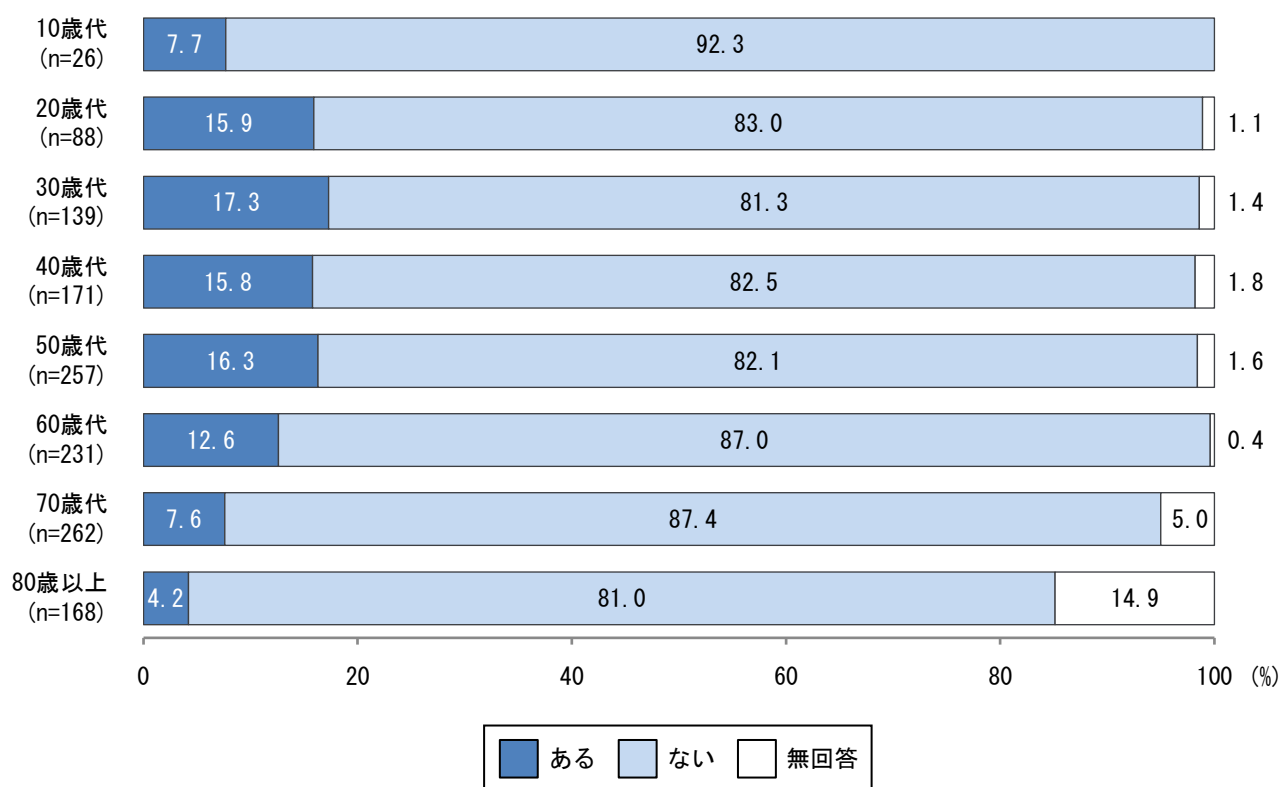
防犯活動への取組の有無別にみると、「新聞」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（56.3%）がない人（45.8%）を10.5ポイント、「町内会や地域活動団体のチラシ・回覧」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（45.3%）がない人（20.9%）を24.4ポイント、「市の広報紙やチラシ」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（21.9%）がない人（12.3%）を9.6ポイント、「防犯講習会、防犯教室（地域、学校など）」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（13.0%）がない人（1.3%）を11.7ポイント上回っている。

問19 あなたは、インターネット上でトラブルに巻き込まれたことがありますか。(〇は、1つ)



インターネット上でトラブルに巻き込まれた経験の有無について、「ある」との回答が12.3%、「ない」との回答が83.9%となっている。
 経年比較すると、大きな差はみられない。

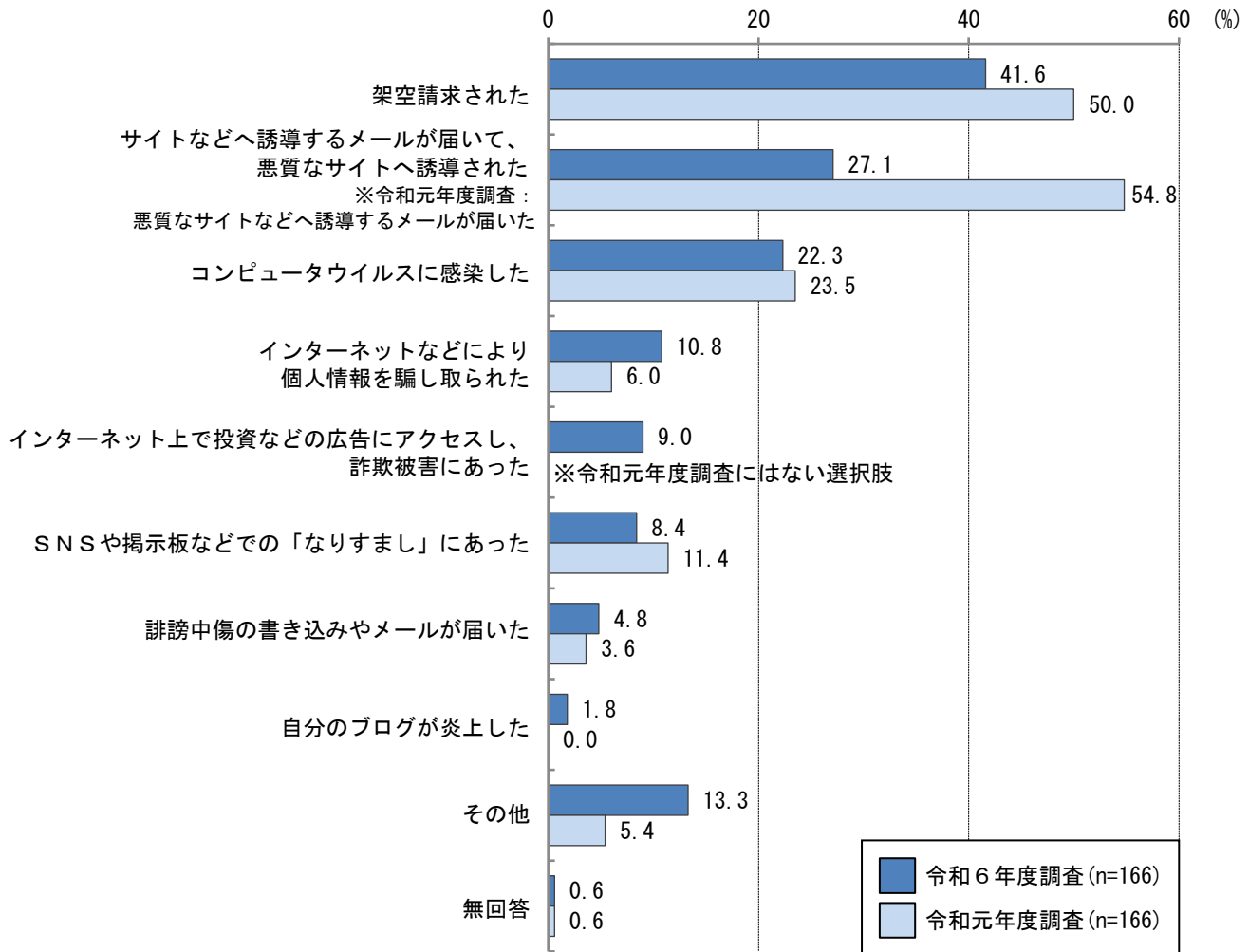
【インターネット上でトラブルに巻き込まれた経験の有無（年代別）】



年代別にみると、「ある」との回答は10歳代、70歳代、80歳以上で1割未満と他の年代と比べ低くなっている。

問20 【問19で「1 ある」と回答された方】

どのようなトラブルに巻き込まれたか、お答えください。（〇は、いくつでも）



インターネット上で巻き込まれたトラブルの内容について、「架空請求された」との回答が41.6%と最も高く、次いで「サイトなどへ誘導するメールが届いて、悪質なサイトへ誘導された」(27.1%)、「コンピュータウイルスに感染した」(22.3%)などの順となっている。

経年比較すると、「架空請求された」との回答は8.4ポイント、「サイトなどへ誘導するメールが届いて、悪質なサイトへ誘導された」との回答は27.7ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

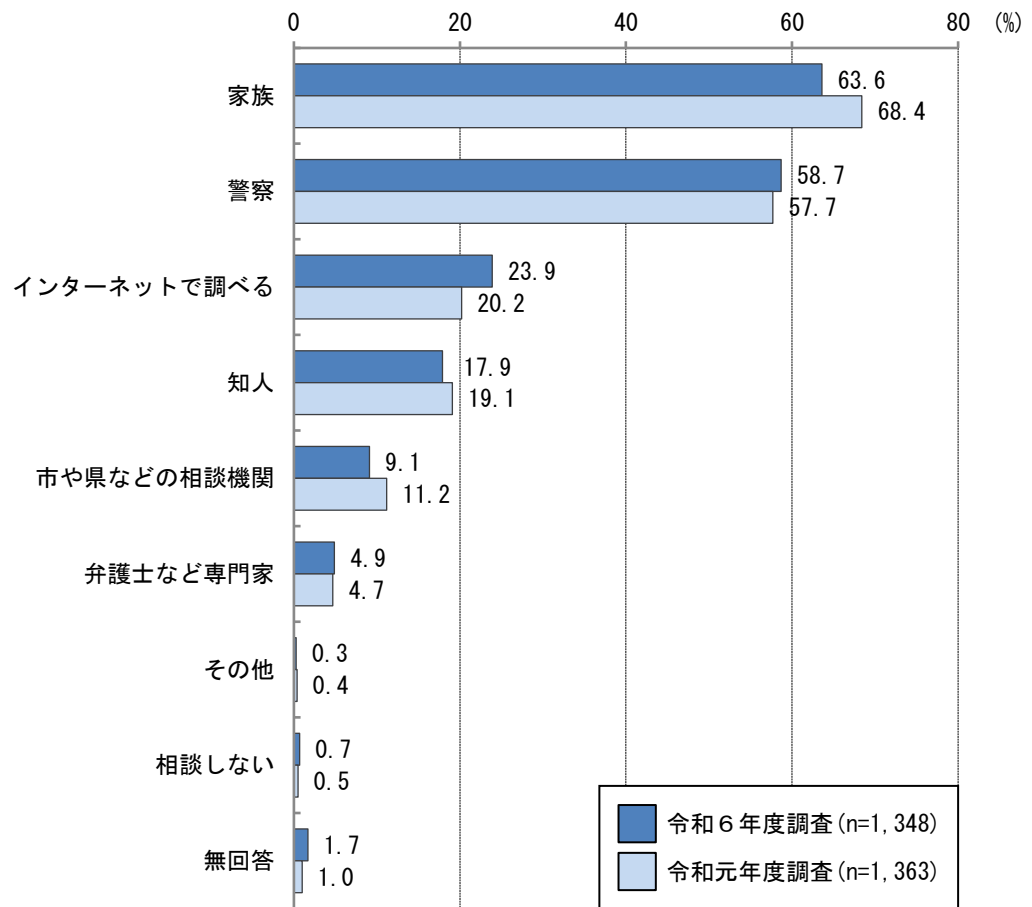
【インターネット上で巻き込まれたトラブルの内容（年代別）】

(%)

		件数	架空請求された	メールアドレスが誘導された	サイタルなどへ誘導する	コンピュータウイルスに感染した	インターネットなどに個人情報を騙し取られた	インターネット上で投資などの広告にアクセスし、詐欺被害にあった	インターネット上で「なりすまし」にあった	SNSや掲示板などで誹謗中傷の書き込みやメールが届いた	自分のブログが炎上した
全体		166	41.6	27.1	22.3	10.8	9.0	8.4	4.8	1.8	
年代別	10歳代・20歳代	16	31.3	37.5	6.3	12.5	6.3	18.8	12.5	12.5	
	30歳代	24	58.3	20.8	12.5	20.8	4.2	12.5	4.2	-	
	40歳代	27	55.6	22.2	18.5	11.1	14.8	7.4	-	3.7	
	50歳代	42	40.5	38.1	23.8	4.8	14.3	4.8	7.1	-	
	60歳代	29	37.9	20.7	24.1	6.9	3.4	6.9	6.9	-	
	70歳代	20	30.0	25.0	40.0	10.0	5.0	5.0	-	-	
	80歳以上	7	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	-	-	

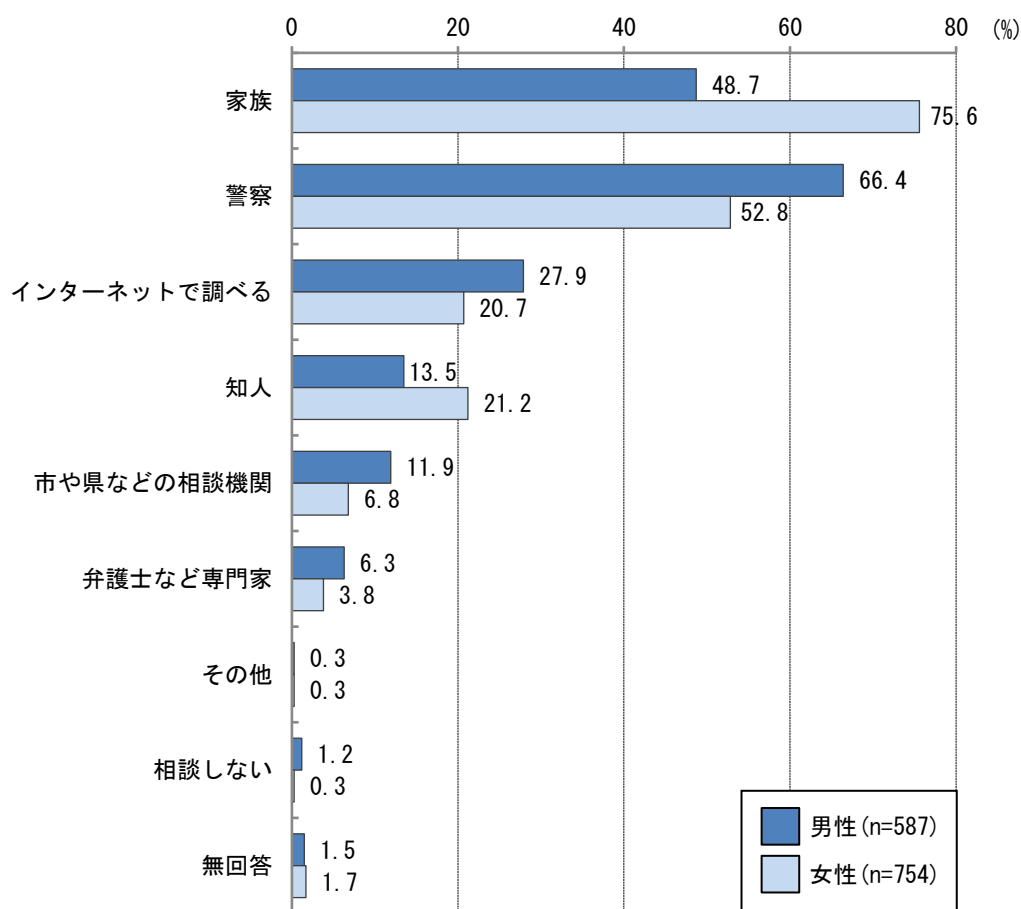
年代別にみると、「架空請求された」との回答は30歳代、40歳代で5割台、「サイトに誘導するメールが届いて、悪質なサイトに誘導された」との回答は50歳代で3割台後半、「インターネットなどにより個人情報を騙し取られた」との回答は30歳代で約2割、「インターネット上で投資などの広告にアクセスし、詐欺被害にあった」との回答は40歳代、50歳代で1割台半ば、「SNSや掲示板などでの「なりすまし」にあった」との回答は30歳代で1割台前半と他の年代と比べて高くなっている。

問21 あなたが、犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合に相談するとしたら、次のうちどれですか。(〇は、2つ以内)



犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先について、「家族」との回答が63.6%と最も高く、次いで「警察」(58.7%)、「インターネットで調べる」(23.9%)などの順となっている。経年比較すると、大きな差はみられない。

【犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先（性別）】



性別にみると、「警察」との回答は男性（66.4%）が女性（52.8%）を13.6ポイント、「インターネットで調べる」との回答は男性（27.9%）が女性（20.7%）を7.2ポイント、「市や県などの相談機関」との回答は男性（11.9%）が女性（6.8%）を5.1ポイント上回っている。一方、「家族」との回答は女性（75.6%）が男性（48.7%）を26.9ポイント、「知人」との回答は女性（21.2%）が男性（13.5%）を7.7ポイント上回っている。

【犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先（年代別）】

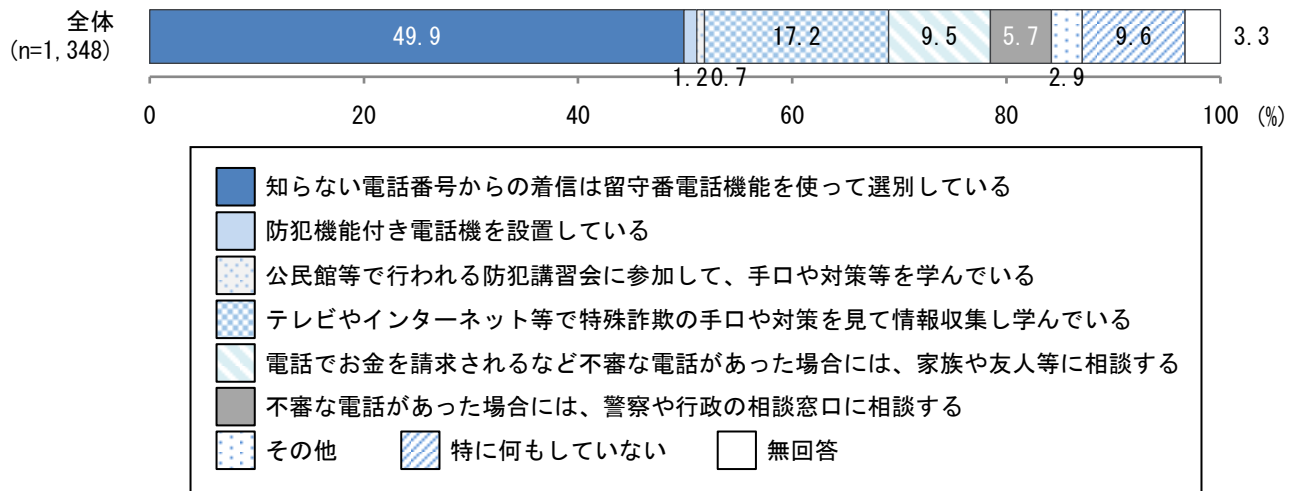
(%)

		件 数	家 族	警 察	る イン ター ネッ トで 調べ	知 人	市 や 県 な ど の 相 談 機 関	弁 護 士 な ど 専 門 家	そ の 他	相 談 し な い
全体		1,348	63.6	58.7	23.9	17.9	9.1	4.9	0.3	0.7
年 代 別	10歳代	26	92.3	46.2	15.4	11.5	7.7	-	-	-
	20歳代	88	77.3	43.2	35.2	14.8	4.5	3.4	-	-
	30歳代	139	69.8	48.9	33.8	23.0	2.9	5.8	-	0.7
	40歳代	171	58.5	59.6	35.7	17.0	5.8	5.8	0.6	0.6
	50歳代	257	58.0	52.5	34.2	21.4	9.7	9.7	-	0.8
	60歳代	231	62.3	61.9	27.3	17.3	6.9	4.3	-	1.3
	70歳代	262	63.7	68.7	8.4	16.8	16.4	1.9	0.8	0.4
	80歳以上	168	63.1	65.5	3.6	14.3	10.7	3.0	0.6	0.6

年代別にみると、「家族」との回答は10歳代で9割台前半、「インターネットで調べる」との回答は20歳代から50歳代で3割台と他の年代と比べ高くなっている。

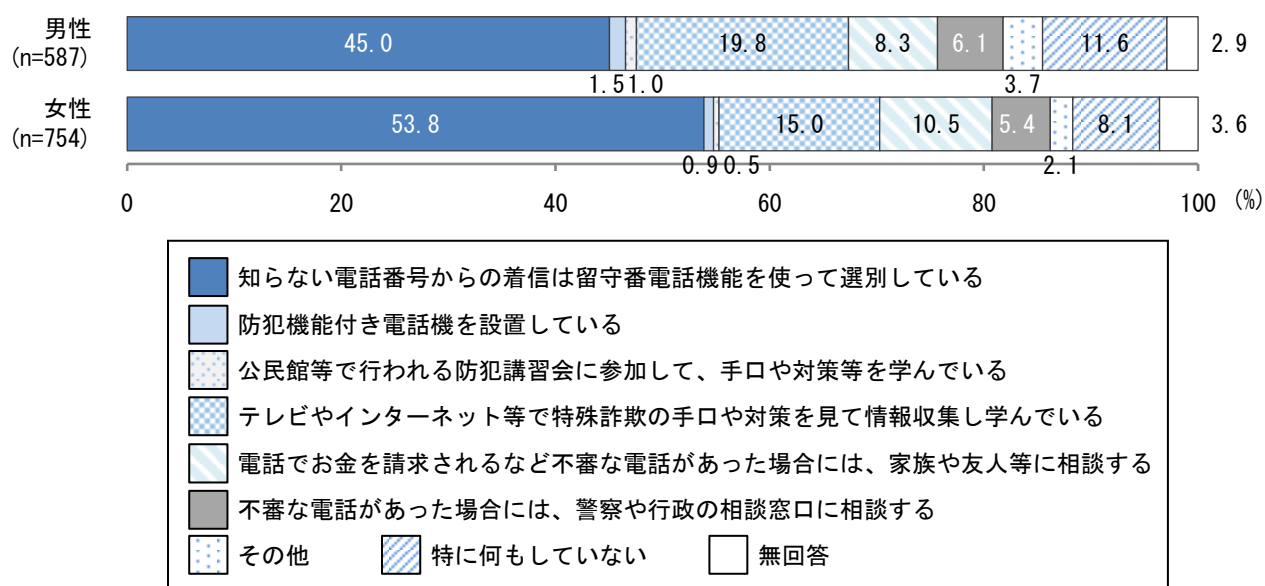
問22 オレオレ詐欺や還付金詐欺などの特殊詐欺について、あなたはどのような対策をとっていますか。対策をとっている中で、最も重要と考えるもの1つを選んでください。

(○は、1つ)



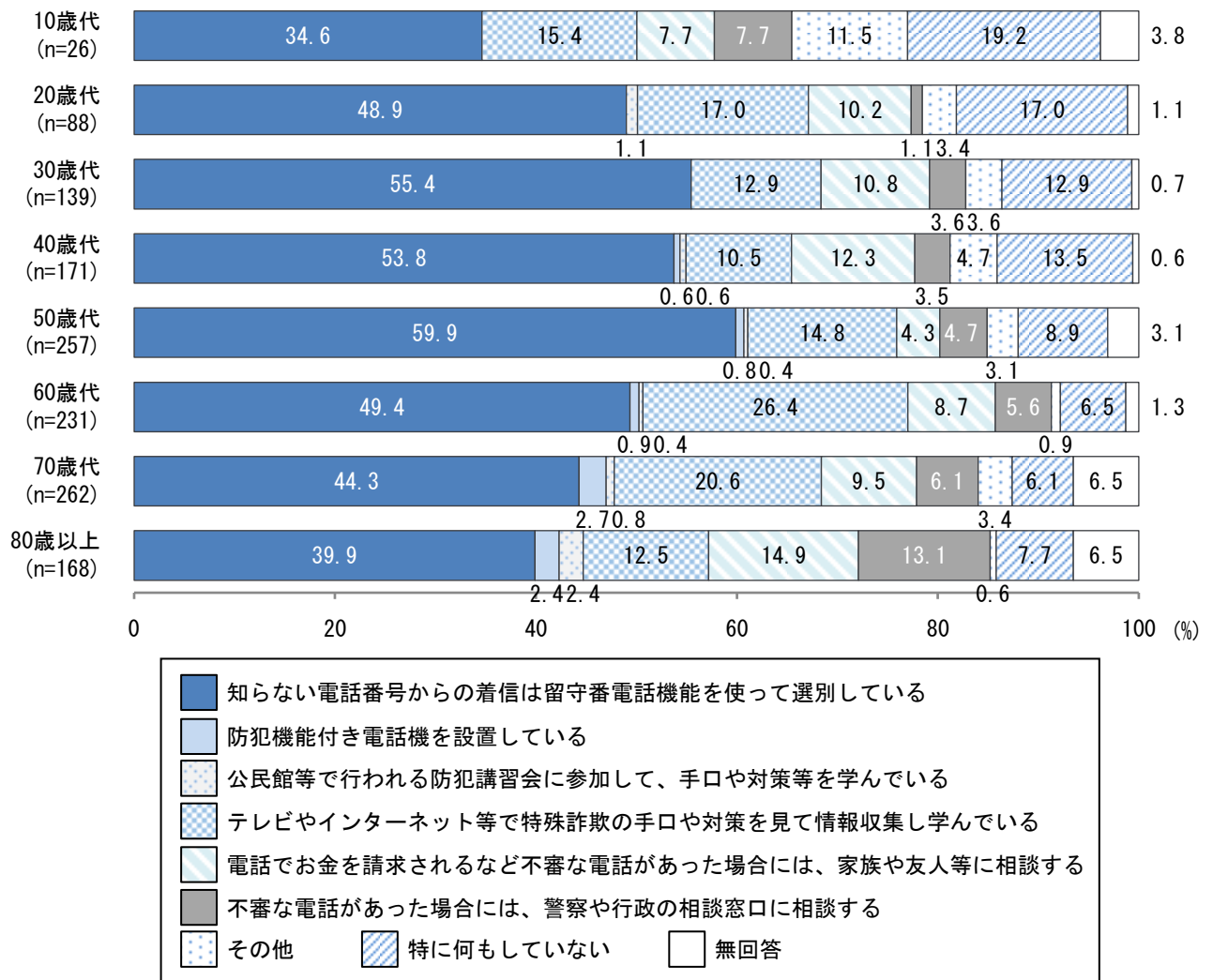
特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策について、「知らない電話番号からの着信は留守番電話機能を使って選別している」との回答が49.9%と最も高く、次いで「テレビやインターネット等で特殊詐欺の手口や対策を見て情報収集し学んでいる」(17.2%)、「電話でお金を請求されるなど不審な電話があった場合には、家族や友人等に相談する」(9.5%)などの順となっている。また、「特に何もしていない」との回答は9.6%となっている。

【特殊詐欺の被害にあわないためにとっている対策（性別）】



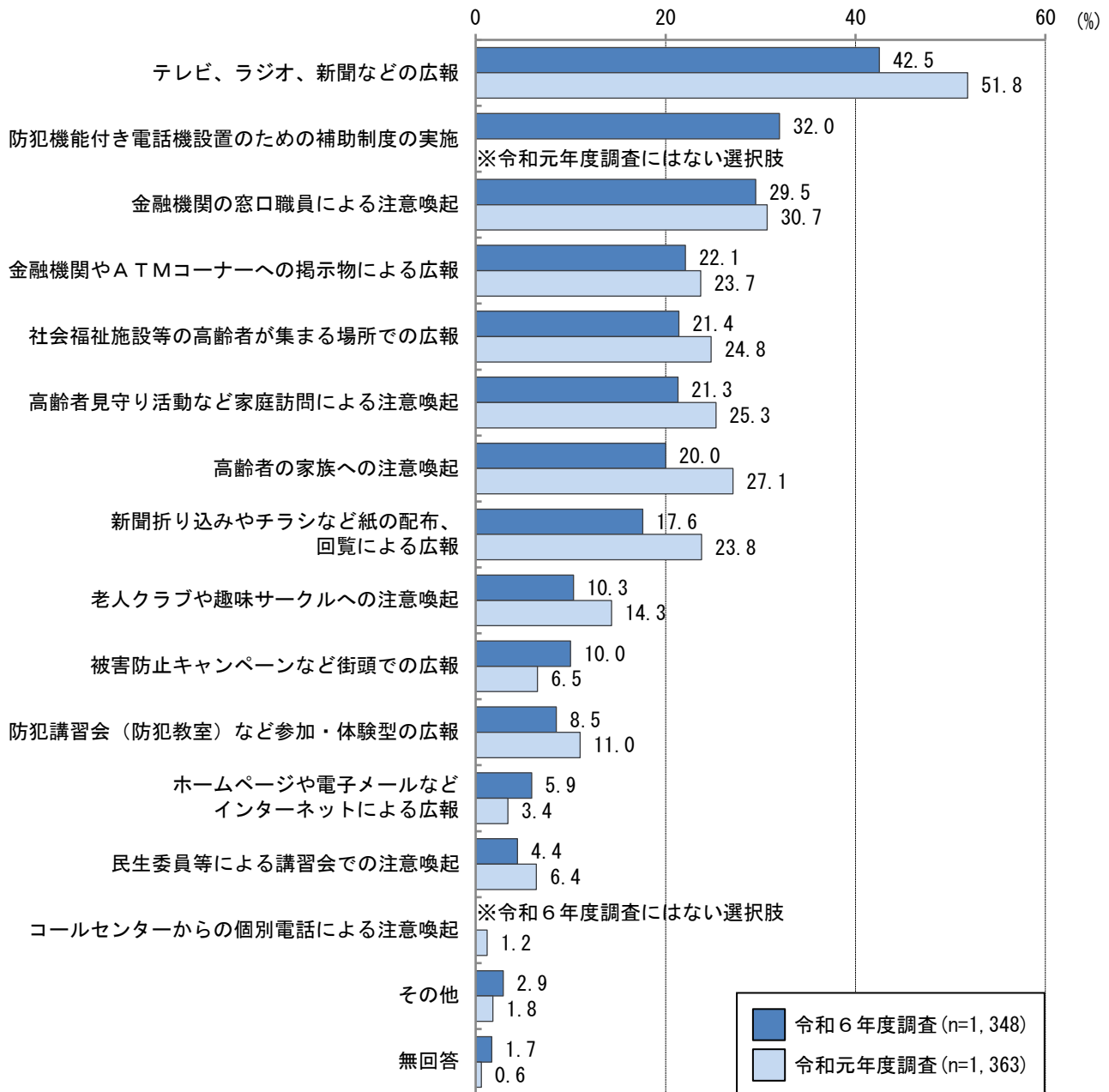
性別にみると、「知らない電話番号からの着信は留守番電話機能を使って選別している」との回答は女性（53.8%）が男性（45.0%）を8.8ポイント上回っている。

【特殊詐欺の被害にあわないためにとっている対策（年代別）】



年代別にみると、「知らない電話番号からの着信は留守番電話機能を使って選別している」との回答は50歳代で約6割、「テレビやインターネット等で特殊詐欺の手口や対策を見て情報収集し学んでいる」との回答は60歳代で2割台後半、「不審な電話があった場合には、警察や行政の相談窓口相談する」との回答は80歳以上で1割台前半と他の年代と比べ高くなっている。

問23 あなたは、被害者の多くを占める高齢者が特殊詐欺の被害にあわないため行政や警察が行う取組は何が有効だと思いますか。(〇は、3つ以内)



高齢者が特殊詐欺の被害にあわないために行政や警察が行う有効な取組について、「テレビ、ラジオ、新聞などの広報」との回答が42.5%と最も高く、次いで「防犯機能付き電話機設置のための補助制度の実施」(32.0%)、「金融機関の窓口職員による注意喚起」(29.5%)などの順となっている。

経年比較すると、「テレビ、ラジオ、新聞などの広報」との回答は9.3ポイント、「高齢者の家族への注意喚起」との回答は7.1ポイント、「新聞折り込みやチラシなど紙の配布、回覧による広報」との回答は6.2ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【高齢者が特殊詐欺の被害にあわないために行政や警察が行う有効な取組（年代別）】

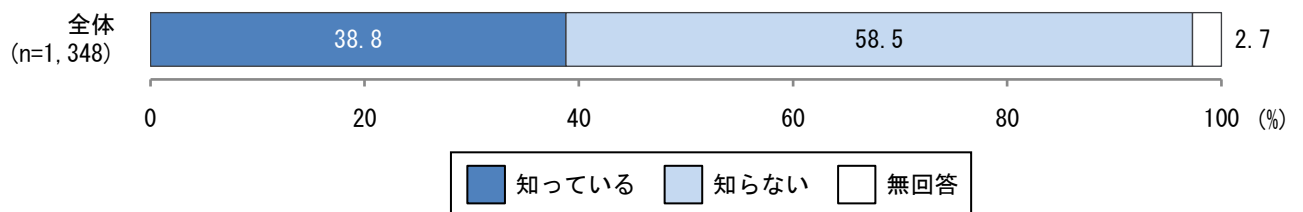
(%)												
		件数	テレビ、ラジオ、新聞などの広報	実施のため補助制度の設	防犯機能付き電話機の設置	金融機関の窓口職員による注意喚起	金融機関やＡＴＭコーナーへの掲示物による広報	報者が集まる場所での高齢	社会福祉施設等での高齢	起家庭訪問による活動など	高年齢者の家族への注意喚起	新聞折り込みやチラシなど紙の配布、回覧による広報
全体		1,348	42.5	32.0	29.5	22.1	21.4	21.3	20.0	17.6		
年代別	10歳代	26	26.9	30.8	15.4	3.8	15.4	34.6	23.1	11.5		
	20歳代	88	33.0	30.7	23.9	27.3	20.5	25.0	29.5	18.2		
	30歳代	139	27.3	26.6	32.4	23.7	25.2	25.9	25.2	8.6		
	40歳代	171	29.8	22.8	40.4	24.6	28.1	27.5	28.7	15.8		
	50歳代	257	40.1	34.2	37.4	29.2	22.2	20.6	25.3	10.5		
	60歳代	231	47.6	34.2	34.2	23.4	23.4	19.9	17.7	17.7		
	70歳代	262	53.1	35.9	22.9	19.1	14.1	16.8	11.5	25.2		
80歳以上	168	56.5	35.1	14.3	10.7	20.8	17.3	9.5	26.8			

年代別にみると、「テレビ、ラジオ、新聞などの広報」との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。また、「高齢者見守り活動など家庭訪問による注意喚起」との回答は10歳代で3割台半ばと他の年代と比べ高く、「金融機関やＡＴＭコーナーへの掲示物による広報」との回答は10歳代で1割未満と他の年代と比べ低くなっている。

問24 近年、SNS型投資・ロマンス詐欺※の被害が増加していますが、あなたは、その被害にあわないための対策を知っていますか。(〇は、1つ)

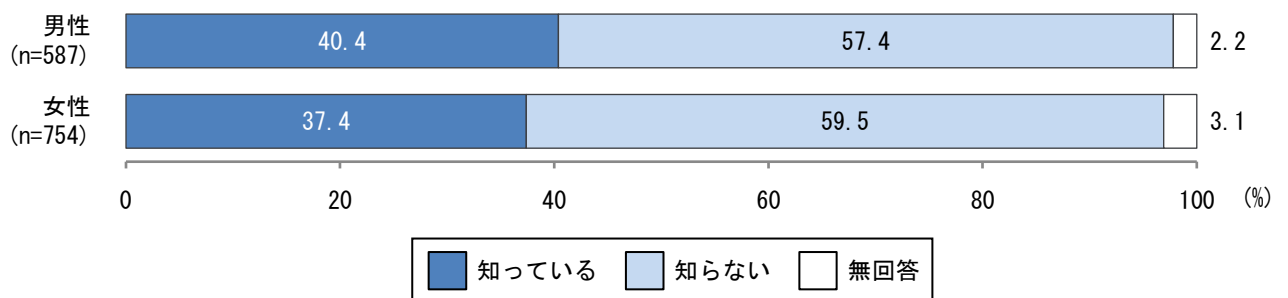
※SNS型投資詐欺：SNS等を通じて対面することなく交信を重ね、投資アプリに誘導するなどし、虚偽の利益を表示する方法などにより心理的安心感を与え、架空の投資を継続させながら、投資金名目や利益の出金手数料名目などで金銭をだまし取る詐欺

※SNS型ロマンス詐欺：SNS、マッチングアプリなどを通じて対面することなく交信を重ね、恋愛感情や親近感を抱かせながら、投資に誘導し、投資金名目や出金手数料名目などで、交際の継続等を前提とした様々な名目で金銭をだまし取る詐欺



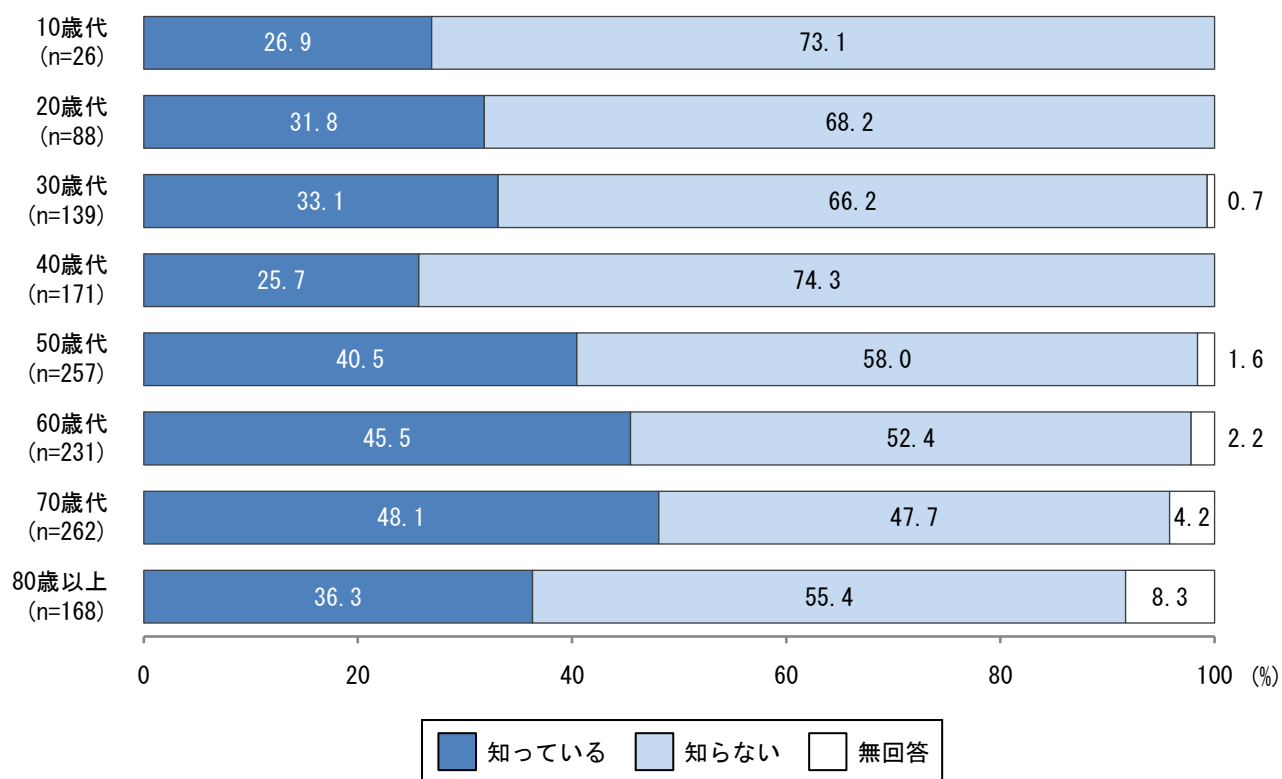
SNS型投資・ロマンス詐欺の被害にあわないための対策の認知状況について、「知っている」との回答が38.8%、「知らない」との回答が58.5%となっている。

【SNS型投資・ロマンス詐欺の被害にあわないための対策の認知状況（性別）】



性別にみると、大きな差はみられない。

【SNS型投資・ロマンス詐欺の被害にあわないための対策の認知状況（年代別）】

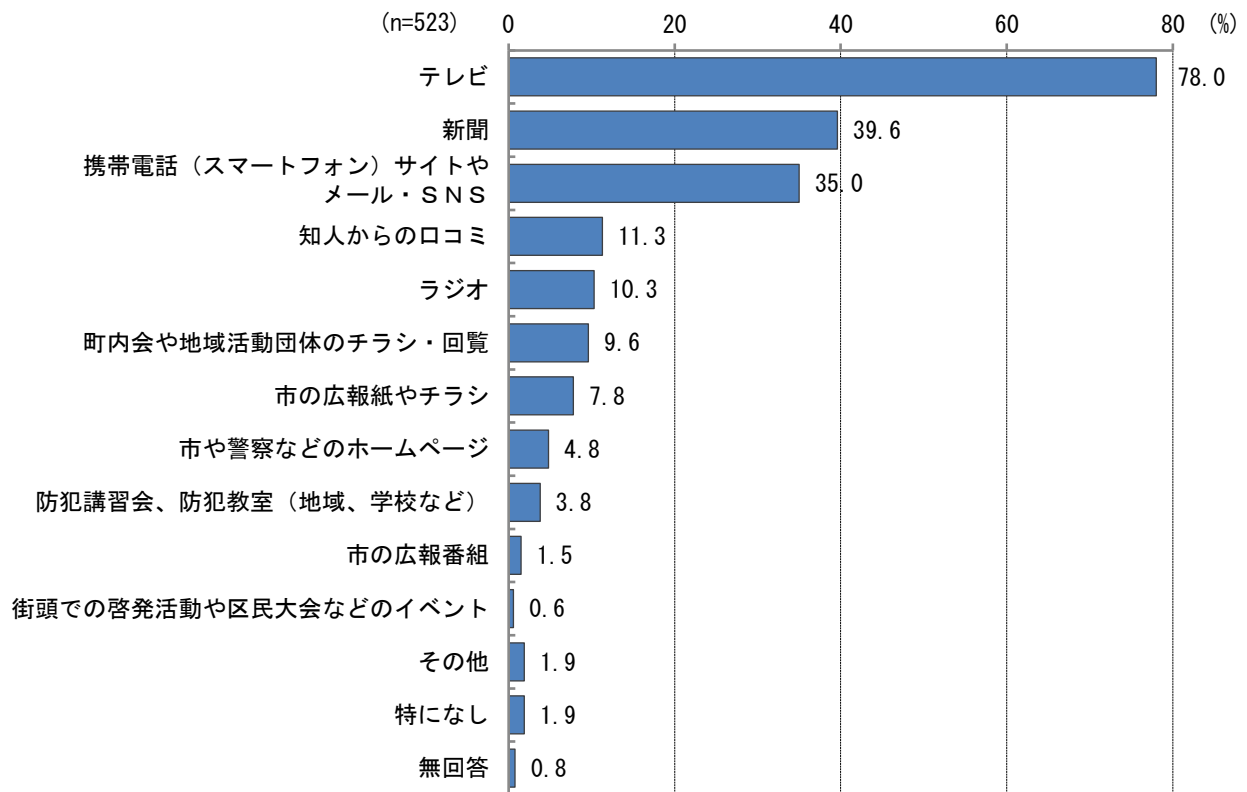


年代別にみると、「知っている」との回答は60歳代、70歳代で4割台後半と他の年代と比べ高くなっている。

問25 【問24で「1 知っている」と回答された方】

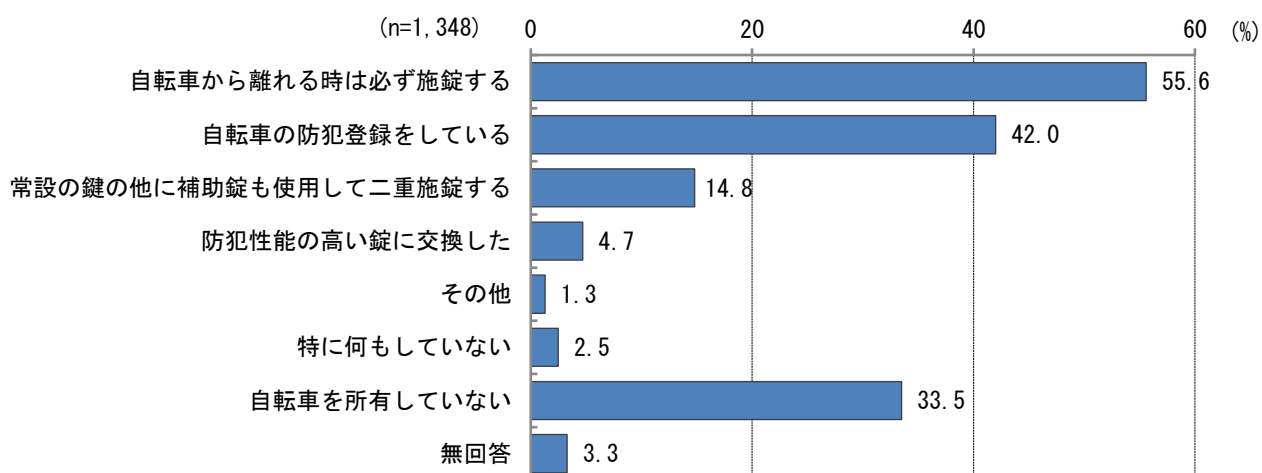
あなたは、SNS型投資・ロマンス詐欺への対策をどのような方法で知りましたか。

(〇は、いくつでも)



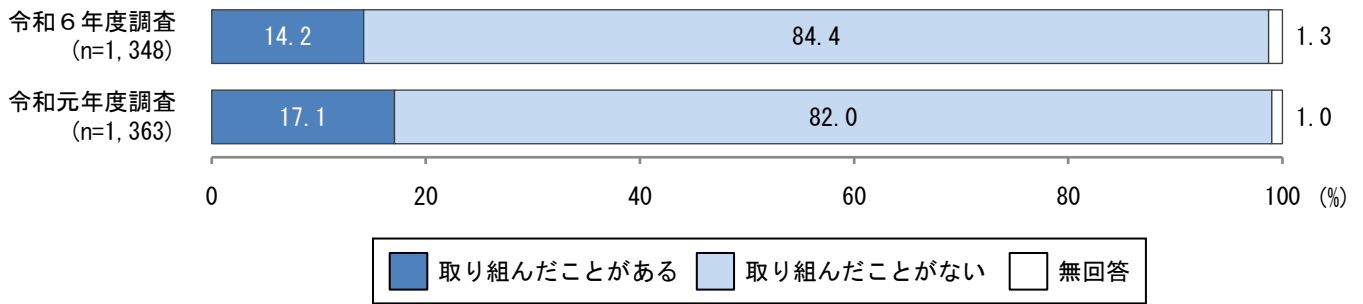
SNS型投資・ロマンス詐欺への対策を知った方法について、「テレビ」との回答が78.0%と最も高く、次いで「新聞」(39.6%)、「携帯電話 (スマートフォン) サイトやメール・SNS」(35.0%)などの順となっている。

問26 あなたが、自転車の盗難を防ぐために行っている取組は何ですか。(〇は、いくつでも)



自転車盗難を防ぐために行っている取組について、「自転車から離れる時は必ず施錠する」との回答が 55.6%と最も高く、次いで「自転車の防犯登録をしている」(42.0%)、「常設の鍵の他に補助錠も使用して二重施錠する」(14.8%)などの順となっている。また、「自転車を所有していない」との回答は 33.5%となっている。

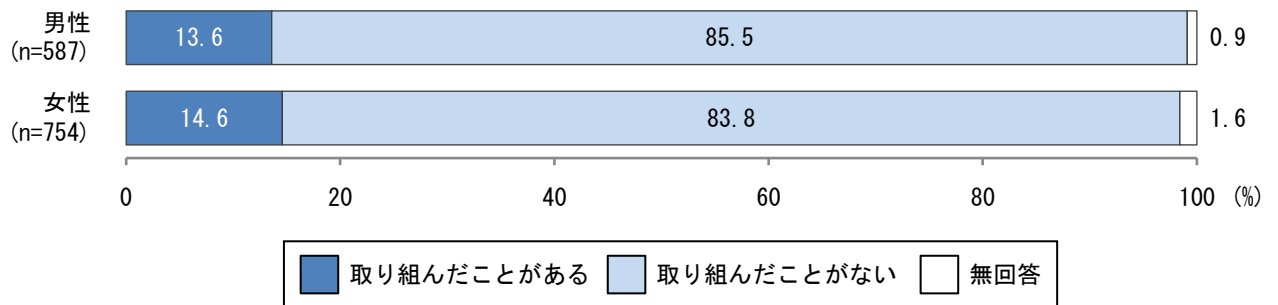
問27 あなたは、地域で防犯活動に取り組んだことがありますか。(〇は、1つ)



防犯活動への取り組みの有無について、「取り組んだことがある」との回答が14.2%、「取り組んだことがない」との回答が84.4%となっている。

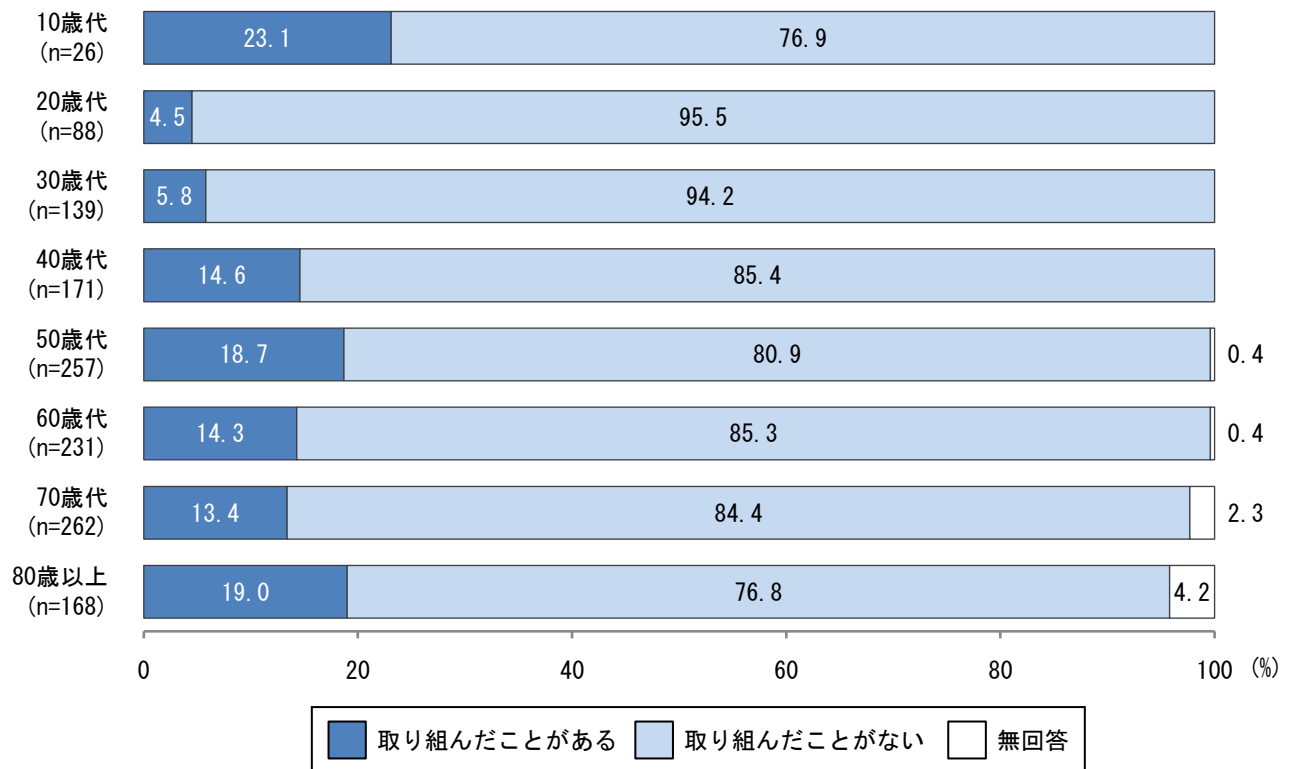
経年比較すると、大きな差はみられない。

【防犯活動への取り組みの有無（性別）】



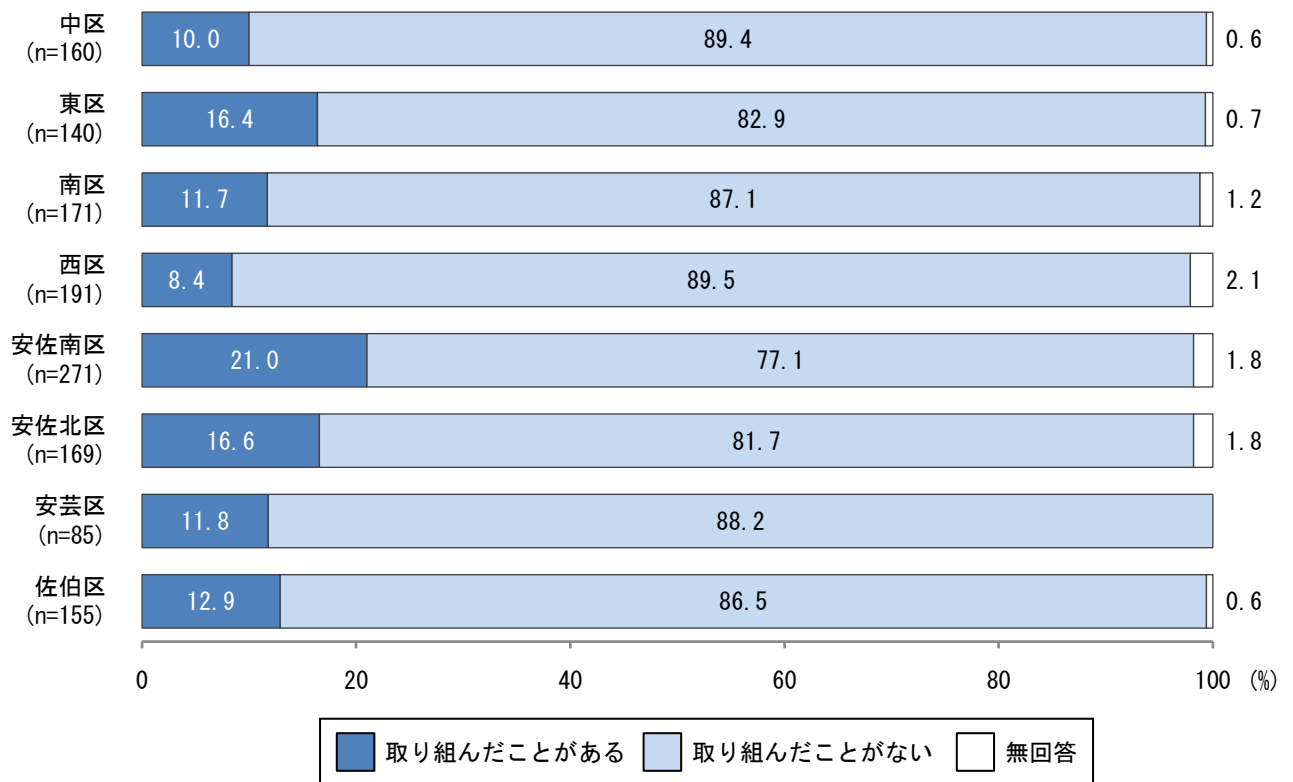
性別にみると、大きな差はみられない。

【防犯活動への取り組みの有無（年代別）】



年代別にみると、「取り組んだことがある」との回答は20歳代、30歳代で1割未満と他の年代と比べ低くなっている。

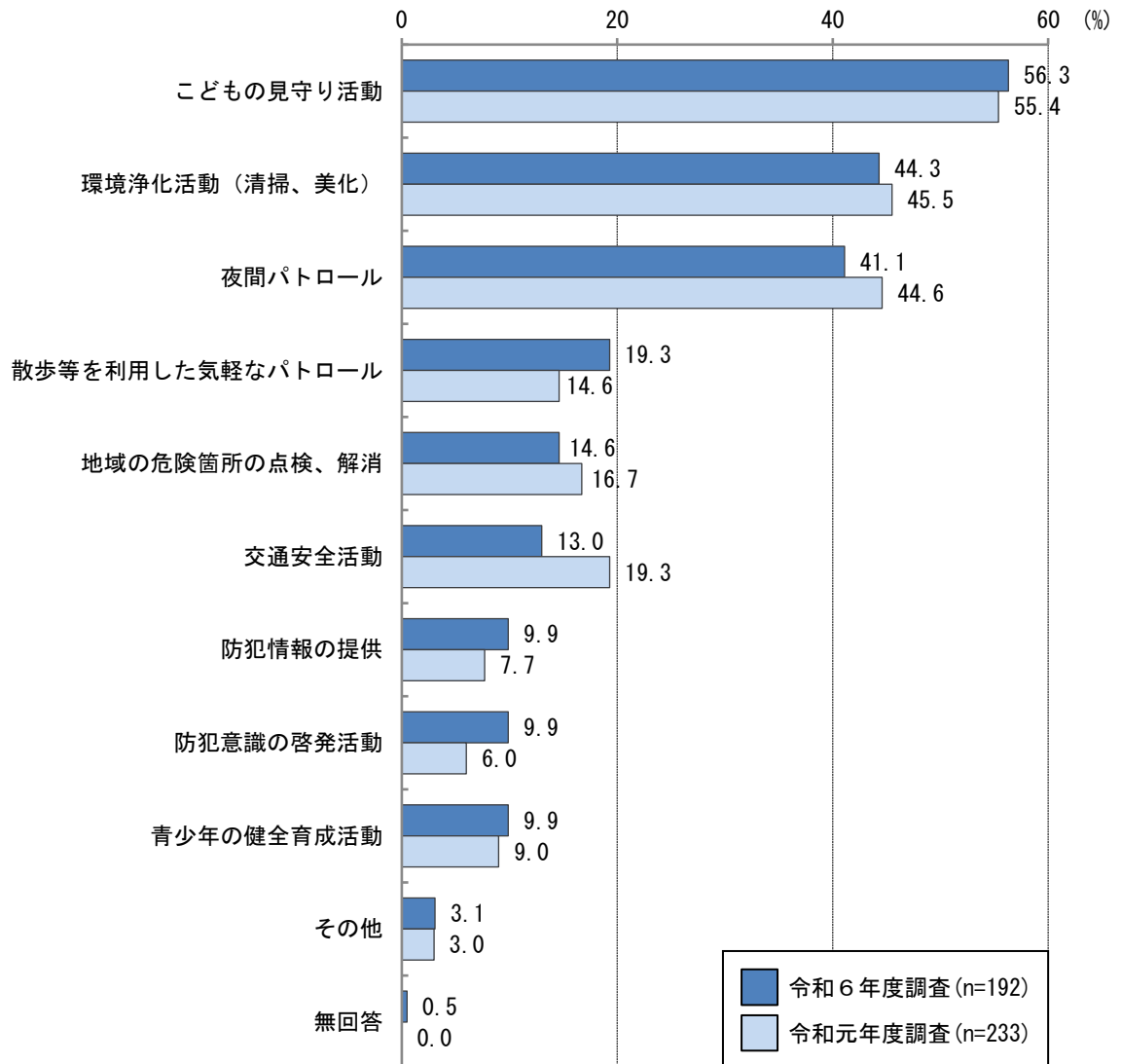
【防犯活動への取り組みの有無（居住地区別）】



居住地区別にみると、「取り組んだことがある」との回答は安佐南区で2割台前半と他の居住地区と比べ高くなっている。

問28 【問27で「1 取り組んだことがある」と回答された方】

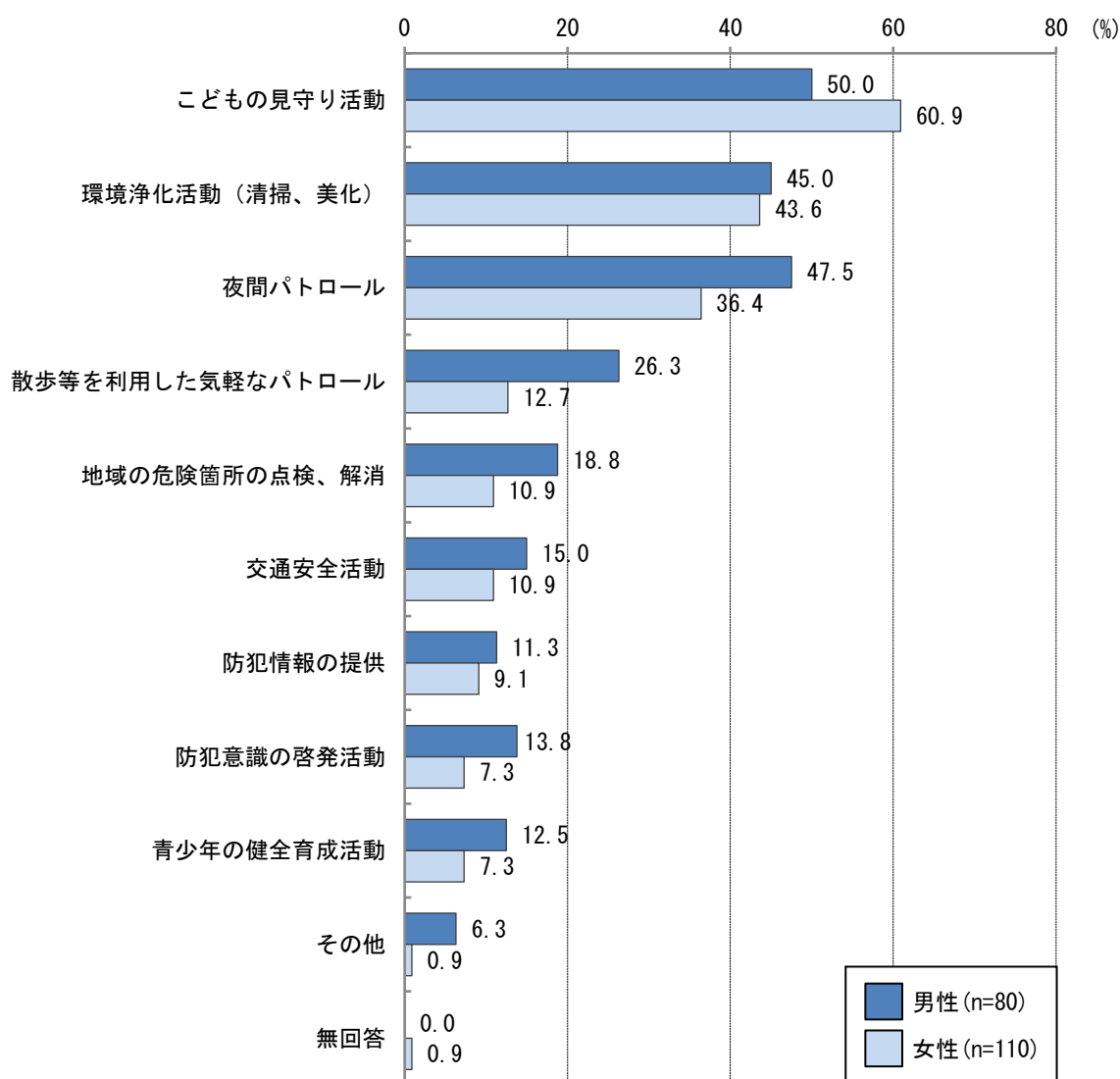
取り組んだことがある活動内容を回答してください。（〇は、いくつでも）



取り組んだことがある防犯活動の内容について、「こどもの見守り活動」との回答が 56.3%と最も高く、次いで「環境浄化活動（清掃、美化）」（44.3%）、「夜間パトロール」（41.1%）などの順となっている。

経年比較すると、「交通安全活動」との回答は 6.3 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【取り組んだことがある防犯活動の内容（性別）】



性別にみると、「夜間パトロール」との回答は男性（47.5%）が女性（36.4%）を11.1ポイント、「散歩等を利用した気軽なパトロール」との回答は男性（26.3%）が女性（12.7%）を13.6ポイント、「地域の危険箇所の点検、解消」との回答は男性（18.8%）が女性（10.9%）を7.9ポイント、「防犯意識の啓発活動」との回答は男性（13.8%）が女性（7.3%）を6.5ポイント、「青少年の健全育成活動」との回答は男性（12.5%）が女性（7.3%）を5.2ポイント上回っている。一方、「こどもの見守り活動」との回答は女性（60.9%）が男性（50.0%）を10.9ポイント上回っている。

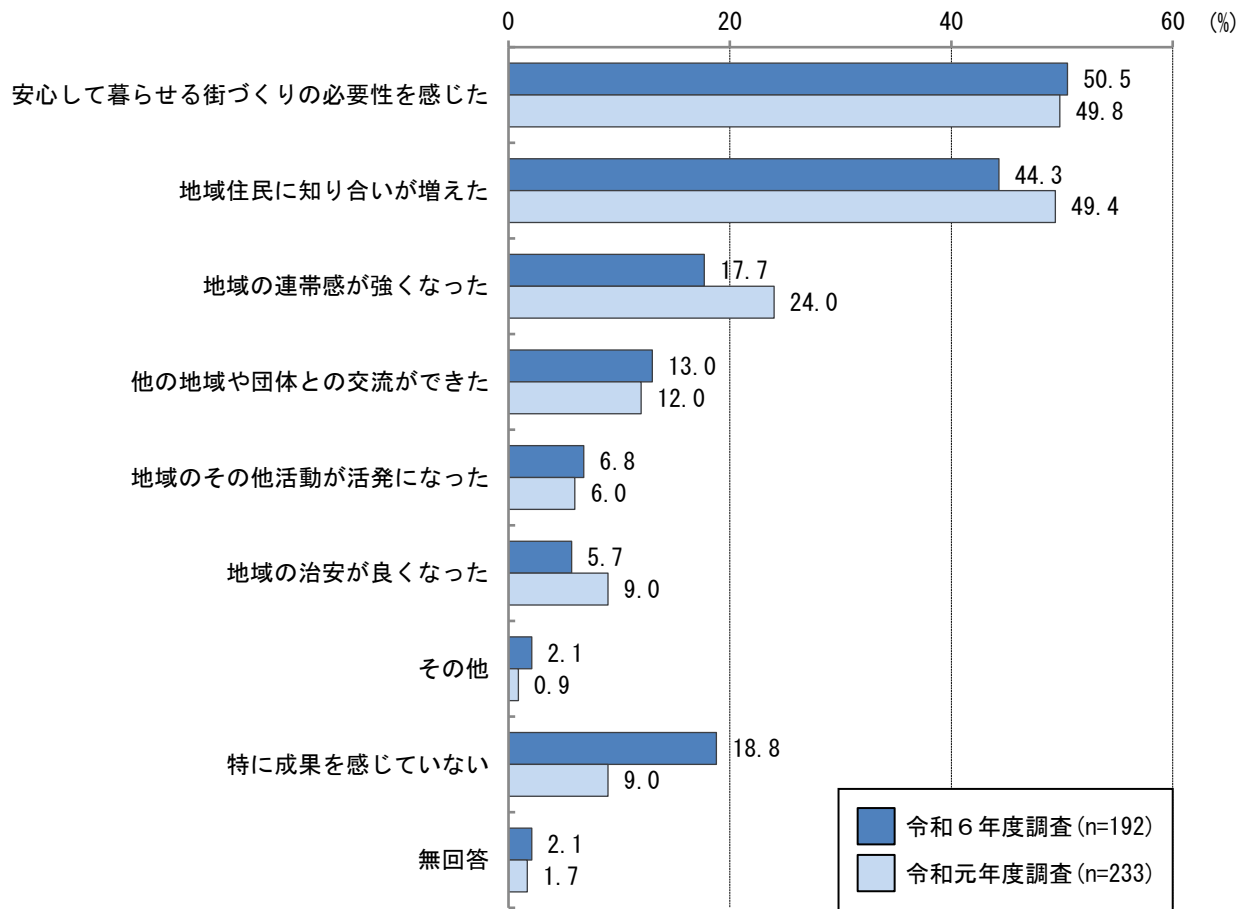
【取り組んだことがある防犯活動の内容（年代別）】

		件数	こどもの見守り活動	環境浄化活動（清掃、美化）	夜間パトロール	散歩等を利用した気軽なパトロール	地域の危険箇所の点検、解消	交通安全活動	防犯情報の提供	防犯意識の啓発活動
										(%)
全体		192	56.3	44.3	41.1	19.3	14.6	13.0	9.9	9.9
年代別	10歳代・20歳代	10	30.0	60.0	－	－	20.0	30.0	10.0	－
	30歳代	8	75.0	25.0	－	12.5	12.5	－	25.0	25.0
	40歳代	25	80.0	32.0	24.0	12.0	8.0	8.0	12.0	12.0
	50歳代	48	64.6	43.8	35.4	12.5	12.5	12.5	6.3	8.3
	60歳代	33	33.3	51.5	54.5	15.2	12.1	3.0	9.1	6.1
	70歳代	35	54.3	48.6	48.6	37.1	17.1	20.0	11.4	11.4
	80歳以上	32	56.3	43.8	65.6	25.0	18.8	18.8	9.4	12.5

年代別にみると、「こどもの見守り活動」との回答は 40 歳代で 8 割、「夜間パトロール」との回答は 80 歳以上で 6 割台半ば、「散歩等を利用した気軽なパトロール」との回答は 70 歳代で 3 割台後半と他の年代と比べ高くなっている。

問29 【問27で「1 取り組んだことがある」と回答された方】

防犯活動に取り組んで、どのような成果があったと感じていますか。(〇は、いくつでも)

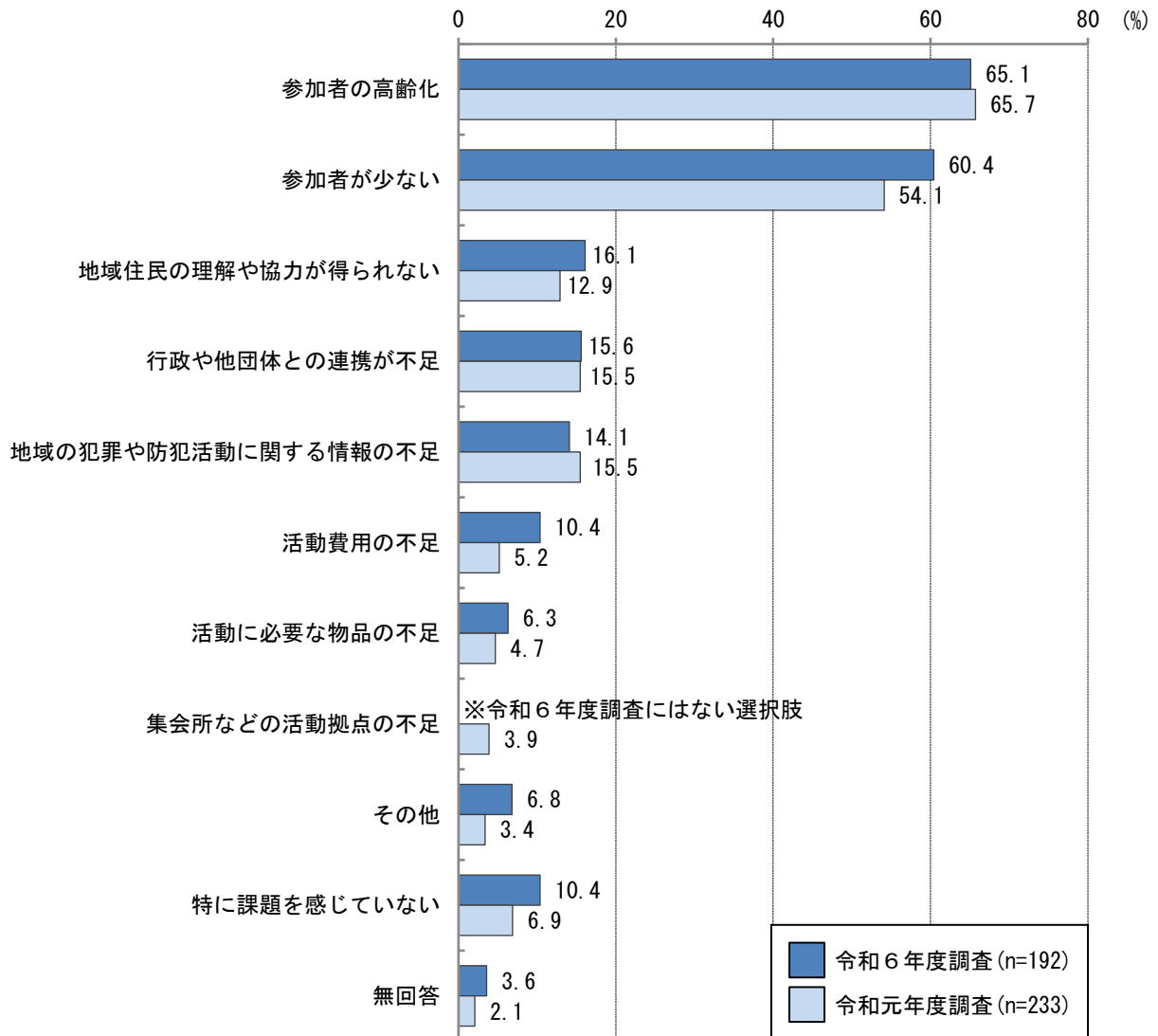


防犯活動の成果について、「安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」との回答が 50.5%と最も高く、次いで「地域住民に知り合いが増えた」(44.3%)、「地域の連帯感が強くなった」(17.7%)などの順となっている。

経年比較すると、「地域住民に知り合いが増えた」との回答は 5.1 ポイント、「地域の連帯感が強くなった」との回答は 6.3 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。また、「特に成果を感じていない」との回答は 9.8 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

問30 【問27で「1 取り組んだことがある」と回答された方】

防犯活動に取り組んで、どのような課題があると感じていますか。(〇は、いくつでも)

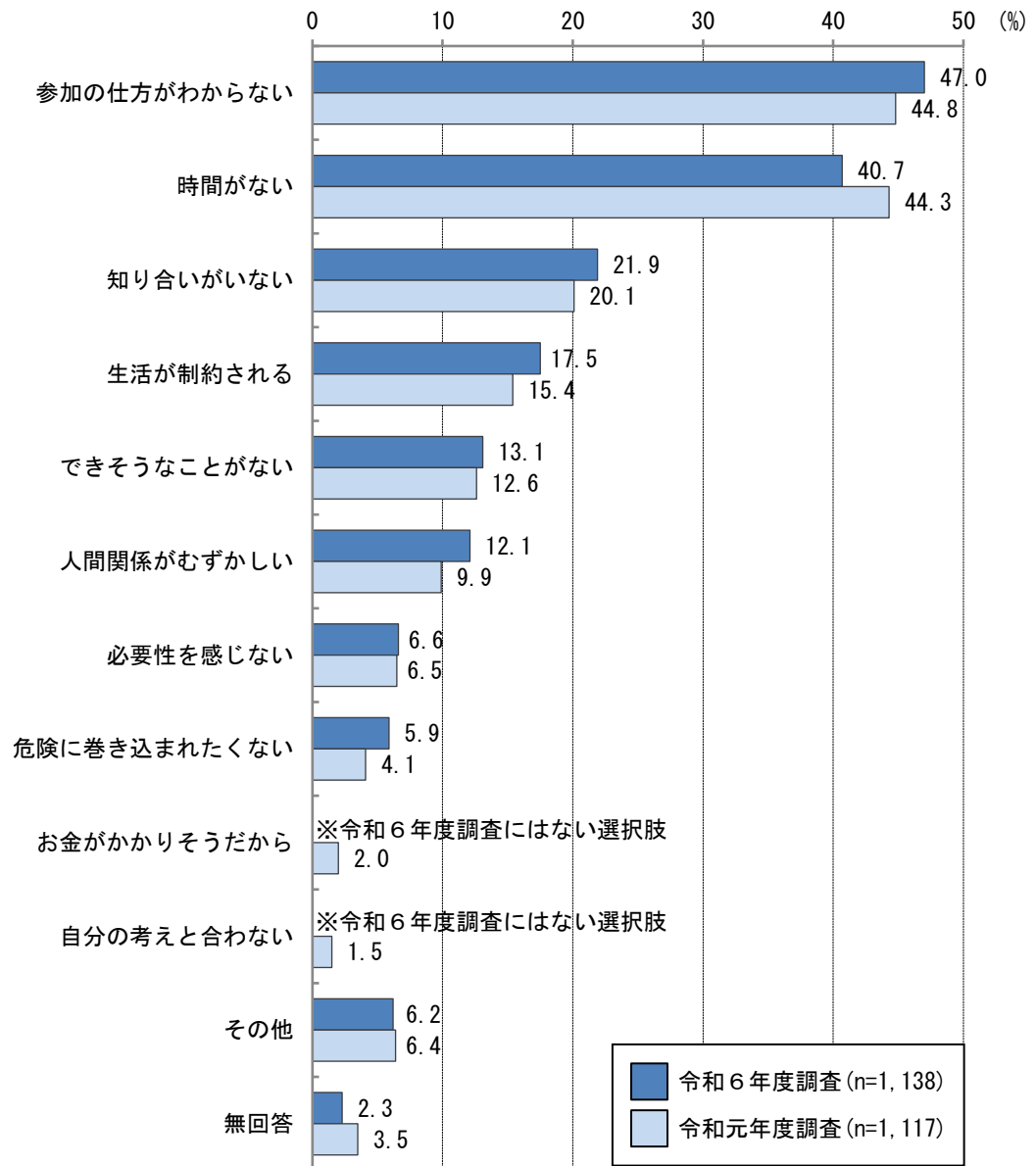


防犯活動の課題について、「参加者の高齢化」との回答が 65.1%と最も高く、次いで「参加者が少ない」(60.4%)などの順となっている。

経年比較すると、「参加者が少ない」との回答は 6.3 ポイント、「活動費用の不足」との回答は 5.2 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

問31 【問27で「2 取り組んだことがない」と回答された方】

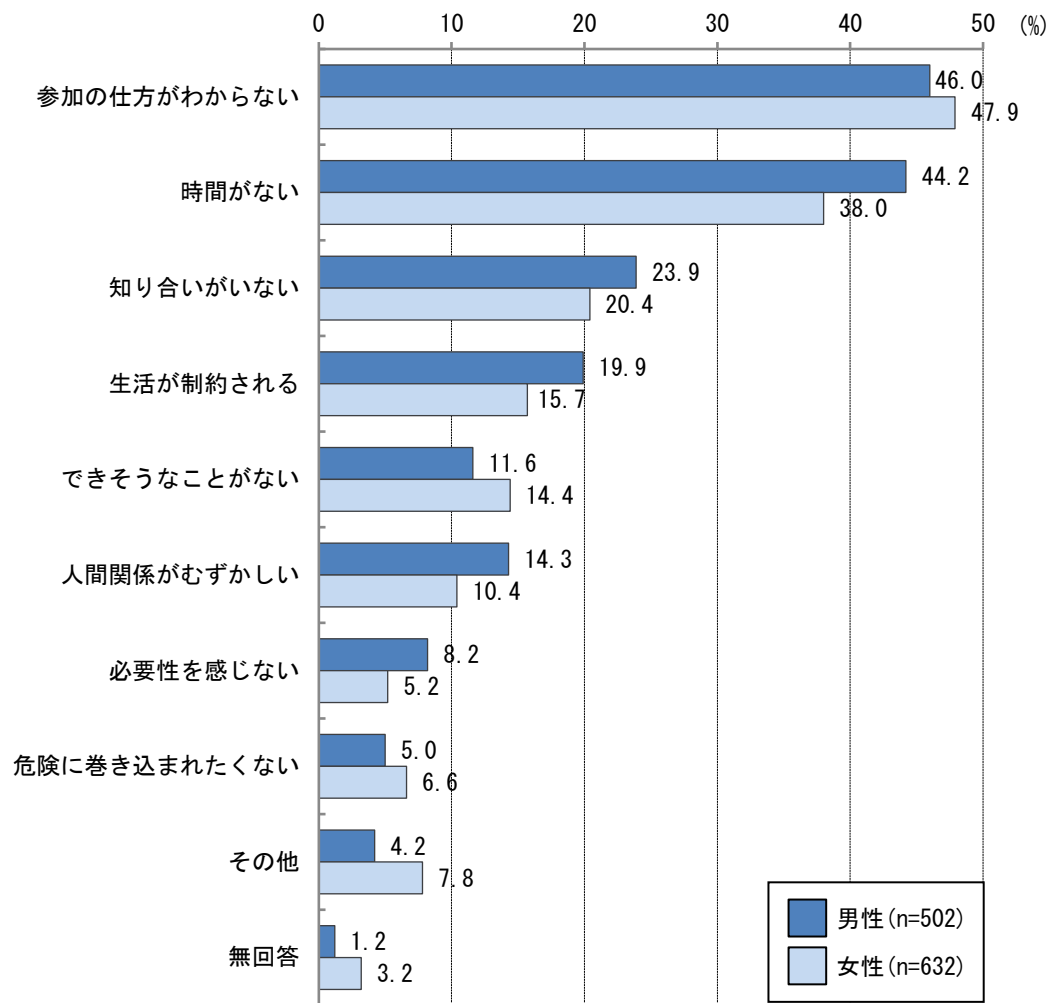
取り組んだことがない理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



防犯活動に取り組んだことがない理由について、「参加の仕方がわからない」との回答が47.0%と最も高く、次いで「時間がない」(40.7%)、「知り合いがいない」(21.9%)などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

【防犯活動に取り組んだことがない理由（性別）】



性別にみると、「時間がない」との回答は男性（44.2%）が女性（38.0%）を 6.2 ポイント上回っている。

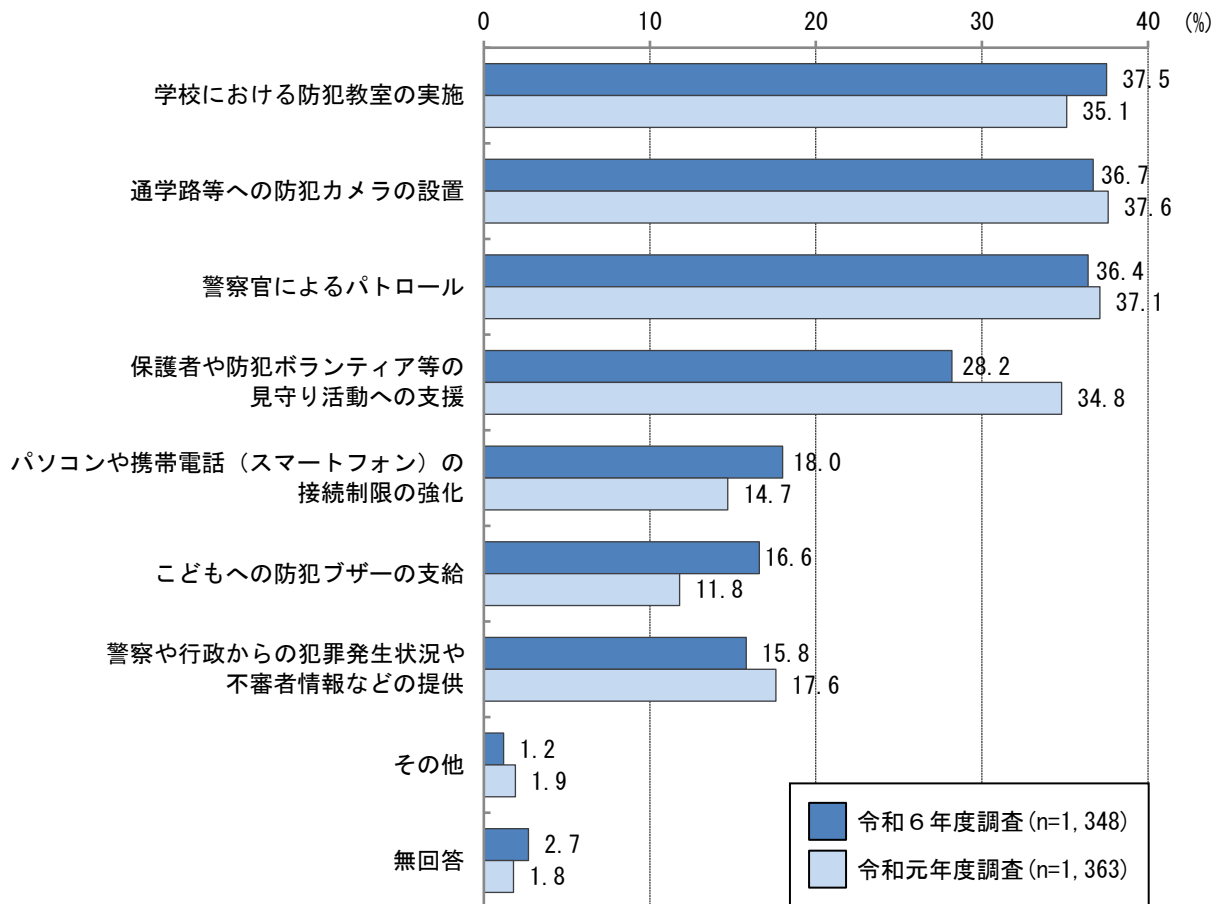
【防犯活動に取り組んだことがない理由（年代別）】

(%)

	件数	い 参加の仕方がわからない	時間がない	知り合いがない	生活が制約される	できそうなことがない	人間関係がむずかしい	必要性を感じない	ない 危険に巻き込まれたくない
全体	1,138	47.0	40.7	21.9	17.5	13.1	12.1	6.6	5.9
年代別	10歳代	20	65.0	45.0	5.0	－	5.0	－	－
	20歳代	84	59.5	50.0	28.6	10.7	8.3	10.7	4.8
	30歳代	131	48.9	64.1	29.0	22.9	10.7	9.9	1.5
	40歳代	146	53.4	58.9	20.5	17.1	6.8	13.7	2.7
	50歳代	208	47.1	51.0	18.8	18.8	11.1	13.9	5.8
	60歳代	197	50.8	39.6	22.3	18.8	13.2	11.2	5.6
	70歳代	221	37.6	20.8	21.3	20.4	15.4	14.0	9.0
	80歳以上	129	37.2	9.3	20.2	10.9	26.4	10.9	11.6

年代別にみると、「参加の仕方がわからない」との回答は 20 歳代で約 6 割、「時間がない」との回答は 30 歳代で 6 割台半ば、「できそうなことがない」との回答は 80 歳以上で 2 割台後半と他の年代と比べ高くなっている。

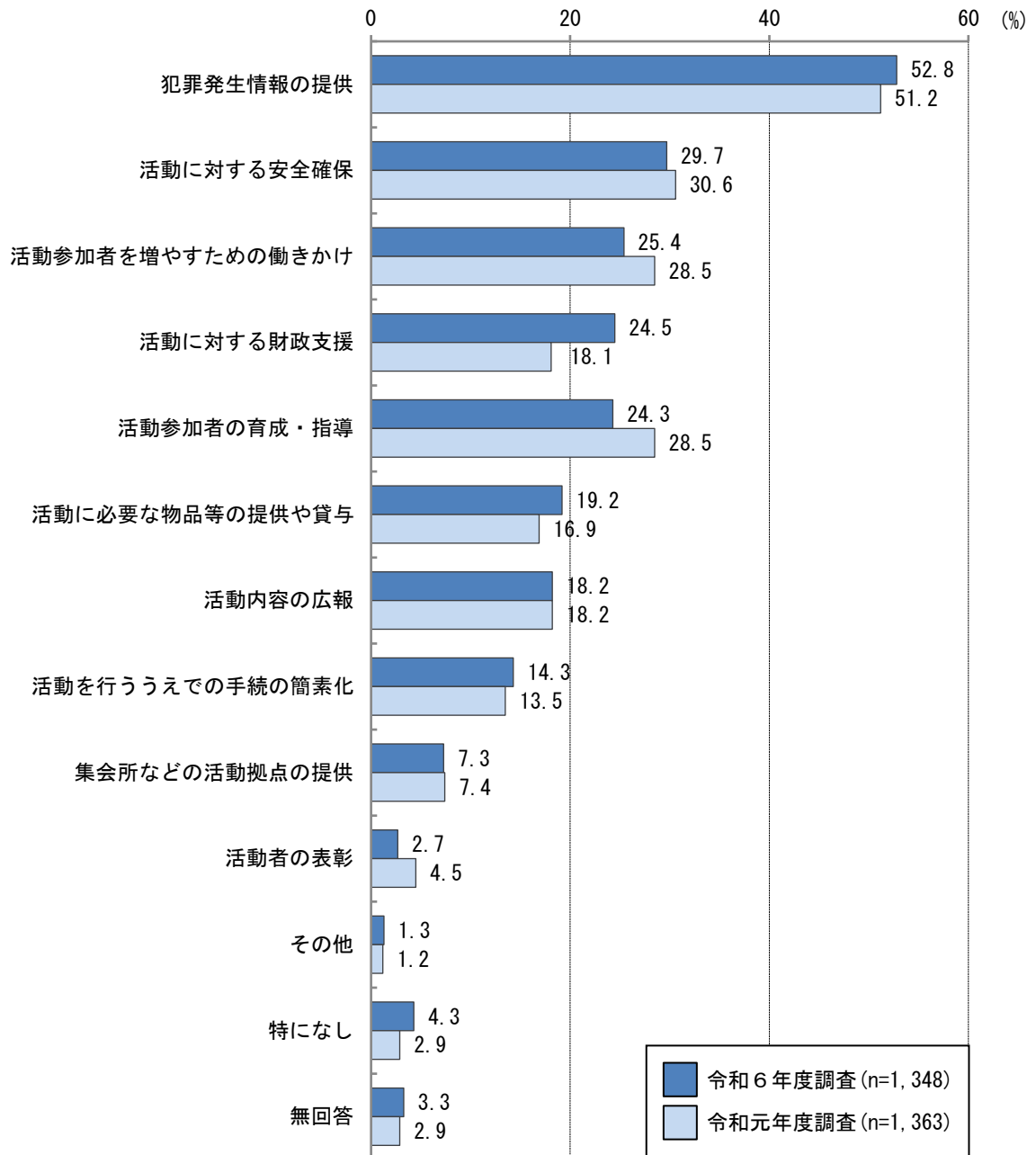
問32 あなたは、こどもの安全対策として、行政や警察がどのような取組を強化することが必要
 と思いますか。(〇は、2つ以内)



こどもの安全対策として強化が必要だと思う行政や警察の取組について、「学校における防犯教室の実施」との回答が37.5%と最も高く、次いで「通学路等への防犯カメラの設置」(36.7%)、「警察官によるパトロール」(36.4%)などの順となっている。

経年比較すると、「保護者や防犯ボランティア等の見守り活動への支援」との回答は6.6ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

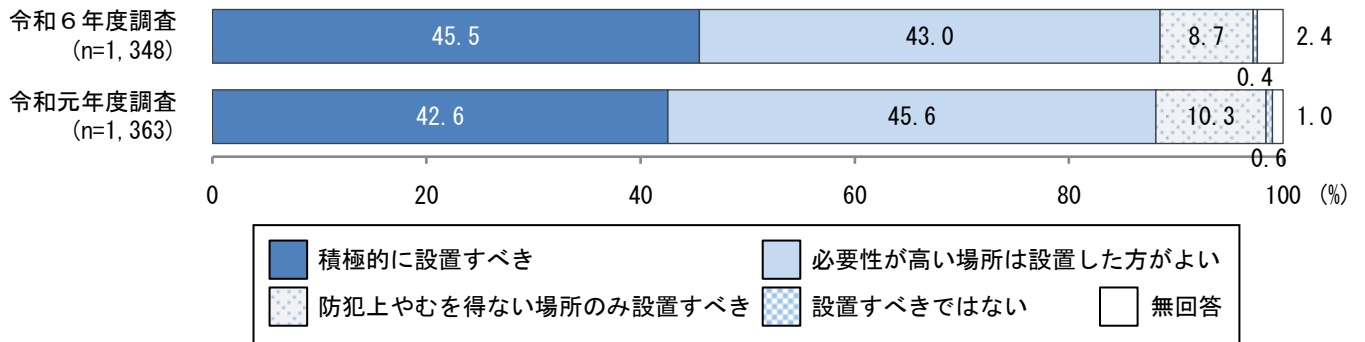
問33 あなたは、地域や個人で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がどのような支援をすれば良いと思いますか。(〇は、3つ以内)



地域や個人で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援について、「犯罪発生情報の提供」との回答が52.8%と最も高く、次いで「活動に対する安全確保」(29.7%)、「活動参加者を増やすための働きかけ」(25.4%)などの順となっている。

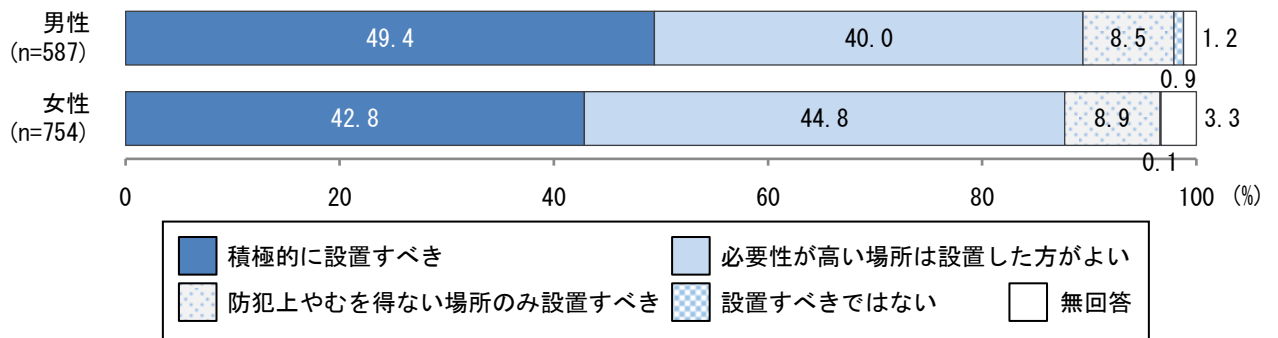
経年比較すると、「活動に対する財政支援」との回答は6.4ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

問34 あなたは、公共の場所（道路、公園など）に防犯カメラを設置することについて、どのように思いますか。（エレベーター内や駅のホームなど特定施設内の管理のためのものは除く。）（○は、1つ）



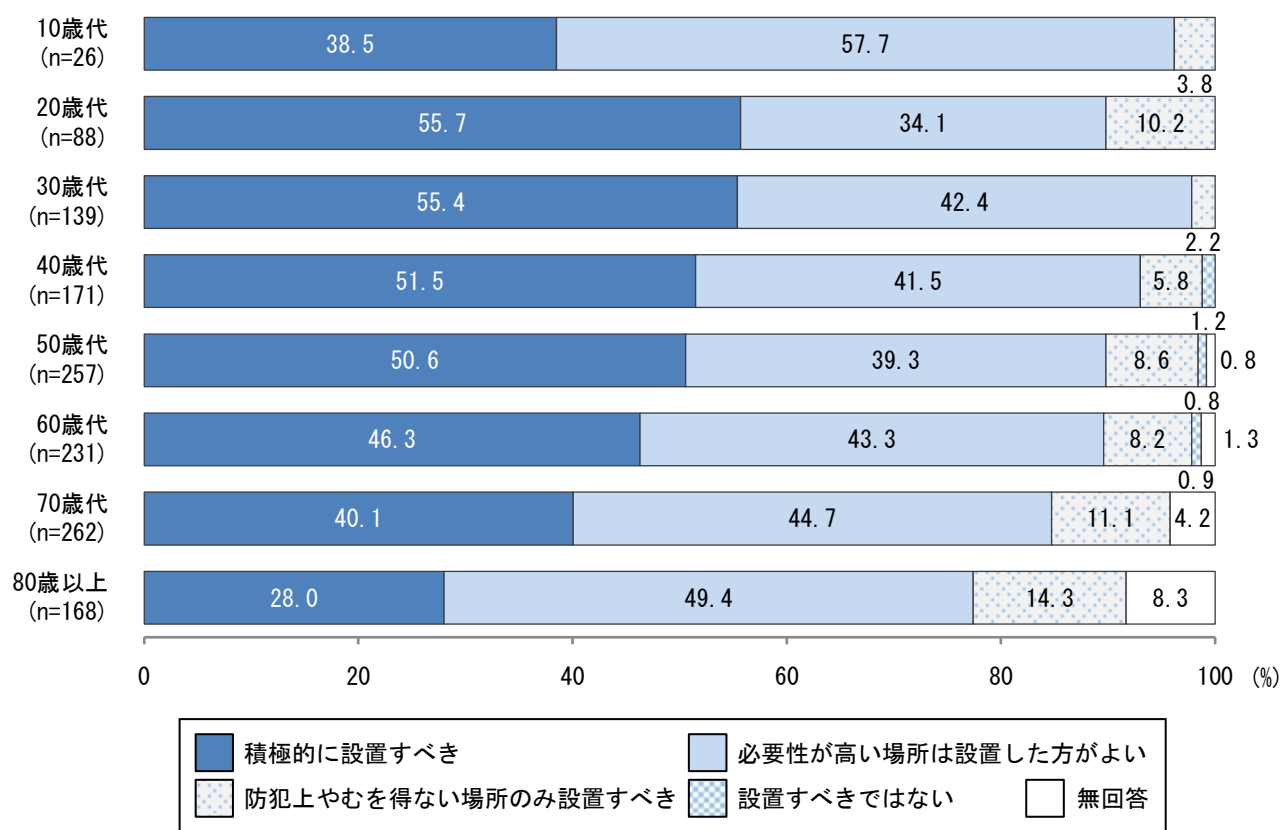
防犯カメラの設置に関する意向について、「積極的に設置すべき」との回答が45.5%と最も高く、次いで「必要性が高い場所は設置した方がよい」（43.0%）などの順となっている。
経年比較すると、大きな差はみられない。

【防犯カメラの設置に関する意向（性別）】



性別にみると、「積極的に設置すべき」との回答は男性（49.4%）が女性（42.8%）を6.6ポイント上回っている。

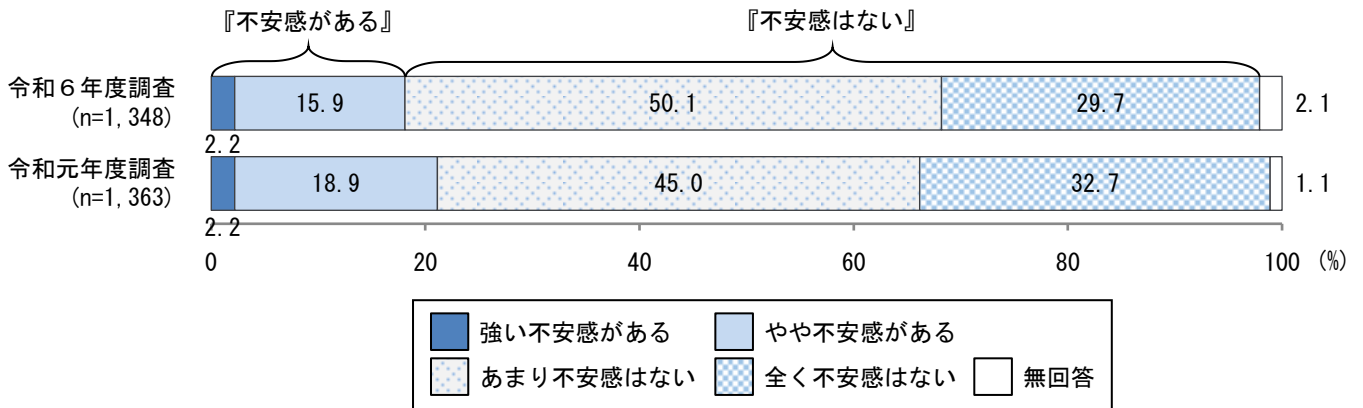
【防犯カメラの設置に関する意向（年代別）】



年代別にみると、「積極的に設置すべき」との回答は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。「必要性が高い場所は設置した方がよい」との回答は10歳代で5割台後半と他の年代と比べ高くなっている。

問35 あなた自身が、防犯カメラで撮影されることについて、どのように思いますか。

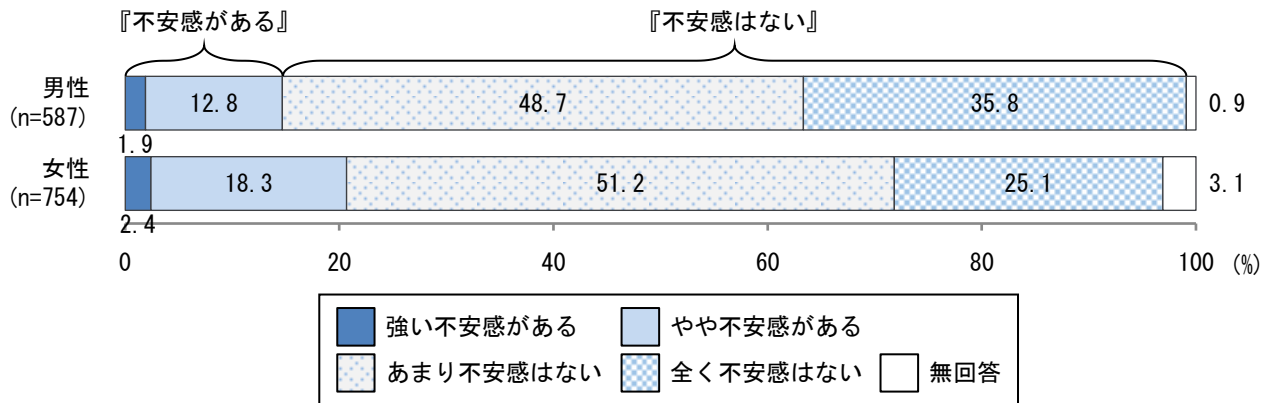
(〇は、1つ)



防犯カメラで撮影されることに対する不安感の有無について、『不安感がある』（「強い不安感がある」と「やや不安感がある」を合計した割合）との回答が18.1%、『不安感はない』（「全く不安感はない」と「あまり不安感はない」を合計した割合）との回答が79.8%となっている。

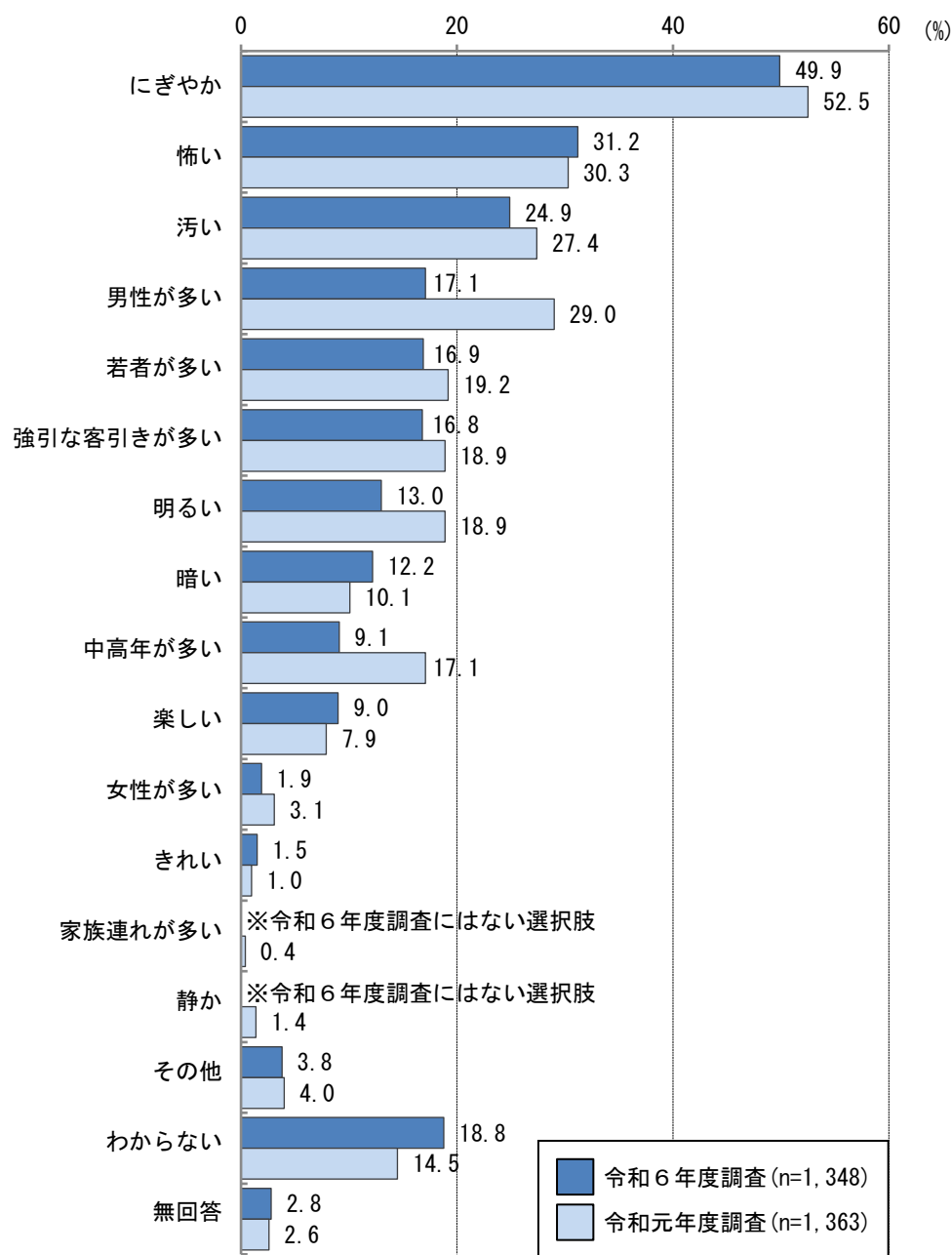
経年比較すると、大きな差はみられない。

【防犯カメラで撮影されることに対する不安感の有無（性別）】



性別にみると、『不安感がある』との回答は女性（20.7%）が男性（14.7%）を6.0ポイント上回っている。

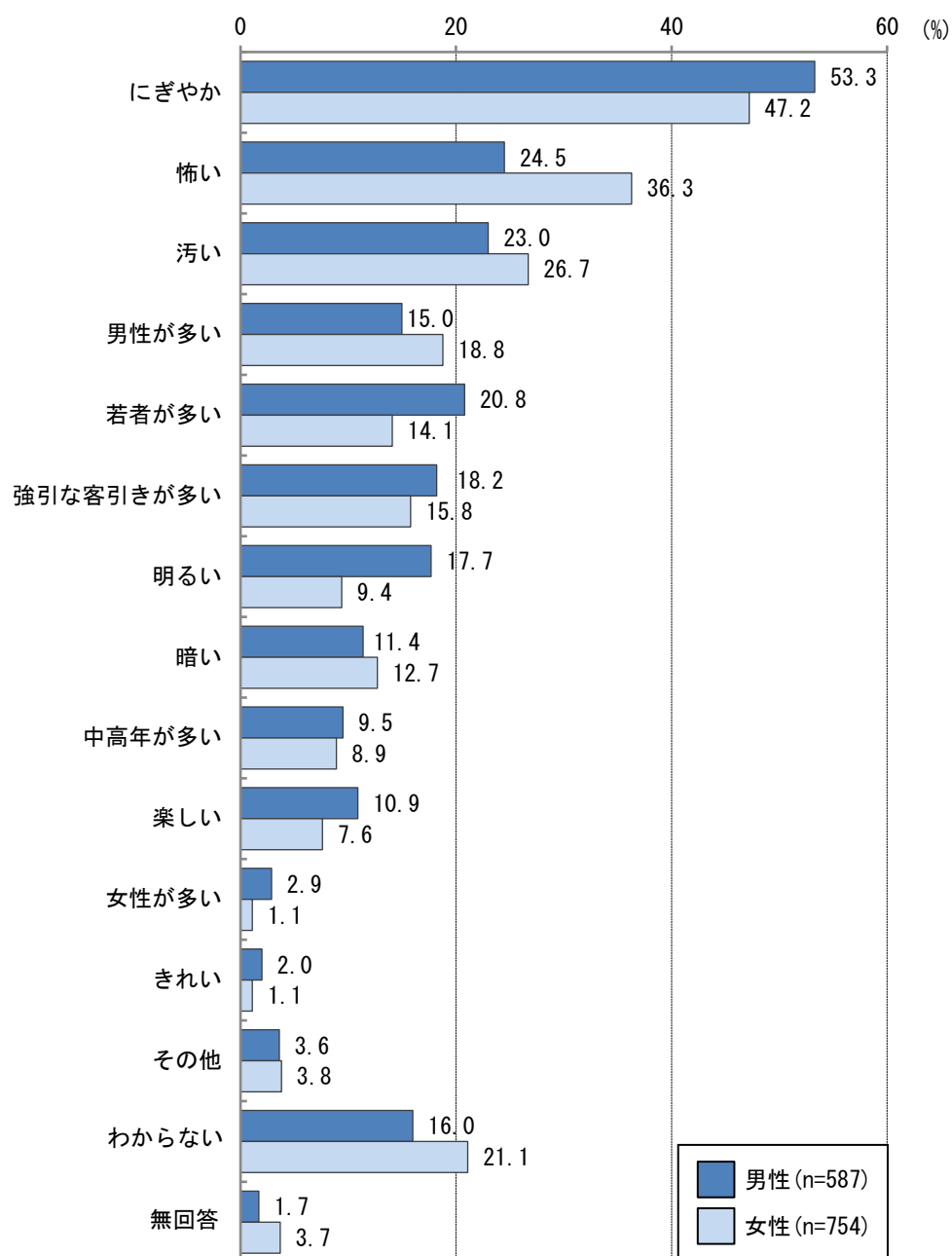
問36 本市では、繁華街の環境対策に取り組んでいます。流川・薬研堀地区の印象（イメージ）をお答えください。（〇は、いくつでも）



流川・薬研堀地区の印象について、「にぎやか」との回答が49.9%と最も高く、次いで「怖い」(31.2%)、「汚い」(24.9%)などの順となっている。

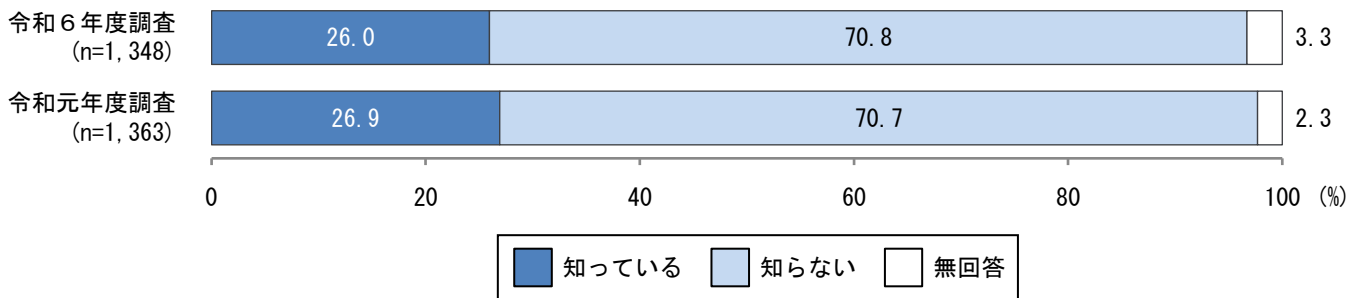
経年比較すると、「男性が多い」との回答は11.9ポイント、「明るい」との回答は5.9ポイント、「中高年が多い」との回答は8.0ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【流川・薬研堀地区の印象（性別）】



性別にみると、「にぎやか」との回答は男性（53.3%）が女性（47.2%）を6.1ポイント、「若者が多い」との回答は男性（20.8%）が女性（14.1%）を6.7ポイント、「明るい」との回答は男性（17.7%）が女性（9.4%）を8.3ポイント上回っている。一方、「怖い」との回答は女性（36.3%）が男性（24.5%）を11.8ポイント上回っている。

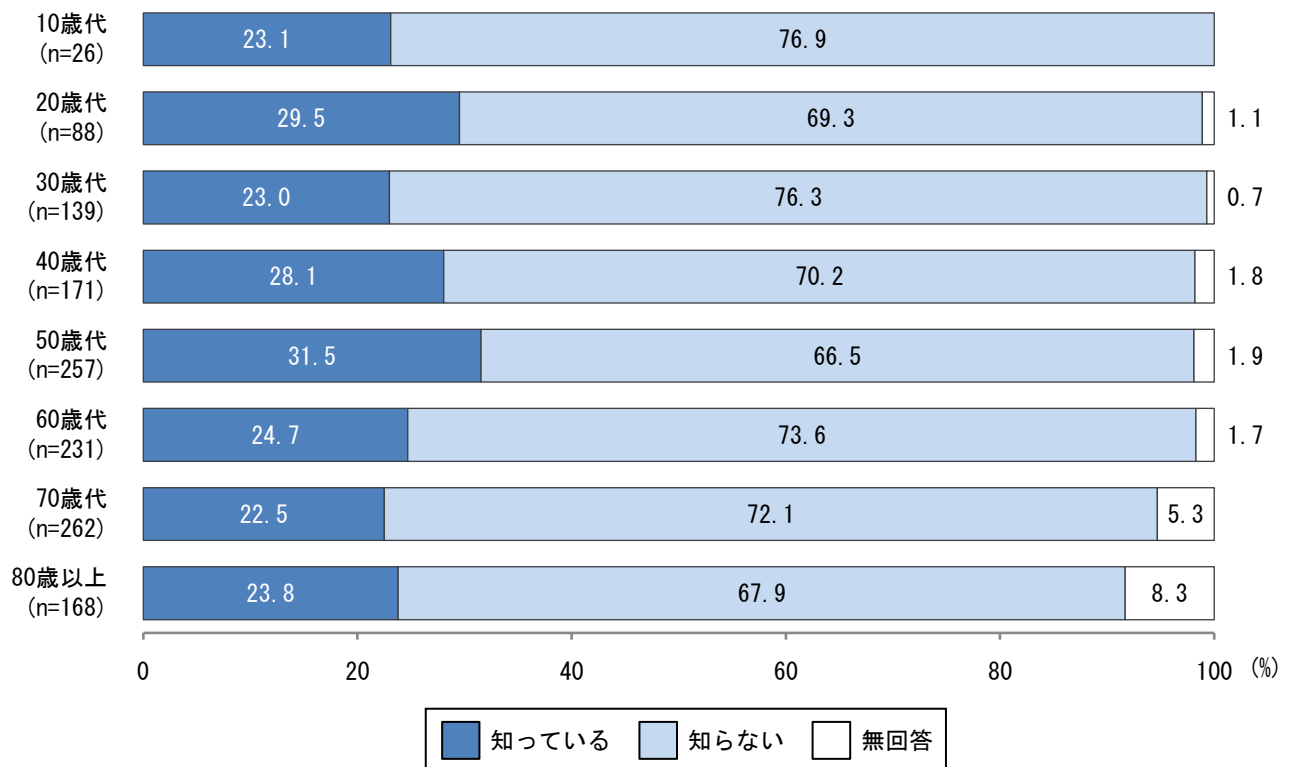
問37 あなたは、行政などに犯罪被害者等のための相談窓口が設置されていることを知っていますか。(〇は、1つ)



犯罪被害者等のための相談窓口の認知度について、「知っている」との回答が26.0%、「知らない」との回答が70.8%となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

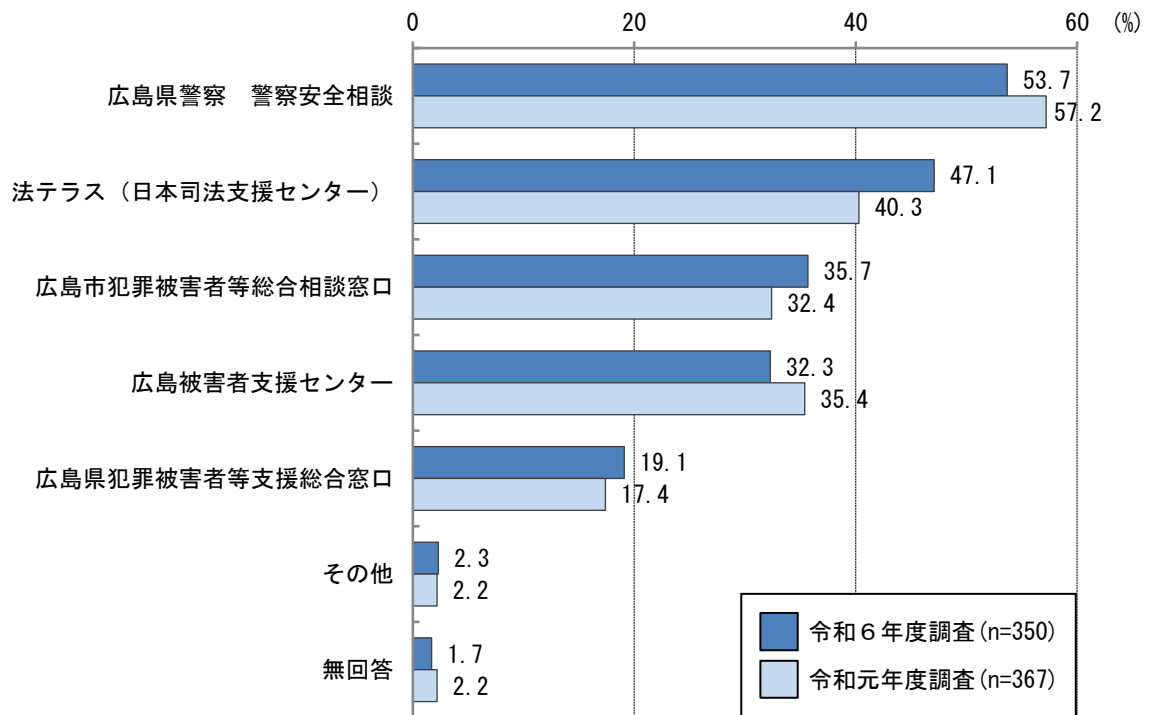
【犯罪被害者等のための相談窓口の認知度（年代別）】



年代別にみると、「知っている」との回答は20歳代、40歳代、50歳代で3割前後と他の年代と比べ高くなっている。

問38 【問37で1 知っているとは回答された方】

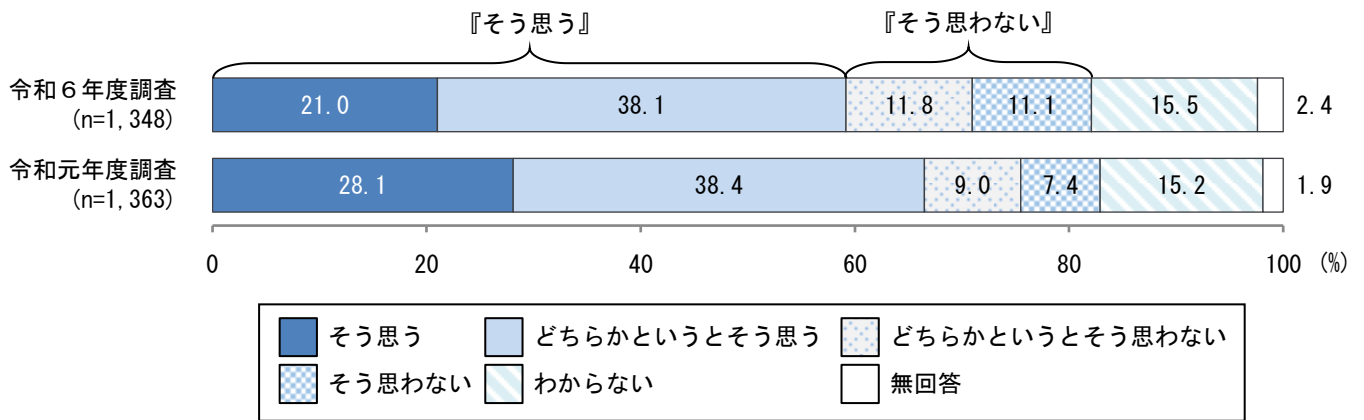
知っている相談窓口をお答えください。(〇は、いくつでも)



知っている相談窓口について、「広島県警察 警察安全相談」との回答が 53.7%と最も高く、次いで「法テラス（日本司法支援センター）」(47.1%)、「広島市犯罪被害者等総合相談窓口」(35.7%)などの順となっている。

経年比較すると、「法テラス（日本司法支援センター）」との回答は 6.8 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

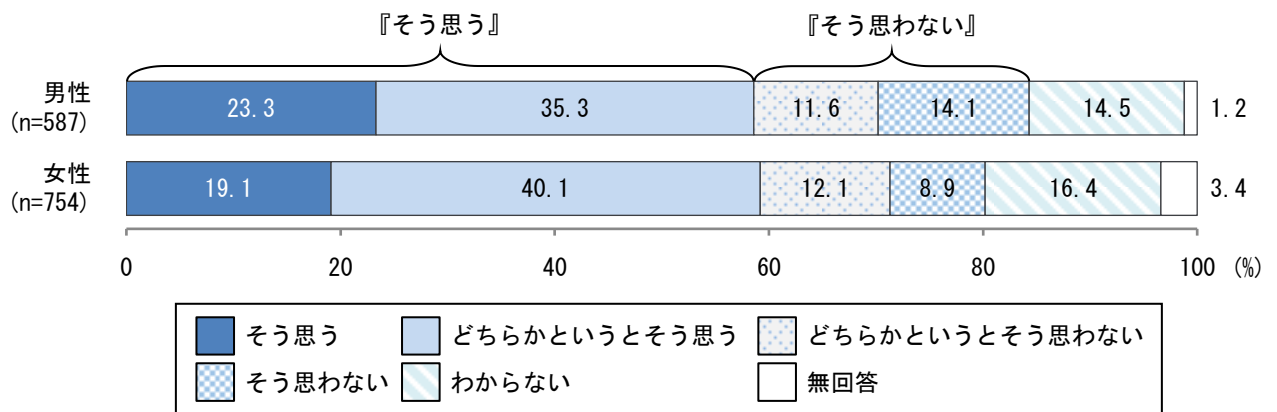
問39 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、あなたはどのように思いますか。(〇は、1つ)



『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、『『そう思う』(『そう思う』と『どちらかというと思う』を合計した割合)との回答が59.1%、『『そう思わない』(『そう思わない』と『どちらかというと思わない』を合計した割合)との回答が22.9%、『わからない』との回答が15.5%となっている。

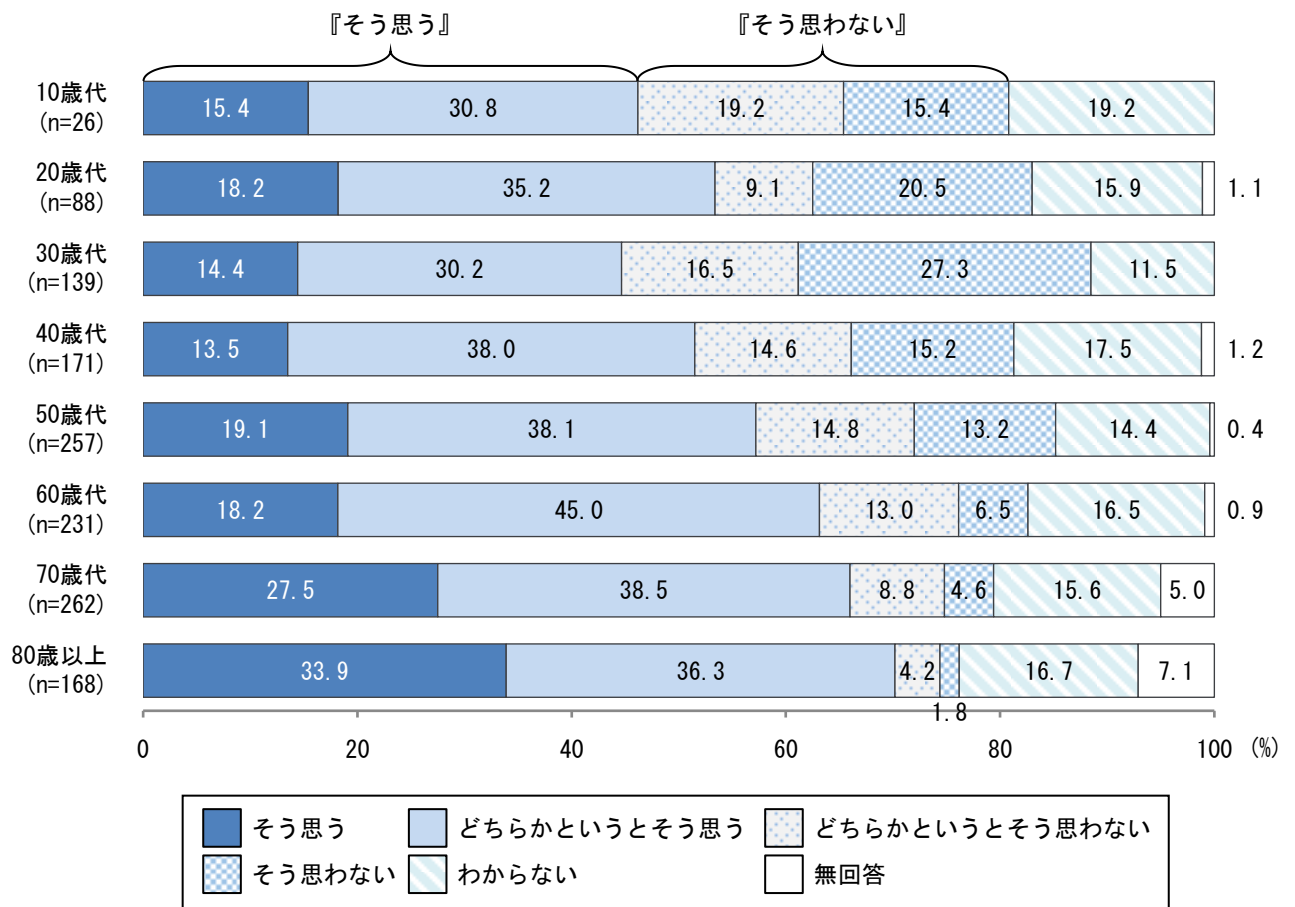
経年比較すると、『『そう思う』との回答は7.4ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について(性別)】



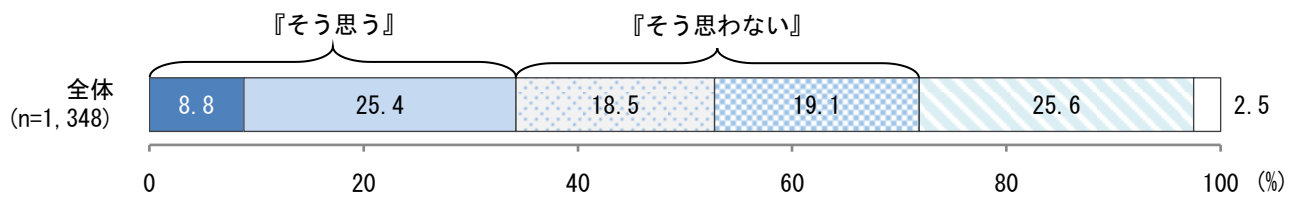
性別にみると、大きな差はみられない。

【『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』
という意見について（年代別）】



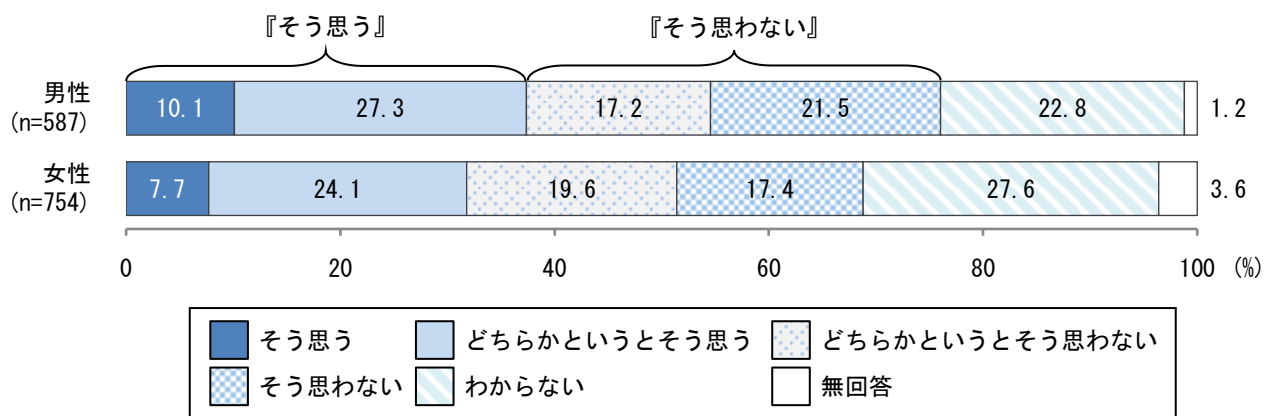
年代別にみると、『そう思う』との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

問40 あなたは、再犯防止の取組として、犯罪をした人たちへの立ち直りに協力したいと思いますか。(〇は、1つ)



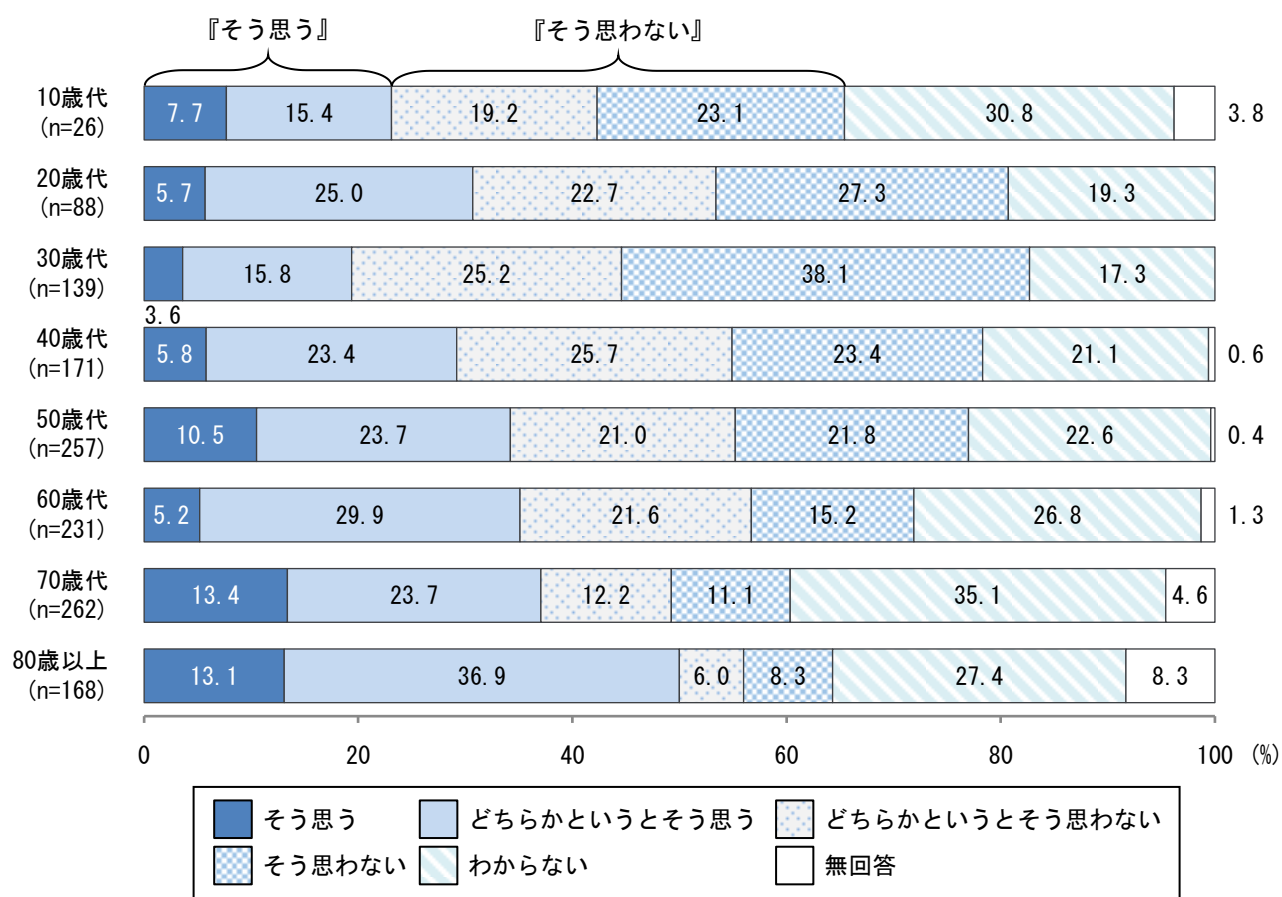
犯罪をした人たちへの立ち直りに協力したいかについて、『そう思う』との回答が34.2%、『そう思わない』との回答が37.6%、「わからない」との回答が25.6%となっている。

【犯罪をした人たちへの立ち直りに協力したいか（性別）】



性別にみると、『そう思う』との回答は男性（37.4%）が女性（31.8%）を5.6ポイント上回っている。

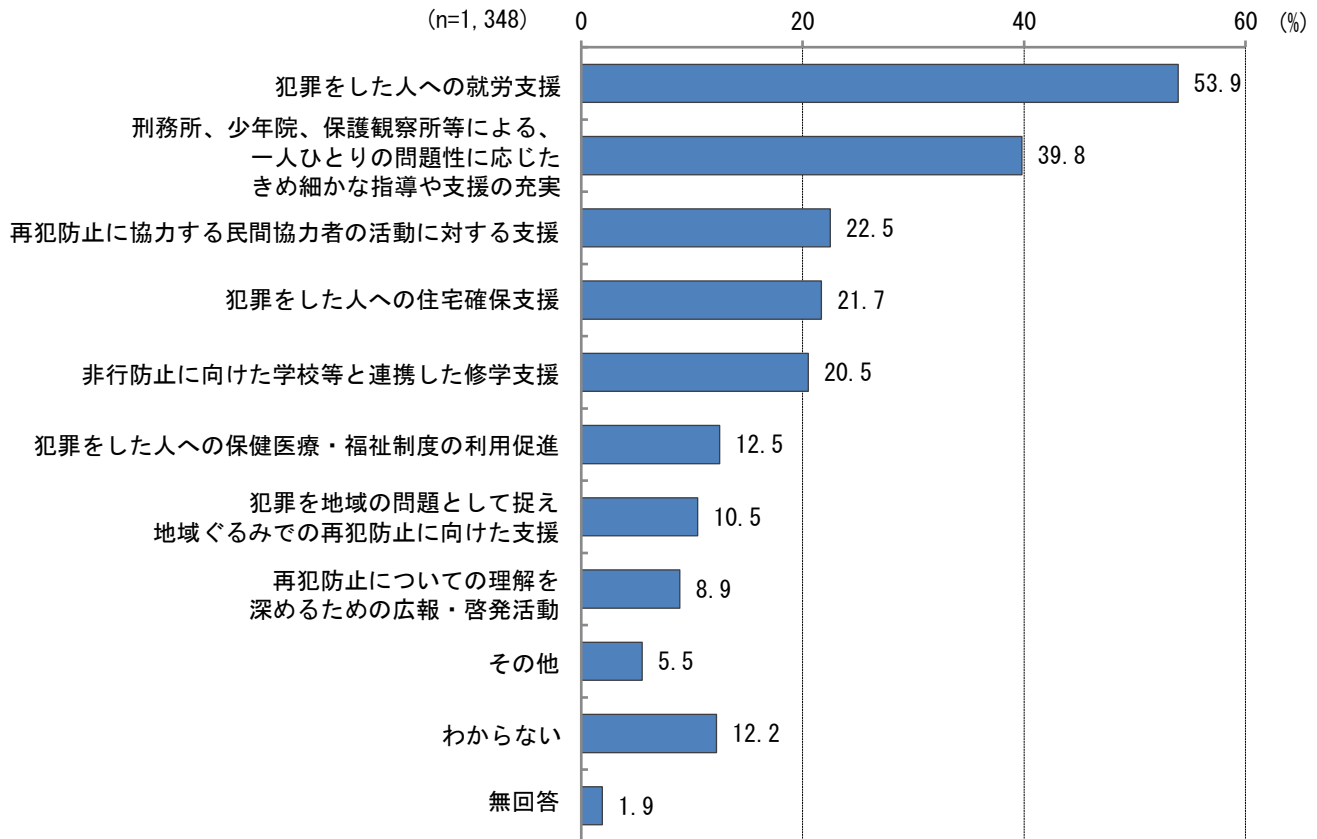
【犯罪をした人々への立ち直りに協力したいか（年代別）】



年代別にみると、『そう思う』との回答は80歳以上で5割、『そう思わない』との回答は30歳代で6割台前半と他の年代と比べ高くなっている。

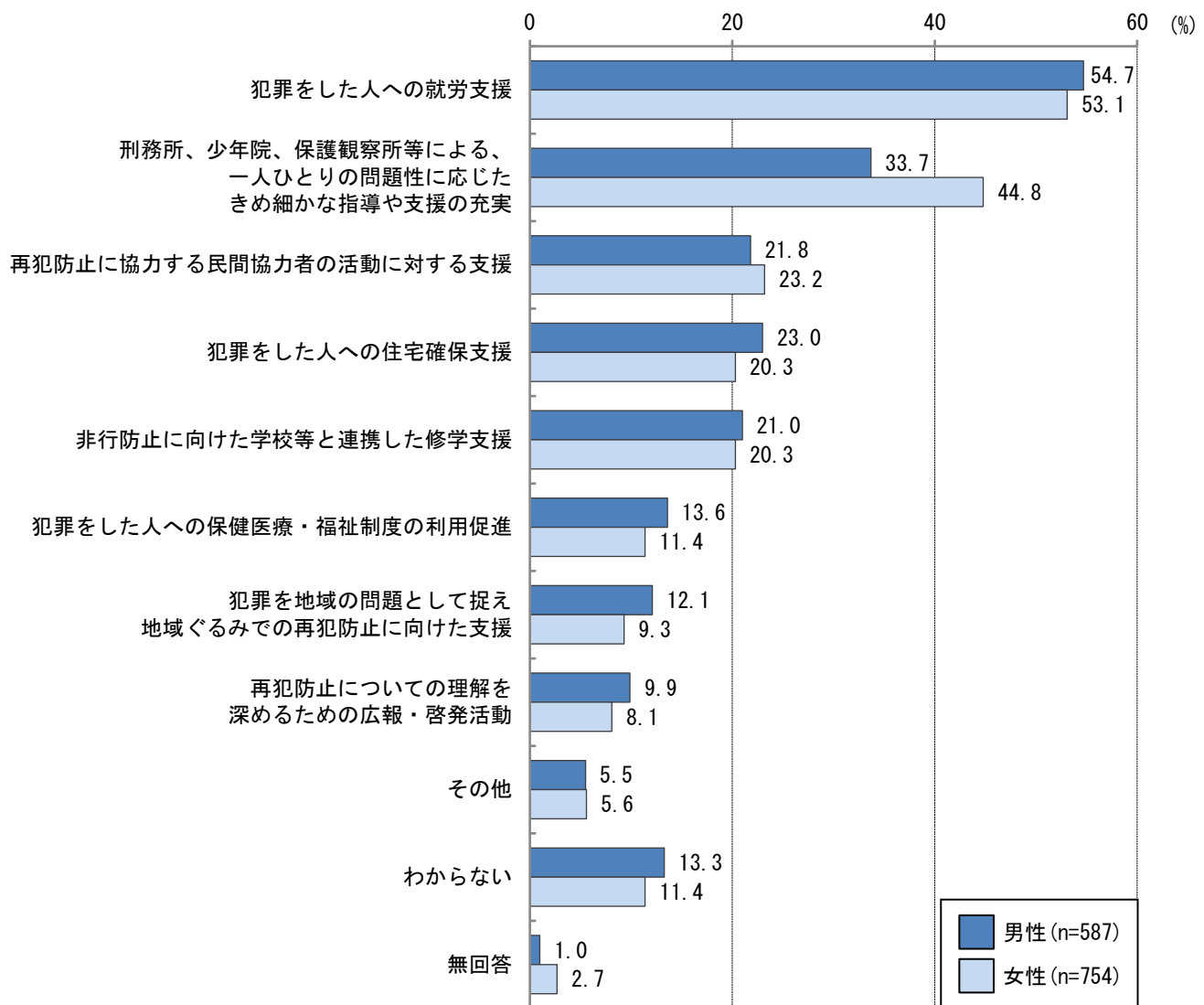
問41 あなたは、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。

(○は、3つ以内)



再犯防止のために必要だと思うことについて、「犯罪をした人への就労支援」との回答が 53.9% と最も高く、次いで「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援の充実」(39.8%)、「再犯防止に協力する民間協力者の活動に対する支援」(22.5%) などの順となっている。

【再犯防止のために必要だと思うこと（性別）】



性別にみると、「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援の充実」との回答は女性（44.8%）が男性（33.7%）を 11.1 ポイント上回っている。

【再犯防止のために必要だと思うこと（年代別）】

(%)

	件数	支援を した人 への就 労	犯罪を した人 への就 労	支援の 充実	一人 ひと りの 問題 性	観察所 等によ る、一 人ひと りの問 題性	刑務所 、少年 院、保 護	再犯防 止に協 力する 民	再犯防 止に協 力する 民	犯罪を した人 への住 宅	等と行 連携し た向 修学支 援校	促進・ 医療・ 福祉制 度の利 用健	犯罪を した人 への保 健	再犯防 止に地 域の問 題とし て	再犯防 止に地 域の問 題とし て	再犯防 止に地 域の問 題とし て	再犯防 止に地 域の問 題とし て
全体	1,348	53.9	39.8	22.5	21.7	20.5	12.5	10.5	8.9								
年代別	10歳代	26	23.1	46.2	11.5	7.7	19.2	7.7	19.2	11.5							
	20歳代	88	43.2	46.6	14.8	15.9	26.1	13.6	10.2	3.4							
	30歳代	139	44.6	52.5	15.8	18.0	23.7	10.8	11.5	6.5							
	40歳代	171	53.8	49.1	22.2	25.1	19.9	11.1	11.7	10.5							
	50歳代	257	54.9	37.4	20.2	23.0	20.6	8.9	9.3	4.7							
	60歳代	231	60.2	41.1	23.4	23.8	17.3	11.3	8.2	9.1							
	70歳代	262	59.2	33.6	27.5	24.4	20.6	14.1	11.1	9.2							
	80歳以上	168	53.6	28.0	29.2	16.1	20.2	19.0	11.9	17.9							

年代別にみると、「再犯防止に協力する民間協力者の活動に対する支援」との回答は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。また、「犯罪をした人への就労支援」との回答は60歳代、70歳代で約6割、「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援の充実」との回答は30歳代で5割台前半と他の年代と比べ高く、「犯罪をした人への住宅確保支援」との回答は10歳代で1割未満と他の年代と比べ低くなっている。

III 自由意見

Ⅲ 自由意見（意見総数305件より抜粋）

※複数の内容を含む意見があるため、意見の合計件数と内容別件数は一致しない。

1 行政への意見・要望について（111件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
近隣に街灯が少なく、あっても暗いので増やして明るくしてほしい。細い道が多く、こどもが飛び出してきて危ないので「飛び出し注意」の目立つ標識を設置してほしい。各所に防犯カメラを設置してほしい。警察の方の講演会を小・中学校で開催してほしい。	女性	60歳代	中区
街灯が減っているので増やしてほしい。夕方5時にもチャイムなどを流してほしい。こどもの登下校時、警察によるパトロールを強化してほしい。高齢者による車の事故を減らすため、早めの免許返納を促してほしい。返納後の移動手段として200円～500円程度で乗れる循環バスなどを増やしてほしい。	女性	60歳代	安佐北区
警察に夜間の団地等人通りが少ない所の見回りをしてほしい。警察には、交通キャンペーンにささいな交通違反を取り締まることばかりに力を入れるだけでなく、防犯に力を入れてもらいたい。近年の強盗ニュースを見て一人暮らしが不安でならない。団地や町を街灯等で明るくし防犯カメラを多く設置してほしい。交番の留守が多いのも不安。警察は事件が起きないと動いてくれないと聞くため、警察に反応してもらえない場合に警察の代わりに相談できる機関を設置してほしい。	女性	60歳代	東区
社会からの孤立、いじめ、人間関係のトラブル、金銭的な将来の不安など、様々な要素が犯罪につながっているのではないかと思います。一人ひとりが幸せに毎日を過ごせるようになれば、安心なまちづくりにつながるのではないかと思いますので、最低賃金を上げたり、失業してしまう人をなくしたり、お金に困らず生活していけるように、きちんと保障してもらえるとありがたいです。	女性	30歳代	東区
財政の無駄を減らしてほしい。日本国内で外国人の犯罪が増えている今、外国人の方々への対応を吟味していただきたい。不法滞在（移民）、生活保護の不正受給等、今一度調査をしてほしい。そこに無駄があれば減らし、真っ当に働く日本人（外国人でルールを守って働く方も含め）安心して暮らせて、そして生活が豊かになるような取組をしてほしい。	男性	30歳代	安佐北区
防犯カメラ、警察の見回り、行政による指導の充実を図っていただきたい。	男性	60歳代	東区

意見・要望	性別	年代	居住地区
通勤・通学を含む生活道路における夜間の防犯のため、街路灯の設置を推進していただきたい。	男性	60歳代	西区
生活保護の受給審査を厳格化し、本当に必要としている人にしっかり行き届くようなシステムが必要だと思う。不正受給を精査し、税金を地域の防犯に使ってほしい。	男性	50歳代	佐伯区
夜中の人気の無い通りなどパトロールを強化してほしい。お年寄りはSNSも見ないし、情報が少ないと思う。家族がいれば色々言ってくれると思うが、一人きりのお年寄りには誰も言ってくれないのでは？詐欺に遭わないよう、行政の方や施設の方など声掛けをして気をつけてあげてほしい。	男性	50歳代	南区
何か犯罪をしてしまう人というのは、少なからず、金銭的に余裕がないというのが原因の一つであると思います（性犯罪は違うと思いますが）。少しずつでも市民の金銭面の負担を減らす、手取りを増やす、そういったことから繋がっていくのかなと考えました。	女性	20歳代	安佐南区
夜間などにおける自転車の無灯火運転や急な飛び出し、ながら運転、ヘルメット無着用を徹底的に取り締まってほしい。特に自転車による交通マナーの悪さは目に余る。そういった人には厳しく、罰則を課してほしい。	男性	50歳代	佐伯区
何か起こった時にどうしたらいいのかわからないことが不安を助長させると思うので、まずはここに連絡するというのがわかるようにする。また、被害者本人は書類を申請するなどの手続きをする気持ちの余裕はないと思うのでフォローをしてくれる制度があると安心感が高まると思う。	女性	30歳代	西区
小学生のこどもがいます。不審者、通り魔、性犯罪など毎日のように報道されており、明日は我が身と日々不安を感じています。少しでもこどもたちが安心して過ごせるように登下校時や放課後に過ごす公園付近などパトロールを強化していただけたらなと願っております。	女性	30歳代	中区
こどもの登下校の見守りを無償の地域のボランティアさんに頼るのではなく、有償のアルバイトなどを雇うなど人員の確保を促してほしい。また地域のボランティアさんに謝礼を渡すなど日ごろの御礼を行政から働きかけてほしい。自助頼みではなく誰もが平等に受けれる公助として、地域の防犯対策の推進のために私達の税金を使ってほしい。形だけ立派な駅ビルや中抜きに税金は使ってほしくない。	女性	30歳代	東区

2 安心・安全に関する意見について（78件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
小学校や中学校の校門に鍵がついていない。誰でも自由に勝手に入れるようになっている。インターホンを付けるなり、防犯カメラを付けるなりもっと学校側のセキュリティをなんとかしてほしい。外から学年クラスが見えるような貼り紙がしてあるので、不審者が教室に行きやすいので剥がしてほしい。学校の防犯意識が低くて通わせるのが不安でならない。どうにかしてほしい。	女性	30歳代	安佐南区
子どもたちが安全に生活できる町づくりは重要だと思う。	男性	60歳代	南区
路上喫煙者が他県に比べ多いと思います。犯罪被害とは全くちがいますが、そのようなところも“治安”だと思います。また、街灯が少ないのか、暗いなど感じる所も多いように思うので、街灯が増えるといいなと思います。	女性	30歳代	東区
広島は道が入り組んでいて、暗かったり狭い所が多いので、街灯を多くしたり朝・夕の防犯パトロールを増やした方がいい。こどもを優先で！！	男性	30歳代	安芸区
私が入居しているマンションは防犯カメラが付いています。以前付いてなかった時は、訪問販売や買い物から帰って鍵をかけた時、階段を走ってきた人がドアノブをガチャガチャと何度も回し、ドアを引っぱられたことがあり、とても怖かったです。防犯カメラが付いてからは、そういうことはなくなり安心して過ごせるようになりました。	女性	60歳代	西区
登校班のない地域もあるようです。我が地域でもPTAの負担を減らすために登校班を廃止しようかとの意見もあるようですが、朝の登校時に性犯罪に遭った小学生のニュースを見てから、やはりこどもを一人で歩かせるのは危険すぎると思いました。PTAにどんな負担があるのかもよくわかりません。情報提供と、できることは地域の大人で協力しあってできたら良いと思います。	女性	40歳代	安佐北区
高齢者の運転事故が怖い。子どもたちの通学路や歩道の整備、免許返納しても交通に不便のないよう取り組んでほしい。	女性	30歳代	南区
どこを歩いても街灯があるようになると安心して暮らせると思う。	女性	20歳代	西区

3 地域や町内に対する意見について（38件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
近所付き合いが薄れているので、町で仲良く助け合える取組があれば良いなあと感じます。	女性	60歳代	西区
地域の交流がない、もっと地域の和が大事。	女性	60歳代	佐伯区
防犯活動において、ボランティアの力によるところが大きいと思うがボランティアの方々への配慮が足りないと感じる。交通費の支給でもあれば、もっと協力してくれると思う。	女性	50歳代	中区
コロナ禍以降、外でご近所さんと井戸端会議がなくなった。お年寄は家から出てこなくなり、施設に入り、新しい家に若い人が来るようになった。若い人は良い人だけれど皆働きに出ていて家にいない。何かあったときに、ご近所に頼れる人はお年寄だけで、頼むのが申し訳なく思う。ますますお年寄が孤立してしまう。ひと昔前は、窓を開けて寝ていたが今は怖くてできない。	-	-	-
外国人労働者が増え、言葉の問題もあり道徳的なことができていません。交通的な問題、就働、食生活など難しいと思うことがあり、特に言葉ができないので困ることがあります。外国人をいじめる人も多く見かけます。なんとかして言葉を教えてあげたい、そのような場所、人を多く増やして町づくりができたらいいと思います。市の皆様、大変だと思いますが地域の方ともっと積極的にお互い話し合い寄り添いましょう。	男性	70歳代	佐伯区
地域の防犯力を高めてほしい。呼びかけも増やしてほしい。	女性	10歳代	安佐北区

4 モラルやマナーについて（19件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
ポイ捨て、信号無視等の軽犯罪を見逃さない。いじめという言葉が犯罪としっかり認識させる。	男性	50歳代	東区
治安は悪化していると実感しています。これくらいなら許されるだろうという雰囲気が強くなっていると感じます。マナーやルールなどを簡単に壊してしまう。「自分らしさ」を大切に…と主張しながら、守るべきことは無視。刑法犯として認知される程ではないこと、でも迷惑かけていたり、傷つけていたり、それが積み重なって突然キレル人など…。人の気づかない所、目に見えない罪が増えています。	女性	40歳代	佐伯区
私が小学生のころ道徳の時間がありました。現在の学校は、受験勉強の教育で「人の価値」など教えない。せめて小学生の時くらい道徳の時間を設けてほしいものです。いじめ、不登校、暴力、現在の親はどのくらい意識しているのでしょうか。	男性	70歳代	安佐北区

5 防犯教育について（8件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
罪を犯した際にどういう刑になるのかを学校の授業で知るきっかけになってほしい。	女性	20歳代	安佐南区
若年者のSNS使用制限はやむを得ない状態にまでなっていると思います。昔（2000年代）は、ネットに繋ぐにも多少の知恵がいりましたが、今の簡単に発信できる現状は、事理弁識能力がないこどもに銃を持たせて外を歩かせている状態のような気がします。本来ならば、人間付き合いの間にある程度のクッションが必要なのに、それを取っ払った状態になっていると思います。	男性	50歳代	安佐北区
防犯対策として、小学校や中学校などで若いうちから講演等を行ってほしい。地域で行われていても、結局参加するのはお年寄りばかり。時間や興味関心がないことを理由に広げるのは難しいと思う。	女性	40歳代	安佐南区

6 防犯意識について（24件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
市民の防犯意識を高めることには正直限界があると感じる。どうしても他人事として捉えてしまう。正常性バイアス、被害者になるかもしれない市民の意識を改善するよりも、加害者にしないよう、罪を犯す前に食いとめる抑止力に財源を使った方が良いと思う。	男性	30歳代	東区
自宅に居ても巻き込まれる犯罪が多い昨今、ネット社会は便利な一面も多いが、一步間違えると怖い時代。情報過多も悪いが、ある程度の情報提供が無いと知らないまま被害者にも加害者にもなる可能性があることを自覚して注意しようと思う。	女性	60歳代	中区
独居、核家族、共働き等が増えている現代、こどもから高齢者まで、個々の防犯意識を高めることが大切だと感じています。自分の身は自分で守る知識を身につけていきたいと思います。	女性	40歳代	東区
若年層の防犯への興味関心知識を高めることが必要だと思います。高齢者による見回り等はむしろ高齢者の生き甲斐支援を超えないように感じ、防犯とは別視点で見る目が必要だと思います。	男性	50歳代	中区
コンビニで働いているのですが、たまにプリペイドカードを買いに来られる高齢者がおられます。声をかけるのですが、嫌な顔をされたり、「自分は大丈夫」と言われ、それ以上は言えません。プリペイドカードと一緒に渡せるカードサイズくらいの注意喚起のできる物があつたらいいと思います。	女性	50歳代	南区

7 その他の意見について（51件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
今回初めて市がアンケート調査をしていることを知りました。自分の思っていることが少しでも市や町、安全なまちづくりに協力できたので嬉しいです。	女性	50歳代	西区
安全なまちづくりをしてもらいたいが、それで仕事が増えてしまい不幸な人がでるくらいなら対策はしなくて良いと思います。業務の時間内に終わることをしてほしいです。	男性	20歳代	安佐南区
引き続き、幅広い年齢層の方から意見を聴取して安全なまちづくりを目指してほしい。	男性	40歳代	安芸区
犯罪を何度かしてしまった方と関わることがありました。つとめということもあり、真摯に向き合ったと思いますが、やはり犯罪をしてしまう人（特に性犯罪など）の更生や関わり方はとてもむずかしいことだと実感しました。専門知識や、自身の自衛が可能な環境も必要です。	女性	30歳代	中区
理論だけではなく、実行力を高めていただきたい。	男性	70歳代	安佐南区
このようなアンケートに初めて参加させていただきまして、自分が様々な取組を知らないなと思いました。逆に言えば自分が安全に暮せているのもこのような取組があるからなのかと感じました。これからも安全なまちづくりの計画を続けていってほしいと思います。	男性	40歳代	佐伯区

名 称 広島市安全なまちづくりに関する
市民アンケート調査報告書
発 行 広島市市民局市民安全推進課
所 在 地 〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6-34
電話 082-504-2714
FAX 082-504-2712
発行年月 令和7年3月
登録番号 広 C2-2024-490